

調査研究シリーズ30

学校図書館における読書指導の効果的な方法の開発研究

平成8年度 第8回委託研究助成論文集

もくじ

発刊に際して	林部一二	1
講評	四宮 晟	2
講評	勝部真長	3
講評	佐野金吾	4
講評	堀井啓幸	5

小学校の部 もくじ	7
-----------	---

中学校の部 もくじ	97
-----------	----

発刊に際して

当研究財団 専務理事 林部 一二

最近の青少年達は活字本を読まないという印象が一般的である。果たしてそうであろうか。当研究財団ではこの事態を明らかにするため、平成6年度から計画を立て、一つは「児童・生徒の読書の実態とその指導に関する調査研究」を行い、既に、平成8年3月、当財団調査研究シリーズ「29」として発刊した。さらに同報告書のダイジェスト版として、「子どもの読書と親の願い」（全家研「こころの文庫」の調査から）を刊行して、子供達の読書の量・質とくに家庭における読書指導の実態を明らかにしてきたところである。

しかし、当代の子供達の読書指導の本山はやはり小・中及び高等の初等中等教育諸学校にあることは言うまでもないことであるが、これについては、文部省や学校図書館協議会等の調査研究の結果に待つ外ない。

学校図書館については、既に昭和28年法律第185号をもって法律が制定施行され、その学校教育における新しい発展の方向が期待されるが、図書、設備等の学校図書館の運営と、さらに重要な専門的指導者であるべき「司書教諭」制度を設けながら、実質的には任意設置としたため、学校図書館の充実並びに子供達の学力の上昇は余り期待されないで今日に至っている。

けれども、全国の小・中の先生方の中には児童・生徒の読書指導に極めて熱心であって、上記のような状況の中でも、黙々として立派な指導を続けていられる事態を見落としてはならない。当研究財団もささやかながら、これ等の先生方の研究に寄与しようとして、この「学校図書館における読書指導の効果的な方法の開発研究（学校等への委託研究）」を行ったのである。

この「委託研究助成論文集」は2年計画をもって研究を進め、今回、その全編を同時に発刊致すこととした次第である。応募数は、小学校18件（団体研究15、個人研究3）、中学校4件（団体研究2、個人研究2）であったが、審査委員の先生方の慎重審査の結果、小学校団体5件、個人3件、中学校団体1件、個人1件、計10校に委託を結実したのである。

その研究の内容は、それぞれの地域社会の読書気運や住民達の意向と、当該各学校の教育精神によって、特色ある指導の立案、実際指導、さらにその検証と次のステップへの発展の意欲が見事に報告されている。この報告書が、必ずやわが国の学校図書館の内容的な指導に多くの示唆を与えられるであろうし、各学校ではこれを大いに活用してほしいと願うものである。

時あたかも、制度的にも大きく動き出そうとするニュースが出現した。本月8日、参議院文教委員会において、司書教諭の義務設置が近い将来に実現するであろうということである。まことに喜ばしいと思う。

「学校図書館における読書指導の効果的な方法の開発研究」講評

千葉大学名誉教授 四宮 晟

「学校図書館における読書指導の効果的な方法の開発研究」の応募22篇の中から10件が選ばれ、助成金の交付を受け、ここに研究成果が発刊されることとなった。誠に喜ばしいことである。私はその審査委員の一人として参加したので、感想を記せばつぎの通りである。

まず、私がどんな観点を持って選考に当たったかという点、

第一は、研究主題の設定がわれわれ財団の委託研究の趣旨に沿っているかどうか――

第二は、研究のねらい―研究の内容と方法―研究の実践と考察―研究のまとめと今後の課題と、全体を通じて論述のすじ道が通っているかどうか―という点である。

応募論文中、主題の設定とねらい、内容、方法の整合していないものがあつた。また、計画は立てられているが、研究の実践の段階に入っていないものが散見されたが、二年間という限られた日数以内では、研究の結果をまとめる余裕も無いだろうと、これらは選考から除外した。更に、結果の考察とまとめのところでは、考察が欠けているのは論外であるが、結論が作文に終始しているものがあつた。結論は実践の結果得られた資料に語らせなければ研究にはならない。

第三は、今回に限らず、教育実践での論文に多く見られる傾向であるが、論文として不適切な用語があつた。不適切という意味は、日常会話に使用される用語は、研究論文では努めて節すべきだということである。例えば、手元にある某校研究紀要の一節に、「たしかに読み、豊かにふくらむ国語学習」「感情を耕す」「読みにおける着陸、離陸」……とある。表現しようとしている気持ちはわからないでもないが、多義に受け取られ、概念内容が曖昧な表現は、研究論文での表現としては妥当でない。研究では、誰にでも一義的に解釈されるような用語を選択することである。かと云って難しく表現すれば、概念規定が明確になるとも云えない。本当によくわかっている時は、簡潔に、しかも易しく表現できるものである。「ひとことと言えどどうなるか」自問してみるとよい。この間に答えられないようでは、未だ理解が不十分だと承知したい。

以上の観点から、私は研究論文として、

「読書意欲を高かめ、好ましい読書習慣を育てるための指導はどのようにすすめたらよいか」―楽しく生涯学習につながる読書指導―（福井県、敦賀市立敦賀西小）

「主体的な読書活動を支援する学校経営」（茨城県、日立市立大久保小）

「学校図書館における読書指導の効果的な方法の開発研究」―子ども達の自主的・意欲的な委員会活動を中核にして読書の輪を広める方法―（山梨県、甲府市立琢美小）

「図書資料を有効に活かし、自ら学ぶ生徒の育成」（神奈川県、津久井町立申川中）

「生徒に興味・意欲を抱かせる古典指導」―古典学習における集団読書および図書の私用―（広島県、福山市立本朋中）

の五篇は、わかり易く明解で、論旨が通っている点、ねらい―方法―結果の考察が明確である点評価したいと思う。

しかし、これはこの主題での研究論文としてであつて、札幌市学校図書館協議会のような地域全体の取組み、京都府立鶴舞養護学校の実践、香川県高松市立仏生山小の親子読書の長年の取組みなどは、異なった観点に立てば評価を惜しむものではない。また、長野県宮田小、岐阜県滝呂小の研鑽もその労を多としたい。

日本各地での学校図書館の充実を通して、子どもたちの活字離れ、読書離れが改善され、感性と情緒豊かな心が育つよう祈念して止まない。

講 評

御茶の水女子大名誉教授 勝部 真長

1. 京都府立舞鶴養護学校
2. 札幌市学校図書館協議会
3. 福井県敦賀市立敦賀西小学校
4. 長野県宮田村立宮田小学校
5. 茨城県立日立市立大久保小学校
6. 香川県高松市立仏生山小学校
7. 岐阜県多治見市立滝呂小学校
8. 甲府市立琢美小学校
9. 神奈川県津久井町立申川中学校
10. 広島県福山市立東朋中学校

1. マンガについてどう思うのか。

右応募校10校のうち、日立の大久保小が、「ドラえもん」について触れたのみで、他はおしなべてマンガに関してノータッチである。

今日、子供の読書は圧倒的にマンガに押されている実情を無視することはできない。マンガに対してどう考え、どう対処し、子供のマンガ志向をどう指導するか、の一応の対策があって然るべきではないか。

2. 古典についての指導

読書といえば古典との取組みが何より大切である。古典に触れたのは敦賀西小（坊ちゃん、ロビンソン・クルーソー）、福山の東朋中（竹取物語）であって、他は古典を重く見ていないようである、古典に親しむ努力が、教師自身に薄いのであろうか。やはりわが国の伝統文化への接近、吸収のためにも、もっと古典を重視したい。クラシック（古典）とは、古くて、いつも机辺の手もと（典は六の上に並ぶ何冊かの本を示す字）にある本という意味である。

3. 朗読と暗誦と

読書は黙って字を読む（黙読）よりも、声に出して、朗読し、さらにこれを暗誦するところに意味がある。その読み方の上手下手の指導が大切である。詩の朗読、暗誦に触れたのは敦賀西小で、これはもっともっと奨励するべきである。東朋中が、「百人一首でおぼえよう」の提唱しているのは、大いに賛成である百人一首などは国民の共通の財産であって、中学生なら卒業までに全部暗誦していいくらいである。カルタ取りも大いにやったらいい。

4. 歴史上の人物とのかかわり

札幌市立学校が「信長・秀吉・家康」をとりあげ、座談会の形式で、その人物になりきろうという試みも、読書を活性化させる一つの方法であるといってよい。歴史と人物とへの子供の興味・関心を深めることが、読書をいきいきしたものにさせる効果はあるはずである。

講 評

新宿区立西戸山中学校長 佐野 金吾

平成元年に告示された学習指導要領による教育活動が行われるようになってからかなりの時間が経過しています。今回の改訂では従前からの調和のとれた人間の育成に加えて、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成、個性を生かす教育の充実などが学校教育の理念として示されています。したがって、児童生徒が主体的に取り組むことのできる学習活動や学習環境がこれまで以上に大切となります。

学校内で児童生徒が主体的に学習できる場としては学校図書館が最も恵まれています。学習指導要領でも、「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の中で、「視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図るとともに、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図ること。」とあります。学校図書館が十分に児童生徒によって活用されることを期待しています。

今回、応募した研究報告書では、たんに読書指導と学校図書館についての研究ばかりではなく、教科指導と学校図書館とのかかわり、学校図書館と家庭との連携、図書館における活動と教育課程への位置付けなど、学校図書館が学習センターとして機能するような取組がみられました。また、研究を進める基本的な態度としては、生涯学習における学校教育の役割と言う視点にたったの学校図書館の活用ということが重視されていました。大変重要なことととらえています。

一定の目標に向かって教育活動を行うとすれば、それなりの計画が必要となりますが、多くの報告書が十分に検討した計画が盛り込まれていました。また、特定の担当者による活動よりは学校の教職員が共通理解のもとに連携して組織的に活動すれば、その効果は非常に大きなものを期待できますが、この点につきましても、かなり工夫した運営がみられました。さらには、読書の習慣を身につけるためには家庭との協働が必要ですが、この点についての工夫にも注目すべき報告がありました。

生涯学習社会にあっては、子どもの教育は学校・家庭・地域社会三者の役割分担の明確化とバランスが重要であることが、中央教育審議会の第一次答申で指摘していますが、地域の図書館との連携によって、指導の充実を図った事例の報告もありました。今後は、施設としての地域の図書館との連携ばかりでなく、図書館の人材の活用、教材としての図書館とする考え方が大切でしょう。となると、教育課程は学校内の教育活動に留まりません。学校外の教育機能を取り入れた教育課程についての研究開発が必要となってきます。新たな研究の発展を期待しています。

講 評

帝京女子短期大学助教授 堀井 啓幸

京都府立舞鶴養護学校 豊かな心を育む読書活動

病気による体験不足を補うために読書活動を充実させるという実践の意義は、読書の教育的意義を踏まえたものであり興味深い。教育機器、コンピュータソフトの活用が中心となっているように見えるが、調べ学習に用いる読み物の選定が今後の課題。

札幌市学校図書館協議会 リーディング・アンド・ラーニング

S L Aを中心として行われている「寄託図書」によってすでに子どもの読書環境は高いレベルにあることがわかる。改めて、事例6の吟味が、生涯学習と各学校の読書指導との関連性を強化する立場から必要であろう。

敦賀市立敦賀西小学校 読書意欲を高め、好ましい読書習慣を育てるための指導は

あらゆる機会、場を通じて、読書指導を行っている実践の密度の高さを知ることができた。詩の朗読も興味深い実践だが、言葉の美しさを実感させること、創作させることと徹底的に読書を楽しませようという実践は明確に区別したほうが効果的では？

宮田村立宮田小学校 自らの読書生活を拓く子どもの創造

読書指導教員と図書館司書の増員が、この実践の出発点であり、蔵書数においても、指導組織においても、不十分、未確立の状態から抜けていないので、課題の達成は今後の課題である。増員された教員、司書の役割を明確にしたい。

日立市立大久保小学校 主体的な読書活動を支援する学校経営

主題に学校経営とあるのだから、学校の組織的教育活動に、読書活動をいかに位置付けるか問われよう。現状では、校長の理念が先行し、各学年や学級、図書館における指導との連携があまり行われていないように思われる。

高松市立仏生山小学校 豊かな心を持ち自ら学ぶ子どもを育てる学校図書館

すでに11年を数える親子読書活動の実績は今回の課題においてもその実践が基盤になっていると思われるが、報告書をみる限り、その点が明らかでない。ことばカードや生き生き図書館の実践が子どもの生活と結びつくには親子読書との関連が問われる。

多治見市立滝呂小学校 豊かな心と自ら学ぶ意欲を育てる滝呂小図書館をめざして

国語の授業が「楽しい」という子どもが増えたのは、当初の実践のねらいが達成されている証拠とみてよいだろう。高学年による本の紹介は興味深いですが、逆に、低学年、中学年の子ども

達に読書を楽しませる工夫にどのようなものがあったのか問われよう。

甲府市立琢美小学校 学校図書館における読書指導の効果的な方法の開発

図書委員会という子ども主体の委員会を中心に読書活動を展開していこうという実践はそれだけで十分意義がある。図書委員になりたい子どもが増えたという事実がその充実を示しているが、委員構成等全学年に広げていくと新たな実践が展開されまいか。

津久井町立串川中学校 図書資料を有効に活かし、自ら学ぶ生徒の育成

実際に、この実践の成果とされている「本を読む」生徒の割合等の読み取り方は疑問が残る。他の中学生と変わらないのでは？本の情報交換等の実践は今後とも継続して本に親しむ中学生を少しずつ増やしてほしい。

福山市立東朋中学校 生徒に興味、意欲を抱かせる古典指導

今橋先生のこれまでの素晴らしい実践を、もう少し全校的に展開していくことはできないのだろうか。古典に興味をもてるならば、学年読書、全校読書の機会を通じて、いわゆる本嫌いの中学生は減少していくのではないだろうか。期待したい。

総 評

研究委託校を決定する時にも感じたことであるが、小学校からのすぐれた内容の応募が多く中学校からの応募は量的にも質的にも見劣りがした。それは、実践の成果にもそのまま表れている。

それは、高学年になるほど、中学校になると、本を読まない子どもがふえる、本嫌いが増えるという状況があるからなのか。また、いくら指導しても、高等学校入試の関係等で本を読めない状況が障害になっているのか。

しかし、たとえ、読書指導に困難な状況があったとしても、小学校における読書指導とのつながりから、また、中学校独自の指導の在り方の創造という観点から、中学校での読書指導の改善をはかっていくことが早急に求められることを実感させられるような結果であった。

も く じ

小学校団体研究の部

- 豊かな心を育む読書活動 京都府立舞鶴養護学校 8
- リーディング・アンド・ラーニング 札幌市学校図書館協議会 18
- 読書意欲を高め、好ましい読書習慣を育てるための指導は
どのようにすすめたらいいか 福井県敦賀市立敦賀西小学校 28
- 自らの読書生活を拓く子どもの創造 長野県宮田村立宮田小学校 43
- 主体的な読書活動を支援する学校経営 茨城県日立市立大久保小学校 56

小学校個人研究の部

- 豊かな心を持ち、自ら学ぶ子供を育てる学校図書館
香川県高松市立仏生山小学校 植田晶子 64
- 豊かな心と、自ら学ぶ意欲を育てる滝呂小図書館をめざして
岐阜県多治見市立滝呂小学校 小栗武子 77
- 学校図書館における読書指導の効果的な方法の開発研究
山梨県甲府市立琢美小学校 山田とし子・石原祐子 87

豊かな心を育む 読書活動

— 病弱教育の充実発展を図る図書館教育の在り方 —



京都府立舞鶴養護学校

小学部

I. 主題設定の理由

(1) 本校の概要

本校は、入院治療を続ける小・中学生が通学する小・中学部設置の病弱養護学校である。

医学の進歩、治療法の変化のため入院期間が短縮化（平成7年度平均在籍日数260日）し、在籍者も漸減（平成9年1月7日現在で小学部17名、中学部15名）している。4月からの延べ在籍数は69名となり、転出入の激しい状況にある。さらに、一般慢性疾患（ネフローゼ、腎炎、喘息、肥満など）が6割をしめ、病種病類も多種多様でありちえ遅れを併せ持つ児童・生徒も在籍している。

(2) 主題設定の理由

本校児童・生徒は幼児から病気をもち、病院や家庭で闘病生活を続ける者が多く、生活制限からくる体験の不足や社会性の乏しさが見られる。これらを起因とする課題、即ち「児童生徒が自らのものの見方や考え方をもって主体的に判断し行動できる力を培う」が自己教育力をつけるうえで大きな課題となった。

そのため、児童・生徒が思いを豊かにし自分の意見を表現できる場として児童生徒会活動・学級活動を中心に、話したい相手づくり、内容づくり、話し方の工夫に取り組んだ。さらに病気をもちながらも強く、明るく、豊かに生きるための力として、豊かな心を育む読書活動の研究を進めてきた。研究実践を進める中で読書活動の持つ教育的意味が、病弱教育の目指す自己管理能力の育成（病気に負けず、しっかりとものを見、判断し、考え行動する力をつけ、自己実現していく）にも大きく関わっていることも確認し、主題を設定した。

(3) 研究のねらい

研究主題である「豊かな心を育む読書活動」の取り組みの中で本年度は、調べ学習を中心に以下の視点で授業研究を試みた。

- ① 児童が生き生きと活動する調べ学習の授業の工夫改善
- ② 児童の生活体験・既習学習を生かした調べ学習
- ③ 読書活動との関わり
- ④ 少人数における教え合い学び合う集団の育成
- ⑤ 個に応じた手立て（発達の遅れのある児童の読書指導）

Ⅱ. 小学部の読書活動

1. 読書活動を支える環境づくり

児童が読書に親しめ楽しむために①感動する本を用意する。②読書の楽しさとの出会いを作る。③読書を楽しむ児童の心に共感する。④児童の読書活動を広げ、読書体験を深める工夫をする。以上の点を基本的な考えとした。

〈具体的な取り組みと児童の様子〉

(1) 水曜日は「読書の日」

全学年、年間計画に基づき毎週水曜日の5校時に「読書タイム」を実施した。利用指導は、月はじめの水曜日に合同朝の会で「ブックモーニング」として位置づけて、各学年で受け持ち、児童が中心になって実施した。1時間の読書タイムと短時間のブックモーニング、読書宿題日の組み合わせにより充実した内容となった。

(2) 公共図書館の利用

①学年毎の貸し出しカードを利用し、調べ学習に必要な本、季節の本、児童からのリクエストの本、フォト紙芝居などをたくさん本を借りることができた。これらの本は、教室のキャスター付き書架（学級文庫）に入れ、新鮮な読書センター、情報センターとして位置づけた。

②公共図書館にもない本の取り寄せ、購入などレファレンスサービスを受けた。

③公共図書館司書の方に依頼し「ブックトーク」を実施した。アイルランド民話「ちっちゃいちっちゃい」にはじまり、ちっちゃいシリーズの展開、なかでも「のみのピコ」は、児童に大反響であった。

④公共図書館主催の「エプロンシアター講座」を教師が受講し、読書タイムに活用した。

(3) 家庭との連携

①図書日より、学級日より、学部日よりで児童と本のつながりについて日々の様子を促し、家庭への協力も呼びかけた。

②1学期の「調べ学習発表会」では、読書郵便を児童が家族に出した。自分の発表内容のPRと参観の依頼を書いた。その結果、多数の参会者のなかでの発表会となった。会場からは、発表内容について質問も来た。即答したり、「また、調べておきます。」と返答するなど児童の生き生きした学習活動の場となった。

(4) コンピューターの利用

調べ学習の資料検索できるコンピューターソフト「本悟空」は、利用度も高い。今年度は、「コンピューター昆虫図鑑」を購入した。昆虫の豊富なデータ、ファール昆虫記の抜粋、昆虫の絵の印刷もでき活用した。

(5) 「学校図書館の利用指導」

月	読書タイム	ブックモーニング
4	☆図書室利用のきまりを知ろう。 ・図書の貸し出し・読書貯金の仕方	
5	☆市立図書館の利用の仕方を知ろう。 ・長期貸し出しの利用開始	
6	☆資料の検索をしてみよう。 ・「検索ソフト本悟空」をつかって	☆友だちの本の紹介を聞こう。(2年)
7	☆夏休みの読書の計画を立てよう。 ・ブックトーク・選定図書の紹介	☆読書郵便を出そう。(4年)
9	☆夏休みに読んだ本の紹介をしよう。 ・読書感想文・読書感想画	☆図書記号クイズに挑戦しよう。(1年) (ラベルと仲間分け)
10	☆市立図書館へ行こう。	☆子ども新聞を読んでみよう。(5年)
11	☆いろいろな図書や資料の利用法を知ろう。	☆視聴覚資料を利用しよう。(6年)
12	☆冬休みの読書の計画を立てよう。 ・ストーリーテリングを聞こう。	☆紙芝居を聞こう。(3年)
1	☆冬休みに読んだ本の紹介をしよう。	
2	☆調べたことを発表しよう。 ☆本のジャンルを広げよう。	☆先生の好きな本を聞こう。(院内)
3	☆1年間の読書を振り返ろう。	

2. 「本は友達」から「調べ学習」へ

(1) 本と友達になろう

小学部では、「本と友達になろう」を合言葉にして、読書活動の研究に取り組んできた。週1回の読書タイム、読書宿題日が定着し、児童は、読み聞かせや本の紹介を楽しみに待つようになった。また、図書室へ足を運ぶことも多くなり、友達が読んでいる本にも興味を示し、読書に対する意欲が高まってきた。

この成果を生かし、疑問に思ったことや興味をもったことについて、テーマを立て、調べる内容を決め、図書や資料、実地見学、実験などのいろいろな方法で調べ、自分で理解した範囲で考え、まとめ、発表する主体的な学習方法を身につけさせる調べ学習に取り組んだ。

(2) 調べ学習のねらい

- ① 調べ学習を通し、体験を補い、視野を広める。
- ② 調べ学習を通して、「自ら学ぶ学習法」を身に付け、生涯学習の基礎を育てる。
- ③ テーマ設定・調べる・考える・まとめる・発表することによって、学習への意欲、計画性、持続性、集中力、緻密さ、発表力などの力の育てる。
- ④ 調べた内容を比較、分析、関連づけをし、まとめるなど表現方法を工夫し、他教科の学習の中に役立てる。

(3) 読書目標と調べ読み学習目標

	読 書 目 標	調べ読み学習目標
1年	・やさしい読み物を楽しんで読もうとする態度を育てる。	・なぜかなと思うことを調べ、絵や文に書いて知らせる。
2年	・やさしい読み物を自分から進んで読もうとする態度を育てる。	
3年	・いろいろな読み物を読もうとする態度を育てる。	・疑問に思ったことを調べ、自分なりにまとめて、発表する。
4年	・読書のジャンルを広げるようにする。	
5年	・読書を通して、考えを深めるようにする。	・自分の課題を追求し発展させ、生活に生かそうとする。
6年	・適切な読み物を選んで読むようにする。	

(4) 調べ学習における学習過程〈別表①〉

低・中・高学年別の調べ学習の学習過程（つかむ→調べる→まとめる→広げる）は、別表のとおりである。学習活動の中で、つきたい力を検討し作成した。

(5) 調べ学習年間計画表〈別表②〉

調べ学習を役立てる各教科の単元を検討し、年間計画表を作成した。

(6) 研究時間

事前研、授業研、事後研を学部研究会（毎木曜日）で積み上げ、日常の実践を大切にした。

Ⅲ. 調べ学習の実践事例

(1) 直接経験を生かす調べ学習

入院生活は、家族と離れ、治療、病気に対する不安などストレスの多い生活である。その上、自然との関わりを持つことは、生活制限も多く難しい。可能な限り自然に働きかけ外に出て生き物を探しに行くことや、室内で生き物を飼育することは、生活に変化を与え学習意欲を増進させる。自然の事実をとらえさせることを大切にし飼育や栽培を直接体験させ、疑問、発見を調べ学習に生かすのである。1年生の教室でバッタやかたつむりを飼育し遊ぶことができた。そこで、育て方について本で調べ発見したことをお話発表会でビデオに編集して発表した。

2階教室横のプランターでは、あさがおやミニトマトを栽培。登校すると水をやりその様子を全校朝の会で自主的に発表した。

教室の中に生き物がいて観察できる状態は児童の興味や関心、意欲を高め、今までの経験のうえに、本を活用し疑問を調べる意欲につながった。

(2) 教育機器を生かした調べ学習

2年生は生活科「乗り物に乗って」の単元で実際に病院前からバスに乗車しバス会社の車庫見学に出かけた。初めてバスに乗る体験をした児童もいた。本で得た知識が実際に確かめることにより、より確かなものとなった。見学後、バスの設備について疑問に思ったことなどの質問をまとめ再度バス会社の方に協力を依頼し、回答を実物と対比させた分かりやすい児童の実態に応じたビデオに編集できた。

(3) 資料収集と調べ学習

4年生の社会科において「福岡県」の単元を京都府に入れ替え、府内各市町村に児童自ら葉書を書き、資料の送付を依頼した。児童宛に資料が届くたびに歓声をあげ、熱心な学習態度へとつながった。その資料を活用し、京都府の各市町村の特産物、公共施設、観光名所マップを作成した。児童の居住する市町村の資料は、念入りに興味深く調べ学習に取り組んだ。マップ作りで各市町村の位置、面積も学習でき、能動的な授業展開ができた。

また、収集した資料は、各市町村別にファイル化し図書室の調べ学習コーナーに設置した。

(4) 学習課題を引き出す調べ学習

高学年では、学習課題を児童自らに立てさせることで学習意欲を引き出した。

<課題を持たせるための手立て>

- ① 学級文庫に事前に関連する図書、資料を入れ関心を持たせる。
- ② 学習内容を予告し、手持ちの図書、資料を持参させ、関心を高める。
- ③ 課題を立てる提示資料を精選（適切な量と内容）し課題を立てやすくした。
- ④ 児童が興味や関心をもちやすい導入の工夫。

(5) 学習の遅れのある児童の調べ学習

学習のおくれのある児童は、歴史の学習で興味をもったこと、ふだんから興味をもっていてもっと知りたい思ったことについて「自分の興味のある物や、人物について調べよう。」と呼びかけると、すぐに人物や動物を決めることができた。積極的に調べ始めた。どんな形で発表したいかということも昨年度の経験があり明確であった。根気よく調べ学習に取り組み、検索にパソコンソフト「本悟空」を使用し調べることも興味深く取り組んだ。しかし、学習の遅れを持っているため、本を探すことはできても言葉の意味が理解できずかなりの支援を要した。

また、課題の焦点化が難しく、まとめる段階でも調べていることと関係することが書いてあるところを探すことで精一杯であった。

未来をみつめて「守る、みんなの尾瀬を」の単元では、興味を持って体験を通して調べられるように工夫をし身近な人物に焦点をあてた。小児科医師にインタビューをし人物紹介に取り組ませた。学習の遅れがあっても、調べ学習の経験を積むことで自分なりに文章を考えて書く力がついてきた。自分の調べたい人物を調べる事ができ意欲的に根気強く取り組めた。発表の形も児童が選択しビデオ等視聴覚機器を使用した。教科書に出ている長靖の生き方と児童が調べた医師の生き方を比べて感想や意見を出すことができた。

実在する人物を調べる場合、資料不足を補うように調べる内容の構想の立て方、自分の言葉

で聞き手にわかりやすい説明の仕方を学ばせ、わかったことを自分の言葉でまとめる経験をさせ、表現力を豊かにしていきたい。

IV. 研究の成果とまとめ

- ① 児童は社会や自然との関わりや経験が不足しがちなので、校外学習、小動物や昆虫の飼育関係する人に教室まで訪問依頼する等直接経験できる機会をもった。ビデオや写真やフォト紙芝居を見せたり劇化などをして間接体験の工夫をし興味付けを図った。児童は、見学や観察、世話を通して社会的・自然的事項に関心が高まり、疑問を持ち、「調べてみたい。」という意欲も高まった。具体的体験も入れながら調べ学習を進めていくと、児童自身が発見することが多くあり、分かることが驚きや喜びになり、さらに調べてみようという意欲につながっていった。
- ② 転出した児童と手紙の交換をしたり、市町村から資料を送ってもらったりして広がりのある授業になるように工夫することができた。
- ③ 調べたことを学級で発表するだけでなく、小学部合同の「読書タイム」や「朝の集会」などでも発表し、大勢の人に聞いてもらう機会を持つことができた。一生懸命調べた内容を自信を持って発表することができた。
- ④ ビデオやOHCなどの教育機器の活用により、視覚に訴えることができ興味が深まった。
- ⑤ 調べ学習を積み重ねることにより、その学習方法が分かり、徐々に楽しく調べたり発表したりすることができるようになってきた。様々な教科との関連を図り、1時間や1単元の学習で分かったことまとめるなど、日頃の積み上げも大切である。
- ⑥ 学び方を学ぶ「調べ学習」は、受け身ではなくて、自発的に、わからないことを様々な方法手段をつくして、わかろうとしていく。その経験を積むことで問題を自力で解決とようとする態度は生涯にわたって学び続けようとする意欲につながっていくものである。今後も、児童は一人一人の自立を考え、児童が中心になって意欲的に学習を進めていけるような支援の仕方を研究していきたい。

V. 今後の課題

- ① 調べ学習の課題をつかませる段階では、児童の実態を把握し、何に興味をもっているのか何を調べたいのかということを知り、その単元の中で押さえなければならない基礎基本と児童の興味・関心を合致させた授業の工夫改善に取り組みたい。

② 資料になる図書を学級文庫に入れているが、児童の実態にあった与え方（種類や冊数）を考えていかなければならない。

③ パソコンを使っての情報収集や情報交換も取り入れて行きたい。

④ 自分の分かり方を、どのようにまとめ、発表したら相手に分かってもらえるのかということをしっかりと意識してまとめ、発表することができる力を培う。調べた事実とそれに対する自分の考えや意見を持たせ、そして、集団討議の中で、確認し合ったり、高まり合ったりできるようにさせたい。

今後も自ら調べ、確かめ、本と友達になり、心豊かな児童の育成を目指してさらに研究に努めたい。

〈別表①〉

調べ学習における学習過程

	低 年 学		中 年 学		高 年 学	
	学 習 活 動	つ け た い 力	学 習 活 動	つ け た い 力	学 習 活 動	つ け た い 力
つ か む	○学習の中でよく分からなくなるところや、もっと詳しく知りたいところを見つけて知る。	・不思議だな、知りたいなと思うことができる。	○学習や生活の中から調べたい事柄を決める。	・観察したり、見学したりした中から、疑問を深見することができる。 ・調べてみたい問題を自分の言葉で書き表すことができる。	○学習や生活の中から疑問や問題をとらえ、学習課題を立てる。 ○調べる順序を考えて、学習計画を立てる。	・調べるのに適切な問題かどうかを判断することができる。 ・課題解決の見通しをもって課題を観点別にまとめ、調べる順序や方法をまとめることができる。
調 べ る	○必要な資料を探し、知りたいことを調べる。	・書かれている内容と押し絵や写真などを結びつけて読むことができる。	○必要な情報を見つけ出し読み取る。	・いろいろな情報を比べ、くわしきや正確さに関心を持つことができる。	○参考になり得る情報を探し集める。	・複数の情報を比べ、より価値ある情報、役立つ情報を選ぶことができる。 ・事実と感想を区別して読むことができる。 ・情報提供者の立場に関心をもつことができる。
ま と め る	○調べたことを絵や文で表す。	・見たり聞いたりしたことなどについて順序をたどって書くことができる。 ・思ったことを書くことができる。	○調べたことに、自分が考えたことを加えてまとめる。	・情報を工夫して、絵や文などに表すことができる。 ・伝えたい情報の中心点や、自分の思い、考えがはっきりわかるようにまとめることができる。	○調べたことをより適切な方法でまとめる。	・伝える対象を意識し、まとめる観点を持つことができる。 ・適切な具体例や強調点を考えることができる。 ・事実と感想を区別してまとめることができる。 ・小見出しを立てて情報を要約することができる。 ・個人、グループで工夫した方法により、情報を再構成することができる。
広 げ る	○調べたことをいろいろな方法で知らせる。	・絵や文に書いたものなどを使って、簡単に知らせることができる。	○調べたりまとめたたりしたことを、いろいろな方法で報告する。 ○個人や集団で確かめる。	・分かったことと調べられなかったことを分けることができる。	○調べた結果、まとめた内容を報告し、確かめ合う。 ○得た情報を生活に役立てる。	・内容に適した方法で報告することができる。 ・反省点、今後の課題について考えることができる。 ・活用しやすいように情報を整理しておくことができる。 ・実践化、行動化できる。 ・読書によって得たことを生活にいかすことができる。

〈別表②〉

年間計画表

	目 標	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1	なぜかなと 思うこと調べ 絵や文に書いて 知らせる。	(生) 春の図鑑 (国) ふきのとう	(生) 野菜の種類を ままごうな町 ステキな町 を探したい な	(生) 生き物とし なかなかよし (国) 鳥と仲良し	(生) 夏の図鑑		(国) 夏のこと できごと	(生) 秋と遊ぼう (国) 自動車くらべ	(生) 収穫祭だ だお祭りだ 秋の図鑑 (国) こんなお話 を考えた→	(生) 冬さがせう	(生) 冬のくらし (国) 紙人形劇を しよう	(国) 動物の 赤ちゃん	(生) わたしの 成長
2	疑問に思っ たことを調べ	(理) 土や石を 調べよう	(国) ドカリノ ヤすみかえ アリの行列	(生) 生き物を育 生しよう (国) たん ばぼのちえ	(生) 夏の図鑑		(国) 夏のこと できごと	(生) 乗り 物に乗って みたくない (国) 言葉 あつめ	(生) 収穫祭だ だお祭りだ 秋の図鑑 (国) こんなお話 を考えた→	(生) 冬さがせう	(生) 冬のくらし (国) 紙人形劇を しよう	(国) 動物の 赤ちゃん	(生) わたしの 成長
3	疑問に思っ たことを調べ	(理) 土や石を 調べよう	(国) ドカリノ ヤすみかえ アリの行列	(生) 生き物を育 生しよう (国) たん ばぼのちえ	(生) 夏の図鑑		(国) 夏のこと できごと	(生) 乗り 物に乗って みたくない (国) 言葉 あつめ	(生) 収穫祭だ だお祭りだ 秋の図鑑 (国) こんなお話 を考えた→	(生) 冬さがせう	(生) 冬のくらし (国) 紙人形劇を しよう	(国) 動物の 赤ちゃん	(生) わたしの 成長
4	自分なりにま とめて、意欲 的に発表する	(理) 土や石を 調べよう	(社) 浄水場 について	(理) 生き物の くらしい (国) キョウ ウリ、ユウ ウリ、ウリ をさぐる	(理) 生き物の くらしい (国) キョウ ウリ、ユウ ウリ、ウリ をさぐる		(理) 電気の はたらき (国) ニュー スの時間 です	(国) ローマ 字	(国) 方 言と 共通語	(理) 水のた び	(理) 電気で 調べよう	(理) じゃく で調べよ う	(理) 生き物の くらしい 生 き物 の 1 年 間
5	自分の課題 を見出し、 それを追求し 発展させ生活 に生かそう とする。	(理) 太陽と月 (特) 校外学 習しお り作 り伝統産 業	(理) 太陽と月 (特) 校外学 習しお り作 り伝統産 業	(社) 沿岸漁業 の盛んな 舞鶴市	(国) 漢和辞典の 使い方		(社) 働く人と 公害問題 (国) 新聞を もとに	(理) 天気の 変化 (国) 1秒ご と1年をこ わすれ 私たちが 生きる地球	(社) 運輸業で 働く人々	(国) 宇宙 の仲間を 求めて	(社) 通信の発達 と私たちの くらし	(理) 人や動物 の誕生	
6	自分の課題 を見出し、 それを追求し 発展させ生活 に生かそう とする。	(理) 太陽と月 (特) 校外学 習しお り作 り伝統産 業	(理) 太陽と月 (特) 校外学 習しお り作 り伝統産 業	(社) 沿岸漁業 の盛んな 舞鶴市	(国) 漢和辞典の 使い方		(社) 働く人と 公害問題 (国) 新聞を もとに	(理) 天気の 変化 (国) 1秒ご と1年をこ わすれ 私たちが 生きる地球	(社) 運輸業で 働く人々	(国) 宇宙 の仲間を 求めて	(社) 通信の発達 と私たちの くらし	(理) 人や動物 の誕生	
6	自分の課題 を見出し、 それを追求し 発展させ生活 に生かそう とする。	(理) 太陽と月 (特) 校外学 習しお り作 り伝統産 業	(理) 太陽と月 (特) 校外学 習しお り作 り伝統産 業	(社) 沿岸漁業 の盛んな 舞鶴市	(国) 漢和辞典の 使い方		(社) 働く人と 公害問題 (国) 新聞を もとに	(理) 天気の 変化 (国) 1秒ご と1年をこ わすれ 私たちが 生きる地球	(社) 運輸業で 働く人々	(国) 宇宙 の仲間を 求めて	(社) 通信の発達 と私たちの くらし	(理) 人や動物 の誕生	

リーディング・アンド・ラーニング

～豊かな心を育て、自ら学ぶ力を養うために～

札幌市学校図書館協議会

I. 主題設定の理由

一人ひとり子どもたちが21世紀をたくましく生き抜くためには、どのような教育をしたらよいか。この課題に対応するために、生涯学習体系が考え出され、新しい学力観が叫ばれている。自ら学ぶ意欲的な子どもたちを養成するためにはなくてはならないのが、学校図書館である。学校図書館は、その期待に応えていかなければならない。

図書館は本来、2つの重要な使命を担っている。第一に、児童生徒の主体的な学習活動を助けて、教育課程の展開に寄与すること。第二に、児童生徒の読書活動を助けて読書の習慣化をはかり、人間形成に資することである。

そこで、私たち札幌市学校図書館協議会（以下市SLAと略）は、学校図書館の立場から生涯学習の基礎を培うために努力していく。それを具現化するために、これまでの市SLAの研究テーマ「生涯学習の基礎を培う学校図書館」を継承発展させて、「リーディング・アンド・ラーニング」にした。その語義・意義は「読む活動を通して自ら学ぶ力を養う」ことにある。

サブテーマとして「豊かな心を育て、自ら学ぶ力を養うために」を設定した。

豊かな心を育てることについては、読書指導のねらいでもあり、新学習指導要領の各学校・各学年の内容を的確にとらえ、より深い研究を展開していくこととする。

自ら学ぶ力を養うことについては、学び方指導、図書館資料を活用した教科学習に関わり、新学習指導要領の基本をとらえ、より広い研究を展開していくつもりである。

市SLAは、児童生徒づくりのための図書館をめざして、サブテーマを追究する。

Ⅱ. 研究のねらい

読書指導でねらうものは、豊かな心と自ら学ぶ力である。この2つのものを育てるためにどのようにしていけばより効果的な指導になるかを探ることがこの研究のねらいである。

Ⅲ. 研究の内容と方法

- (1) 豊かな心を育てる読書指導のありかた（幼・小・中・高・図書選定の各部で推進する）
- (2) 自ら学ぶ力を育てる読書指導のありかた（幼・小・中・高の各研究部で推進する）

Ⅳ. 実践事例

読書指導を高学年になって始めてもなかなか効果があがらない。過去の積み上げがないからである。幼い時からの読み聞かせなどの経験が本と子どもたちを結びつける強い絆となるのである。ここでは、集団教育の第一歩である幼稚園で、本と子どもたちを結びつけた事例をあげる。

実践事例 (1) 園児の豊かな活動を引き出す読み聞かせ（幼稚園）

秋の自然にふれる活動として散歩に出かけた時に「姫りんご」の枝を切っているところに出会った。切り落とした枝が欲しいという園児の要求に、切っている人達が一人一人に枝を分けてくれ、園児は、大変喜んで家に持ち帰った。

その後、活動のきっかけにと教師が段ボールを用意していると「りんごの木」を作ろうという声があがり、色画用紙でりんごを作り、大きな立体の木が保育室のひと隅に出来上がった。そんな中で『どうぞのいす』（ひさかたチャイルド）の読み聞かせを行ったところ、散歩の時に拾ったドングリや栗を使って登場する動物たちの動きを楽しむようになった。絵本を見直しでは動きを考えたり、他に必要な道具類に気づいて教師に要求してきたりした。園児の中には遊んでいる友だちを見て楽しむ園児がおり、その園児の中から「見やすいように椅子を並べよう」と観客席を作る姿も出てきたり、「誰がしているのかわからない」という声が上がってお面作りのきっかけになった。

また、使っていた本物の栗やドングリから虫が出てきて使えなくなったことから、小道具作りも始まった。

少しずつ台詞が出てきての遊びにはなったが、覚えている園児と覚えていない園児もいるこ

とから、観客の中で本を見ながら台詞を教える園児が出てきた。その園児が出たことで、台詞が分からなくても参加できる安心感から、参加する人数が増えたり、演じる側と観客側が入れ代わって楽しめるようになった。遊んでいる中で「大きな声じゃないと聞こえない」「動物の動きが違う」と互いに気づいては直していく様子が見られ、その度に絵本を開いては見直したり、教師に読み聞かせを要求してくることが多かった。発表会にもこの劇をしようということになり、発表会の10日程前に役が決定し、当日は一人一人が自信をもって表現していた。

この本は、登場する動物達が園児にとって親しみやすく、ストーリーも繰り返しが多いことから園児が馴染みやすい絵本である。また、繰り返しが多いことは、劇遊びに発展させやすい作品でもある。絵本を楽しむだけでなく、登場する動物達のやさしさを感じとってほしくて取り上げた本である。

園児の毎日は遊びがほとんどである。絵本をきっかけとして、遊びが生まれ、広がり、そのことがまた次の遊びのきっかけを生み、さらに遊びが発展し、遊びが楽しいものになっていく。つまり、絵本の世界を楽しむことによって表現活動やごっこ遊びへと活動が広がり、園生活が豊かになる。教師が多くの絵本の内容をとらえ、園児の実態に則して読み聞かせをしていくことが大切である。

入園した園児すべてが絵本の楽しさを知っているわけではなく、毎日の積み重ねの中で少しずつ気づき、絵本の楽しさを味わっていく。教師の計画的な取り組みの継続が重要である。

実践事例 (2) 読解から読書へ『わにのおじいさんのたからもの』(小学校2年生)

国語の学習の中で「物語」を読み進めるとき、一番大切にされなければならないことは、一人一人の児童に「楽しい読み」を体験させていくことだと考える。

現在の国語学習は、読解学習を中心に行われている。その多くが、細かく言葉を追ったり、行間の読みを丁寧に詳しく行ったりというものである。それ自体は読み取る力を養うという意味で大変重要な手法である。しかし、細かく読み取ってから全体のイメージを確立していくスタイルであるので、本を読むことが苦手な子、まだよく読めていない子にとっては「本を読む」こと自体が苦痛になりかねない。生涯学習という観点からみれば、先に述べたように、まず、「楽しい読み」を子供たちに与えることが必要である。

そこで、紙芝居作りをいう活動を取り入れた。そのねらいは、1「紙芝居」という絵で表現することで「絵的イメージ」を広げられること。また、裏に文章を書くことで、「イメージの文章化」ができること。2「紙芝居」を作ることで段落分け、場面分けが子供たち自身の中で必然的に行われること。3「紙芝居」で表現するために、必要に応じて文章に戻り、中身をとらえていかなければならない場面が出てくること、である。本来、読書の読みは個人的なもの

であり、それを大切にしなければならないが、今回は2年生であり、グループ活動とした。

1. 単元構成（全16時間）

①「かくれんぼのかかし」の読み聞かせ（わにのおじいさんの前段の話）と感想発表。

「わにのおじいさんのたからもの」を読み、感想を書く。

②すらすら読めるように漢字や言葉の勉強をしよう。

③お話を紙芝居にしてお友達に持っていこう。（活動目的をはっきりさせる。）

④～⑩グループ毎に紙芝居を作ろう。

⑪～⑬クラスで紙芝居の発表会をしよう。（※生活科で交流している他の学校の友達に読んで聞かせる活動も入る。）

⑭ほかにもオニが出るお話を読もう。

単元を通したねらいとして、「紙芝居」づくりは子供たちにとって魅力ある活動となっていた。また、導入の段階で原典である「ぼうしをかぶったオニの子」（あかね書房）を読み聞かせたり、発展読書を指導計画に位置づけていることが、継続した読書指導をする上で大切なことである。教育課程に位置付かない計画は、個人の実践であり、学校の実践とはならないのである。

札幌市には、『寄託図書制度』がある。これは、市内の39校の寄託校に、同じ本を複数（2～50冊）で用意し、電話1本で市内の各学校が借りられるシステムである。現在蔵書総数が33万冊、タイトル数で2万1500種である。このシステムを利用すると、学級の全員が同じ本を手にとって同時に読書をすることができる。次の実践はこのシステムを利用したものである。

実践事例 (3) 学級全体の読書力の底上げに効果的な集団読書による読書指導(5年生)

5年生の国語科の題材に「読書の枝を広げて」というものがある。この中で、「SOSインディギルカ号」早乙女勝元作・童心社を扱った。

1. 題材目標

◎読書活動を通して、本に対する興味・関心を高め、より豊かな読書生活につなげていくことができる。

・読んだ内容をもとに、進んで感想や意見などを持ち、進んで発表しようとする。

・友達の感想や意見などを参考にしながら、考えを深めていこうとする。

・いろいろな読書の仕方を体験したり、感想などの表現の仕方を工夫しようとする。

2. 指導計画（全5時間）

① 「SOSインディギルカ号」を読み、遭難事件のあらましをとらえ、話し合いの柱を決

定する。

- ② 「インディギルカ号」の遭難についてまとめたり、話し合いの柱への自分の思いや感想を書く。
- ③ 「SOSインディギルカ号」の本を読んで感じ取ったこと、思ったことなどを話し合いの柱に添って交流し合う。
- ④⑤ 寄託図書の中から本を選んで読む。読んだ事をもとにして、感想や内容の紹介などを自分なりに工夫してまとめる。

3. 本時の展開

	教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・地図をもとにして、インディギルカ号に起こった不幸なできごとをたどらせる。 ・話し合いの柱を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インディギルカ号の出航から遭難までのできごとをふりかえる。 	航海地図 (TPシート) 〈子供の説明〉
たしかめる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈話し合いの柱〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インディギルカ号の遭難の様子から思ったこと。 ・暴風雪の中で「インディギルカ号」を救助しようとした猿払村の人々について思ったこと。 ・早乙女さんが読者に伝えたかったことは何か。 </div>		フラッシュカード
交流し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの柱に添って互いの感想、考えを交流させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の感想、まとめをもとにしながら感想を交流し合いく。 	横倒しになったインディギルカ号
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>インディギルカ号の遭難の様子から思ったことを交流し合おう</p> </div>		(TPシート)
	<ul style="list-style-type: none"> ・遭難の衝撃や中で逃げまどう人々の様子などから思ったことを自由に交流させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遭難の様子から思ったこと出し合う。 	

ふ か め る つ な げ る	暴風雪の中で「インディギルカ号」を救助しようとした猿払村の人々について思ったことを交流し合おう。		インディギルカ号の上から救助を求める人々 (TPシート)
	<ul style="list-style-type: none"> ・神源一郎さん、源蔵さんたちの取った行動についての感想を出し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの命を投げ打って荒波に乗り出した人々の気持ちを出し合う。 	
	この本を読んだ早乙女さんが読者に伝えたかったことは何か、考えを出し合おう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さや平和の大切さ、人人の心の結びつきなどについて早乙女さんが伝えたかったことを自由に出し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早乙女さんが読者に伝えたかったことについて、読んだひとりひとりの考えや感じ取ったことを交流し合う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 〈ひとりひとりの考えを大切にしたい〉 ・次の時間の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・今度の時間は寄託図書の中から読みたい本を選んで読むことを知る。 	

子供の司会で話し合いは進んでいった。事前に各自が3つの柱についての自分の考えを書いていたので、話し合いも活発なものになった。子供たちは、同じ本を読んでも人によって見方や感じ方が異なることに気づき、他の考えも大事にしようとしていた。また、自分が今まで気づけなかった読み取り方にも気づいていた。これが、集団読書の最大のメリットである。この「SOSインディギルカ号」の集団読書で学んだことが、次の自由読書に生かされていった。このように、集団読書は全体の読書力の底上げをはかる上で有効な手段といえる。

実践事例 (4) 多様な図書を用意することが資料活用力をつける・6年生『天下統一』

天下統一の単元のまとめとして、「合同記者会見」を設定した。信長・秀吉・家康役の子と司会者、記者に分かれて会見をして学習のまとめをする活動である。その人物になりきるには伝記などを読んでその人物を知ることが不可欠となる。そこで、図書資料を豊富に用意して、子どもたちの学習を助けようとした。子どもたちの調べる力には差が大きいので、漫画や普通

の伝記など、読みやすさを考えた上で図書を用意した。

1. 指導計画

- ① 合同記者会見を開こう。（今後の活動の見通しを持たせる。人物像を俳句で概観する。）
- ② 織田信長について調べよう。（業績、人物像、信長らしさを考えさせる）
- ③ 豊臣秀吉について調べよう。
- ④ 徳川家康について調べよう。
- ⑤ 共同記者会見の準備をしよう。（質問カードに質問を書く。予想される回答に対する再質問を考える。司会者は、会見全体の流れや時間配分などを考える。）
- ⑥ 合同記者会見をする。

2. 用意した図書資料

- ・ まんがで学習人物日本の歴史 3 戦国～江戸時代（あかね書房）40冊新川小（以下校名略）
- ・ 豊臣秀吉、徳川家康（さえら書房）各25冊
- ・ カラー版日本の歴史 6 天下統一（ポプラ社）5冊
- ・ 戦いにあげくれた時代（講談社）5冊
- ・ 学研まんが伝記シリーズ12豊臣秀吉、14徳川家康、16織田信長（学習研究社）各10冊
- ・ 図説学習日本の歴史 3 武士の活躍、4 町人の進出、6 ものがたり人物事典上、7 ものがたり人物事典下（旺文社）各6冊
- ・ 歴史アルバム歴史を決めた114の出来事 3、4 江戸時代（PHP研究所）各20冊
- ・ 学習漫画日本の歴史 8 群雄のあそび戦国時代、9 天下統一、10江戸幕府の成立、日本の歴史人物事典、日本の歴史できごと事典、日本の歴史年表（集英社）各5冊
- ・ 人物でたどる日本の歴史 鎌倉・室町・安土・桃山・江戸 岩崎書店 8冊
- ・ （嵐の中の日本人シリーズ）豊臣秀吉、徳川家康、織田信長（岩崎書店）各8冊
- ・ 豊臣秀吉（子ども伝記全集）（ポプラ社）30冊

子どもたちは必要感があれば、本を手取る。それが身近に多くあり、グレードに差があると誰もが本を生かすことができる。歴史に興味を持ち、調べる意欲を高めるには、伝記物が重要な役割を果たす。人物に対する興味は史実に対する興味へとつながるからである。

また、利用指導を特設時間に指導することができにくい現状がある。このように図書を利用した学習の中で、目次や索引の使い方やまとめかたなどの指導をしていくと効果的である。

実践事例 (5) 図書と図書館を利用する必然性をしくむ（中学校）

① 題材名「豊かさ」再考

ア 授業の構想

『「豊かさ」再考』は中学校最後の説明文教材である。従って、中学校3年間の説明文学習の総合まとめをすべき教材と言える。文章の内容理解だけで終わらせたくない。筆者の考えを把握した上で自分はどうのように考えるかを自分の言葉でまとめさせたい。課題に対する「自分の見解」が他者に伝わるような文章でまとめられる学力を生徒につけたいのである。そこで、論説文における説得の手法の一貫として、引用の効果を体験的に学ばせたいと考えた。

この効果的な引用を含めた作文過程の中で、自分の主張をより説得力あるものにするための情報を収集するという学習活動を組織したい。つまり、学校図書館や公共図書館などを利用するのである。

これを踏まえて、次の課題を提示した。

本当の豊かさとは何か、自分の考えを論じなさい。このとき自分の考えに説得力を持たせるために、他者の考えも引用しなさい。

指導計画は、以下の通りである。

1. 全文を通読し、筆者の主張を理解する。
2. 全文を通読し、筆者の述べ方の工夫を理解する。
3. 課題達成のための補助資料（プリント①～④）を配布し、課題に対する目的意識を持つ。
4. プリント④を回収・紹介し、ワークの回答をする。
5. プリント④を使用して、個々の作文の構想を交流し合う。（本時）
6. 抽出作文を比較して、推敲の視点を理解する。

イ. 本時授業の実際

1. 自分の主張を口頭で端的に述べてもらうことを提示する。
※ 交流会に際しての視点を説明する。

- ・言いたいことを読み手にわかってもらうためには、説得力が必要。わかりやすい具体例、ひきつけるエピソード、他の人の言葉などをうまく取り入れること。
- ・これから「自分の主張」に説得力を持たせるための「他者の言葉」を発表してもらう。発表する人は、聞く人の顔色を見ながら自分の主張に説得力があるか確かめる。発表を聞く人は、良いところは取り入れるなどして参考にすること。

2. プリント④の次の内容を発表させる。

- ・自分の主張（ずばり一言でいうと）
 - ・引用する内容（正確に）
 - ・引用する文献（著者名・書名・出版社名）
 - ・入手方法（家にあった／学校の図書館／公共図書館／エピソードなど）
3. よいところを評価し、必要に応じて質疑応答し、指導・援助する。
 4. この引用内容の他にも説得の材料があると良いことを、新聞記事を使って理解させる。
 5. プリント⑤⑥と原稿用紙を配布し、次時以降の方向性について予告する。

以上の流れで本時が指導されたが、引用文献の紹介やエピソードの紹介などで和気あいあいの中で展開された。

指導計画の中で6枚のプリントが使用された。①は「説得力のある主張」という題で、説明文では、1筆者の主張と2述べ方の工夫を読み取ること。次に自分が書くことを説明している。②は「図書館へ行く」で、自分の考えに説得力を持たせる本を探すことと、ずばり一言で自分の考えを書くこと、図書館の紹介が書かれている。③は「本を見つける」で、本の見つけ方が書かれている。④は「レポート作成のための一冊」で、ある。本時にくわしいので省略する。⑤は「材料を増やす」で、書くための材料を増やす手だてをとっている。⑥は「原稿用紙に書く」で、書く前のチェックポイントと書き終えてからのチェックポイントが書かれている。

児童生徒と本（学校図書館など）をつなげるには、「必然性」をつくるのがまず大切である。次に、プリント等を利用して「やる気」を持続させる手立てをとることが重要である。

実践事例 (6) 本を知ることが、本を生かす出発点（良い本を選び、情報を発信する 図書選定）

市SLAでは、毎月2回の図書選定会を開いている。図書流通関係や納入会社の協力を得て行っている。新刊図書を読み、ぜひ各学校図書館などで購入して欲しい本を選び、毎月の選定目録とし、短い解説や内容紹介を加えて市内の各幼稚園・小・中・高等学校に配布している。

また、一年間の中でさらに幼児用10冊、低・中・高学年用に各5冊、中学校用10冊、高等学校用5冊を選び、年間の推薦図書としている。本を知り、良い本を選ぶことが重要であり、その情報を発信することが市SLAの責務であると考えからである。

目録の例

〈幼 児〉

「パンはころころ」 マーシャ・ブラウン 富山房 1200

福音館版で有名な「おだんごぼん」の話です。訳者が違い、文章も違ってきます。繰り返しのリズムを楽しめ、おごんごぼんと違う味わいを得られると思います。

〈高等学校〉

「アポロ13号奇蹟の生還」 訳・立花 隆 新潮社 1800

水なし、空気なし、エネルギーなしの極限状態で、どうやって宇宙から生還できたのか宇宙飛行士とスタッフたちがどのように立ち向かったのかのドキュメント。アメリカの技術の底深さを感じる。

この選定目録は市内の各園や学校が図書を購入する時、寄託図書を購入する際に役立っている。また、教師がより多くの本を知るための手がかりともなっている。

V. 研究のまとめと今後の課題

リーディング・アンド・ラーニング（読む活動を通して自ら学ぶ力を養うこと）のためには、

- (1) 幼・小・中・高のそれぞれの段階で子どもと本とを出会わせる適切な働きかけをすることによって、子どもと本とを結びつけていくことが大切である。
- (2) 自ら学ぶ力を支えるものは、読書活動である。よい本との出会いが子どもの読書意欲を高め、読書力を伸ばす力となる。集団読書による指導が特に効果的である。
- (3) 自ら学ぶ力を養うためには、子どもが疑問を持った時に適切な本と出会わせることが大切である。また、効果的に本を利用するための援助も大切である。本によって自らの疑問が解決された経験が次に生きていくのである。
- (4) 本が身近にあり、必要な時に手に取れる環境の設定が子どもの読書意欲を高める。必要な本が手に入らないと、課題に対する興味・関心も持続しない。また、掲示物や机・椅子・じゅうたんなどの読書環境の工夫も読書の雰囲気づくりのためには大切である。
- (5) 学校や園全体が教育課程に図書館や本を位置づけることによって、読書と子どもとの結びつきがより確かなものになる。校種や学年を通した一貫性が大切である。

本実践は、単に一つの学校のものではなく、市SLAに所属する幼稚園や各学校での実践である。また、市SLAが独自に所属団体などのために行っている実践が述べられている。各学校の参考となり、役立つ実践をどう積み上げ、情報を発信していくかが今後の課題である。また、図書予算の増加や司書教諭の配置などを行政に要求し続けていくことも重要ととらえている。

今後も、各園や学校の実践を集約したり、要求に応じた活動を行ったりして、読書がより子どもたちに根づいていくための努力を続けていきたい。

読書意欲を高め、好ましい読書習慣を育てるための指導は どのようにすすめたらよいか

— 楽しく生涯学習につながる読書指導 —

福井県敦賀市立敦賀西小学校
校長 瞿 曇 玄 城

I. 主題設定の理由

21世紀をになう子どもたちにとって、この激しく変化していく社会にうまく順応できる資質や能力は、自分で課題を見つけ、自ら考え、問題を解決する「生きる力」を育成することです。これからの情報化の進展に伴って、本を通して情報を収集し選択、活用する能力はますます必要になります。しかし、塾通いや習い事に大変忙しい子どもたち。テレビや漫画など子どもたちにとって魅力的なものが増えて、子ども達の読書離れが進んでいます。

そこで、本校では、平成7年度、第34回近畿学校図書館研究大会の授業及び分科会場となったことをきっかけに、学校図書館の整備や指導の充実に取り組んできた結果、本を読む場を提供するなど条件を整えれば、子どもは、お話を聞いたり、本を読んだりすることが好きになることが分かりました。

楽しく本を読むことが習慣化し、本が好きになれば、豊かな心を育て、必要な情報を収集し、選択し、活用して、一生涯豊に暮らす能力の基礎を育てることができると考えて、本主題を設定しました。

II. 研究のねらい

読書をする楽しみは、時代を越えて、老若を問わず変わらないものである。子どもたちが読書を楽しみ、本好きになり、そして心豊かな子に育ててほしいと願っている。

まず子どもたちを本好きにするためには、子どもが感動する本をたくさん揃えて、読書の楽しさを味わう出会いを多くし、読書活動を広げることだと考え、読書指導や読書環境の整備に力を入れる。

さらに「自ら学ぶ意欲」や「社会の変化に主体的に対応できる能力」を身につけるために、学校図書館を利用して、社会科などの学習に必要な情報を集めたり選んだりして活用する利用指導を活発にして、児童が調べて、確かめ、皆の前で発表し、意見を述べ合って解決していく体験的な学習によって、思考力、判断力、表現力を身につけさせる。

このようにして、生涯にわたる主体的な学習方法を身につけさせ、豊かな読書をする子を育てたいと考えた。

Ⅲ. 研究の内容と方法

研究をすすめるにあたって、次の3つの柱を立てた。

○読書環境の整備充実 ○本好きな子を育てるための働きかけ ○読書意欲を高めるための指導の工夫

1. 読書環境の整備充実

学校生活における全てのものが学習環境であり、読書環境であると促え、空き教室や空きコーナーを有効に利用した。

○明るく楽しい図書館づくり ○低学年図書館の設置
○資料コーナー、なかよしコーナー、教科書コーナーの設置
○学級文庫の充実 ○パソコン室の利用

2. 本好きな子を育てるための働きかけ……全校での取り組み

○朝の読書タイム（水・木・土の10分間）
○詩の朗読、暗唱（低・高学年用の詩を毎月各1点ずつ暗唱）
○推薦図書カード「私の本棚」の作成 ○読書カードの利用と読書ファイルの作成
○専門家講師による特別授業 ○地域との連携と協力
○図書委員会の活動と読書のつどい

3. 読書意欲を高める指導法の工夫

(1) 特別活動の中で

○読み聞かせ ○ブックトーク ○読書クイズや本の紹介 ○読書会 ○朗読会
○先生が語る一冊の本
○全校一斉詩の朗読指導と発表（月1回、全校朝会、児童集会において）

○図書館割り当て時間と利用指導

(2) 教科指導の中で

- 社会、理科（生活科）を中心に、調べ学習を取り入れ情報処理の方法を知る。
- 他教科と読書指導との関連を図る。総合学習への発展。
- 音読、視写指導を重視し、表現力を高める。

IV. 実践事例

1. 情報センター、読書センターとしての環境を充実させる

(1) 図書館（3階） 蔵書数 約7,000冊

設 備 テレビ、ビデオデッキ、ラジオカセット、ビデオテープ

常に人にも物にもオープンであり、自然と足が向くような明るく楽しい図書館作りに心がけた。また子どもたちの調べ学習に活用できる図書や図鑑、年鑑等の充実にも努め、図書館へ行けば「疑問や課題が解決できる」という期待感のもてる図書館でありたいと願ってきた。

○常時開館し、返すのは図書委員のいる時間帯しかできないが、借りるのはいつでも自由でできる。（代本板、個人カード、ブックカードを使用）

○低書架、オープンラックを利用し、きれいな本の表紙が見えるようにしたり、本を手に取りやすいようにしたりした。また生花を絶やさないようにし、子どもたちの作品を展示したりお話の絵を掲示したりするなど明るい雰囲気を出すようにしている。

○9類は著者名順に配架したので、同著者の本が探しやすくなり、また整理もしやすくなった。

○ビデオテープを資料として子どもたちにも利用できるように、低・中・高学年用の棚に分けて整備した。

○各地の観光課から資料を送ってもらったり、旅行をした時集めてきたりしてパンフレット等の収集を行っている。収集した資料は、各県ごとに、また県内については市町村ごとにファイルして見出しをつけた。「図書館だより」も裏うちして、資料として長く利用している。

○古典文学全集を低・高学年用2部ずつ新しく買い換えたところたくさん読まれるようになった。

○調べたい時に調べたい本が数多くあることが本好きにするものである。各教科の授業で「こんな本が欲しかった」という希望図書を調べ購入した。調べ学習に役立つ本は、同じ本を数冊ずつ購入している。

○シリーズコーナー、古典文学全集コーナー、戦争と平和コーナー、推薦図書コーナー、SF

コーナーなど各コーナーを設けている。10月には福祉月間として点字の本や福祉に関する本を展示するなど特設コーナーも作っている。特設コーナーには公立図書館から借りてくることが多い。

(2) 低学年図書館（1階）……空き教室を利用

「ゆうきのもり」と名づけている。学校近辺の地域が昔、結城の杜と呼ばれていたことからこの名前がつけられた。学校のすぐ裏には「大谷刑部」の居城跡があり、子どもたちは小さいうちから歴史的に親しんでいる。



絵本を中心に生活科に関する図書を配架し、紙芝居コーナー、人形劇コーナーを常設している。人形を手に友だち同士お話ししたり、紙芝居を楽しんだりしている姿が見られ、楽しみながら自然に物語の世界に誘われているようである。図書委員会からの紙芝居や人形劇クラブの発表会もここで常時行われ、教室がいわば

いになるほどのにぎわいを見せている。

コーナーに畳をしいたことで、子どもたちの自然な姿で本を読む様子がみられるようになった。また本の表紙が見えるように配架を工夫し本を選びやすくした。

一角にはPTA寄贈の「ぞみ文庫」がある。



(3) 資料コーナー（2階）……片側通路で

一教室分の空間を利用

農具や民具を展示し資料として利用している。

昔話の中に出てくる民具などもここで現物にふれることができる。

昔話、民話、郷土に関する本を配架し、おもちゃコーナーには、おはじき、けん玉、紙風船、こま、お手玉、竹トンボ、万華鏡などたくさんの昔からのおもちゃを置いている。

畳の間では昔話や民話に親しみ、昔からのおもちゃで遊んでいる。

(4) なかよしコーナー（誰もがよく通る保健室前に設置。丸テーブルに可愛い椅子を置いた）

子ども新聞を掲示し、雑誌、絵本、保健に関する本を置いた。少しの時間を利用して本と

ふれ合ったり、友だちと話をする様子が多くみられるようになった。

小鳥や熱帯魚なども鑑賞でき、ほっと一休みできるコーナーとしている。

(5) 教科書コーナー（なかよしコーナーの一角に設置）

児童が使用している「光村」以外の出版社の国語の教科書を配架し、読んで欲しい物語や文に数多くふれられるようにした。また国語の教科書の「読書案内」に出ている本を配架し、授業と読書とのつながりをもたせた。

(6) 学級文庫の充実

読みたい時にすぐ手の届くところに本があるように学級文庫の充実に心がけた。学年に見あうものを置き、辞書、事典も置くようにした。ある期間、学習に関する資料を図書館より貸し出すことも行っている。本は学級の子どもたちの持ち寄りによって充実させている。本棚は職員作業による手作りのものである。

(7) パソコン室（デスクは40台）

常時開室。休み時間にはゲームをしたり、歴史を調べたりして楽しんでいる。調べ学習等に直接利用できるようなソフトは少ないので、資料をいかに準備するかが課題となっている。

ひとり1台のパソコンが使えるので、内容や構成を工夫しながら本の紹介カードを作るなど読書指導としても利用している。

2. 本好きな子を育てるための働きかけ

(1) 朝の読書タイム……（水、木、土曜日の8：10～8：20）

読書をする機会、時間の確保、習慣化をねらって実施している。学校中が静まりかえる時間でもある。常に手元に本があるので、ちょっと空いた時間にも自然に本を見ているということが多くなった。

(2) 詩の朗読、暗唱

日本語のもつ美しい響き、名文にふれ、言葉のリズムを感じとって欲しいと始めたものである。毎月当番学年の先生が「今月の詩」を低学年用、高学年用の各1編ずつ選び印刷し、各児童に配布している。帰りの会や児童集会等による一斉朗読で、全員が暗唱できるようにしている。毎月の詩を覚えてしまうと担任や子どもたちがさらに覚えてほしい詩を選んできて暗唱している。図書館で詩集を借りて読む子どもが増えてきた。五七調のリズムや対句表現などにも慣れ

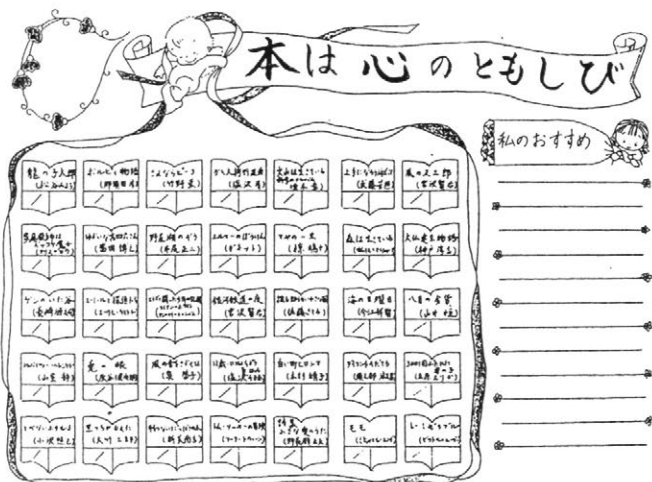
るに従い「小緒なる古城のほとり」や「雨ニモ負ケズ」なども喜んで口ずさむようになった。

言葉の持つリズムを楽しみ、それを音声で表すことを喜ぶようになった子どもたちは、百人一首や俳句にも興味を持つようになった。学年掲示板に百人一首や俳句コーナーが生まれるようになり、高学年は、学年百人一首大会や俳句会が盛んになってきた。

(3) 推薦図書カード「私の本棚」の作成

推薦図書と言えば教師側から良書を選ぶことが多く、本校でも平成6年度までは、低・中・高学年各20冊ずつの推薦図書カードを使用していたが「楽しみながら読書をする子を育てる」というねらいから、子どもたちに好きな本を好きなように選んで読ませたいという気持ちを前面に出し、その中に教師側から是非読ませたい本を組み入れた推薦図書カードを作成し、平成

№2 高学年用推薦図書カード



7年度から使用している。 №1 低学年用推薦図書カード

№2 高学年用推薦図書カード

№3 わたしの作る推薦図書カード

将来はこのようなカードがなくても自分で良い本を選んでいける子になって欲しいと願っている。

(4) 読書カードと読書ファイル

本をじっくり読み味わった後はその感動を絵や文で書き残したいと思うものである。いろいろなカードを図書館に常備し、「書きたい。」と思った時に書きたい用紙を選んで書いている。

絵カードや、言葉や文を視写する視写カード、あらすじカード、おすすめカードなども揃えている。

視写、作文など「書く」ことの指導にも力を入れてきたこともあって、子どもたちは書くことにあまり抵抗を示さなくなってきた。読書メモとしてカードを利用したり、読書記録カードをたくさん書いたりするようになってきたので、全校統一の読書ファイルを作り、学年持ち上

がりとし、自分の読書の足あとを残すようにした。読書が自分の宝物となるように生涯学習につなげていきたい。

(5) 専門家講師による特別授業

○学校のすぐ側が海である。子どもたちは海と共に暮らし、海に対する関心は強い。そこで地元在住の水産学博士の安田徹先生（福井県栽培漁業センター所長）をお招きして「海に生きる生物」のお話を聞く会を持った。「りゅうぐうのつかい」や、「人魚」など大変珍しい生き物の話を聞かせて頂いたり、VTRを見させて頂いたりして、子どもたちはすっ



かり海の生き物が大好きになった。お話の中で環境問題にも触れられ、私たちの残した1つのゴミが海の環境を破壊し、そこに棲む生物の命を脅かしているというメッセージをしっかりと心に刻むことができた。さっそく図書館で海に棲む生物について調べたり、自主学习で自分たちの身の回りにおこっている環境破壊について調べ、環境を守るために自分たちにできることは何かと考えたりする子もいた。

○清原久元先生（日本国語教育学会）には「詩」の指導や「音読、朗読」の授業をしていただき、大きな声でよむことの楽しさを知ることができた。

(6) 地域との連携と協力

○今までも夏休みに親子読書と呼びかけてきたが、平成8年度は毎月第3週目を西校の「家族読書週間」とした。図書館の中に「図書ポスト」を設置し、保護者にも気楽に利用してもらっている。投函された感想や意見は、月1～2回発行する「図書館だより」に掲載しお知らせしている。これをきっかけに「読書サークル」などでできれば素晴らしいと思っている。

○「ゆうきのもり」（低学年図書館）の一角に「PTAのぞみ文庫」がある。家庭に眠っている本、読まなくなった本を譲り受けて作った文庫で、配架までの作業はすべてPTAのボランティアによって行われている。

(7) 図書委員会の活動と読書のつどい

本の貸し出しが活発に行われるかは、図書委員の主体的な活動も1つのカギとなっている。日常の当番活動の他に、広報、統計、掲示の3班に分かれ、月2回の図書新聞発行、本の紹介貸し出し冊数調べ、雨の日の紙芝居会などを行っている。秋の読書週間には、その他に読み聞かせや読書クイズ、人形劇を行っている。読書のつどいの企画、運営を行い、本年度は読書や図書館にかかわる「〇×クイズ」や「大型紙芝居」を発表した。

3. 読書意欲を高める指導の工夫

(1) 特別活動の中で

- ① 読み聞かせ……読み聞かせは本との出会いをつくる大切な機会である。低学年のみならず高学年においても喜ばれるものである。いろいろな種類の本を選択して、読み聞かせている。給食時間、帰りの会、ゆとりの時間等を利用して継続的におこなっているが、子どもたちの方から読んで欲しい本を持ってくることも多い。「白旗の少女」の読み聞かせから沖縄について調べる子どもたちが増したり、「ステファニー」（エイズとともに生きた日系アメリカ人）の読後から、エイズや人権問題の授業へと発展していった。
- ② ブックトーク……素晴らしい実演を聞くと、感動と共に紹介された本がすぐ読みたくなるものであるが、誰もが今すぐできるというものではない。テーマを決めて、本を選び出し紹介する本の話の筋を作っていくことは大変な作業である。そこでブックトーク集などからアレンジして、できるだけ図書館にある本を選び紹介している。紹介された本はすぐ貸し出されよく読まれるのでこれからも機会を多くしていきたい。ブックトークを成功させるには、やはり教師がもっともっと児童書を読む必要があると感じている。
- ③ 読書クイズと本の紹介……クイズは子どもたちの大好きなものである。クイズを作る方も答える方もしっかり本を読んでいないと答えられないので、遊びの中で自然に本の読み方を身につけていける。インタビュー形式にしたり劇化したりと出し方にも学年発達段階がみられた。

本の紹介は、感想を言い合う中で、次の読書の動機づけになったり本についての話題がもてたりして、友だちといっしょに1冊の本を楽しむ喜びを味わうことができる。紹介方法を考える段階でどのように紹介したらいいか考えるために奥深く読むようになった。

2年生の指導記録

1. 題材 本の紹介をしよう

2. 題材について

この題材は、自分の読んだ本について発表したり、友達の発表を楽しく視聴したりすることとおして、自分の読書生活を豊かにすることをねらいとしている。子どもたちのなかには、友達と交換読書をして読書をたのしんだり、1冊の本を興味のある子で回し読みをしたりしている様子が見られる。そんな子どもたちの様子から、学級全体で工夫して本を紹介し合うことによって、同じ本を読んでもいろいろな感想が出てくることを発見させたり、自分も読んでみたいという読書意欲を湧き立たせたりすることを意図してこの題材を設定した。また、この本紹介をおして、1冊の本を友だちとともに楽しむ喜びを味わわせたいと考えている。

3. 児童について（男11名、女15名、計26名）

担任は代わったが、クラス替えない学級である。日頃の学習態度は意欲的である。特に国語の音読に対する意欲が旺盛であり、暗唱したり、気持ちを込めてそのものになりきって読んだりする姿がみられる。帰りの会に行っている詩の朗読も、1週間ぐらいでほぼ全員が暗唱できている。

読書活動を進めるために、4月から読み聞かせ（給食時）を始め、読書記録カードを利用し、読んだ本については絵でも文章でもよいから自主的に跡に残せるようにしてきた。1学期間で、多い子は80枚を越えるカードがたまっている。読み聞かせも毎日楽しみにしており、たいへん集中して聞く。5月からは、みんなで「読書の木」にたくさんの実をならせる活動を開始した。これは、2カ月半で400ほどの実をつけることができた。

5月半ば頃から、「この本みんなの前で読んで。」と言って本を持ってくる子が増え、教卓の上に毎朝数冊の本がのっているようになった。そのため、子どもが持ってきた本全部を教師が読み聞かせることができなくなったので、話し合いをもち、自分たちで本を紹介し合うことに決めた。その本の紹介の時間は、朝の会での1分間スピーチで確保した。この本紹介は、感想やあらすじを紹介するパターンであるが、ひとりひとりがいっしょうけんめい友だちに勧めている。

今回の本紹介では、ただ感想を言うだけではなくクイズや絵で表すなど、今までにない紹介の仕方をしようとはりきっている。

4. 指導目標

- ・本を紹介し合うことで、読書への意欲を高める。

- ・グループ活動をとおして、協力する態度をより強める。

5. 指導事項と配当時間（1時間配当）

- 紹介する本を選んだり、紹介方法を考えたりする。〈1時間国語〉
 - 本紹介の準備をする。〈2時間図工〉
- 本を紹介し合い、読書意欲を高めることができる。……1時間（本時）

6. 本時の目標

- ・本を紹介し合うことで、読書意欲を高めることができる。

7. 学習展開

時配	児童の学習活動	教師の働きかけ・留意点
5分	○本を紹介し合うことを確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・本紹介の興味づけをする。 ・どんなことに注意して聞いたらよいかを明確にする。 本を読みたくなったか。 おもしろかったか。 よくわかったか。
35分	○本の紹介をしよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表する。 ・朗読に合わせてペープサートを動かす。 ・あらすじに合わせて、OHPのシートを替えて発表する。 ・本にでてくる実物を利用して、本紹介をする。 ・紹介の途中にクイズを入れる。 ○紹介について感想を発表しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の種類によって、発表の場を固定しておく。 ・発表の仕方について、必要に応じて助言する。 声の大きさ・資料の提示の仕方など ・聞いている側が、聞くだけでなく参加できるような紹介の仕方も工夫させる。 ※〔関・意・態〕 聞いている人によくわかるように、いっしょうけんめい発表していたか。 ・1グループの紹介が終わるごとに、感想

5分	<ul style="list-style-type: none"> ・とても大きな声で発表できていたのでよかったです。 ・紹介してくれた本を読んでみたいと思いました。 ・おもしろそうな本がたくさんあるんだな、と思いました。 ・工夫して発表していたので、すごいなと思いました。 <p>○全体の感想をまとめ、本時をふりかえる。</p>	<p>を発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方だけでなく、発表内容に触れる感想も出るように助言する。 <p>※〔関・意・態〕</p> <p>友達の発表を、聞く観点に沿って聞いていたか。(発表による)</p>
----	--	---

8. 評価の観点

- ・聞いている人の読書意欲を駆り立てるような発表をすることができたか。
- ・しっかり聞いて、聞く観点に沿った内容の感想を発表することができたか。

※ 各班の紹介方法と紹介する本

- 〈1班〉 OHP 「小鬼のコ布林」
- 〈2班〉 ペープサート 「くまくんはびょう気です」
- 〈3班〉 本の中にでてくる物(実物)を使って「びゅんびゅんごまがまわったら」
- 〈4班〉 OHPクイズ 「やぶかのはなし」
- 〈5班〉 ペープサート 「ばけものつかい」

—— 授業記録抜粋 ——

○本紹介の興味づけ

T. 今日はもう一人お客さんがいます。(ハーモニカできらきらほしがる)だれかわかる?(人形劇舞台からすずばあさんが顔を出す。)木下さんから私の本を紹介してもらったんだけど、私の本を読んだ人手を挙げてみて。おやびっくり。こんなに多くの人を読んでくれて、うれしい。今日は2年3組のみんなが本の紹介をすると聞いて、ちょっと聞かせてもらおうと思って来たんだよ。聞かせてもらおう。

○グループの発表と話し合い

- C. これから4班の発表を始めます。4班が紹介する本は「やぶかのはなし」です。問題を出すので考えながら、よく聞いて下さい。(博士と子どもたち登場)
- C. オスとメスではどっちが血を吸うのですか博士。

博士. メスじゃよ。でもなあ、メスがみんな血を吸うとはかぎらんのじゃよ。

C. それではどんなメスが吸うのですか博士。

博士. それは本を読んでからのお楽しみじゃ。

C. ここで問題です。(OHPシートを使って)やぶかのうんちは何色でしょう。

C. 血によってちがう色です。 C. 黒い色です。 C. 赤い色です。

C. 食べた物と同じ色です。

博士. 答えはピンクじゃあ。

C. この本は、図鑑をお話にした本です。興味のある人は読んで下さい。

C. かがピンクのうんちをするなんて思っていなかった。

C. じゅんぺい君の答えがおしかったです。

C. 博士が白衣を着ていて工夫していました。

C. 「くまくんはびょう気です」2班はペープサートを使って本を読みます。

(本の途中まで朗読発表)

C. このあとルーはどうなったでしょう。手をあげて下さい。

C. ハチにさされて落ちてしまうと思います。 C. おいしい、おいしい。

C. ハチにさされて、ハチの巣といっしょに落ちた。

C. ハチの巣を取ったと思います。

C. ハチにさされて池に落ちたと思います。 C. 当たり。

C. 続きを読みます。(池に落ちたところまで読む)

C. この後は、読んでからのお楽しみです。

C. クイズのところがおもしろかったです。

C. すごく上手に読んだりペープサートをやったから、読みたくなりました。

C. 絶対読むよ。 C. 全部おしまいまで読みたい。

3班の「びゅんびゅんごまがまわったら」の紹介は、校長先生に遊び場の鍵をあけてもらおうと頼みに行くことになったストーリーを朗読。校長役の子どもが2このびゅんびゅんごまを回して見せ、「君たちが回せるようになったらたのみを聞こう。」と言う。

C. 私たちが練習したのですが、うまく回りません。みんなも挑戦してみてください。

(何人かが挑戦してみるがうまくまわらない。)

C. この本に作り方や回し方ものっているので、読んでみて下さい。

④ 交換読書会

自分の選んだ本をもちより、自分の感想やおすすめの理由をメモし本にはさんでおく。それを見て他の子が本を借りて読み感想を書きこんでいく方法である。参観日には親子交換読書会も試み楽しむことができた。

⑤ 先生が語る一冊の本

素晴らしい本との出会いは、その人の生き方にも大きな影響を与えるものである。子どもの頃に素晴らしい本とめぐりあえることは大変幸せなことである。子どもたち

が1冊でも多く心に残る本に出会えたらと願って、私たち教師が子どもの頃に読んだ本「心の本」を語って聞かせた。校長は、敦賀空襲と「坊っちゃん」の話全校朝会で。教務主任からは、6年生に毎年「野焼き」を教えているが教えたいと考えるようになったルーツは、小学校5、6年生の頃に読んだ「ロビンソン・クルーソー」にあるという話を高学年に。など全担任が学年、あるいは学級の子どもたちに語って聞かせた。子どもにとって先生のこどもの頃の話というのはとても魅力的で興味いっぱいのものである。語られた本を借りたいがなかなか順番がまわってこない苦情が出るほどであった。

⑥ 詩の指導

全校朝会や児童集会の後「今月の詩」の一斉指導や学年発表を行ってきた。指導の場、発表の場をもったことで全校的にさらに盛り上がりを見せてきた。

⑦ 学校図書館の利用と指導実践事例集の作成

個々に行われていた利用指導が、実践事例集を作成したことにより、系統的・体系的な実践がなされるようになった。

(2) 教科指導と図書館

教科指導の中に効果的に図書館を取り入れていき、本に対する興味関心を深め、調べ方を学習し、情報処理の方法を学び、自己教育力を身につける。

① 調べ学習

<p>読書のあき 一年一組 おとり あみ</p> <p>きょうわたしは、おひさまのあたるはかほかのえんがわで、「しまひきおにとケムン」をおかあさんに読んであげました。ちようとむずかしくて、お話がよくわからなかった。今どは、おかあさんに読んでもらいました。そうしたら、お話がよくわかりました。</p> <p>しまひきおには友だちがほしくて、海をさまよひ、やっどケムンと友だちになれて、楽しい日をおくっていたのに、また一人になってかわいそうだなあ。</p>	<p>親子読書会の感想 四年一組 常田 志絵</p> <p>今日の2時間めに、親子読書会がありました。最初に、山田さんの、「ネコマンガの保健室」という本を借り、次に田中さんのお母さんに、「くらし方読本」を借りました。お母さん・お父さんといっしょに、本を読みました。親子でいっしょに本を読んだりするのは、ひさしぶりでした。とても楽しかったです。また、友達や親子で本を読みたいと思いました。かつら本さんが、私のおすすめの本を借りて、感想を書いてくれたのが、うれしかったです。また、やりたいです。</p>
--	---

<児童>……自分の課題に対して図書資料、図書以外の資料、視聴覚教材などから情報収集
→情報交換し資料を見せ合い（OHP、OHCの利用）話し合う中で自分の考えを
高めていく。

→より多くの人に伝達する。（壁新聞、ポスター、紙芝居、劇などで）

<教師>……子どもたちの課題を把握し、授業のどの場面で、どの課題について話し合い追
求していくか組み立てる。

子どもたちにとって、興味をひくもの、意外なもの、見のがしがちなものを分
析し、授業の中で有効な使い方を考えていく。

体験学習、校外学習とも結びつけ、生きた資料が得られるように工夫している。

② 総合学習への発展

○国語科の説明文の学習から科学的な読み物や調べ学習へ発展した。

○説明文2年「タンポポ」、5年「大陸は動く」、6年民話「一夜松原」「日本の歴史」の学習
後、リズムや表現運動に取り入れられた。自分たちで学習した内容を表現するのでより豊か
な発表をすることができた。

○6年説明文「人類はほろびるか」の学習後、人類は滅びるかどうかということでディベート
を行った。進んで多くの本にあたり資料を集め、自分の意見をより確かなものとしてまとめ
発表し、意見を交換し合うことができた。

○1年生では「トーマス先生と動物たち」のお話を粘土で表現した。製作の途中には主人公の
気持ちに迫るつぶやきも聞かれ、子どもたちは心の中に思い描いた世界を表現することを大
変喜んでいた。

○全校音楽では、クラスやグループの音楽発表の中に本の紹介や俳句、詩の発表が自然な形で
出てくるようになった。

「キリマンジャロ」の合奏発表と「植村直己」について

「たんぼぼの歌」の合唱発表と「たんぼぼ」の詩や自作俳句 など

○一冊の本「わたしのいもうと」（松谷みよ子著）を読み聞かせ、全校一斉生徒指導の時間を
もち「いじめについて」話し合った。このきっかけをつくったのは、この本を読んだ子ども
の感想からである。

V. 研究のまとめと今後の課題

○子どもたちが楽しそうに頭を寄せ合い、一冊の本をのぞき込んでいる。子どもたちが、くつ
ろいで本を広げている。子どもたちが指人形を手にお話を楽しんでいる。こんな姿を学校のあ

ちらちらで見かけることが多くなった。

○学校で覚えた詩を詩集を借りに出かけていった市立図書館の司書の前で豊かに堂々と暗唱したという話も耳にした。

○何冊もの本を前に、ページを一生懸命にめくり、調べ、まとめ上げ、さらに情報交換にも工夫が見られるようになった。

○社会科、理科、生活科、国語科などにおいて調べ学習が展開され、その他の教科においても工夫された図書の利用がなされるようになった。

○「本とともにだち西小の子」を合い言葉として、たくさんの本を読むようになった。

○今後ひとり1台あるパソコンをさらに楽しみながら学習を深めていくために、子どもたちの課題解決にみあう資料（ソフト）を用意していかなければならない。

○自己教育力と個性化に向け、ひとりひとりの要求に答えられるべく、地域の専門の人にお話を聞いたり、指導を受けたりして、地域に聞かれた生きた図書館でありたい。また現職教育を大切にし、先生方の視野も広げていかなければならない。

○「本はとても大切なものである」ということを私たち教師が強く認識し、子どものこれからの生涯において、本と友だちになれるような環境と利用の仕方を今後も子どもたちと共に考えていきたい。そして、これから先たくさん課題と出会ったとき、自分の力で自分の道を切り開いていける人に育ててほしいと願っている。

自らの読書生活を拓く子どもの創造

— 子どもたちが本や資料に親しみ、活用していくための指導と実践 —

長野県宮田村立宮田小学校

中 村 栄 三

I. 主題設定の理由

子どもたちは今、新聞、テレビ、雑誌等多様な情報が氾濫している中で生活している。そして、このことは、今後ますます加速されていくだろうことが予想される。

こうした状況の中で子どもたちが生き抜くためには、いたずらに情報に流される事なく、役立つ情報を自分で選択し自分のものとして蓄積していくことができるような情報処理能力や態度を身に付けていくことが求められている。

このことに対応できる重要な教育の役割のひとつとして、今、読書指導のあり方がみなおさられている。

しかし、本校における読書指導の実際を見ると、それは、時には読み聞かせであったり、読書感想文を書かせることであったりなど、狭い範囲での『楽しみ読み』が多く、自分の情報処理能力を拡大させることにつながっていないのが現状である。

そこで、読書指導教員・図書館司書の増配を受けたことを機に、学校図書館の学習情報センター化を志向しつつ、教科学習や特別活動における利用指導のあり方を模索することにした。

実際の読書指導研究においては、子どもたちの読書生活の実態、利用指導における学習内容の決めだし、必要な情報の収集と選択等に視点をおいて、子どもたちが本や資料に親しみ、活用していくための指導と実践をつみかさねていくことにした。

そこで、私たちは本主題を掲げ、本校児童の実態に基づいて、職員全体で『利用指導における指導計画』の検討や『教科等における利用指導』の推進をしながら、調べることの決めおさせ方・調べていく見通しの立てさせ方・調べたことの評価のありかたに視点をおき、読書指導（利用指導）に取り組むことにした。

このことで、本校の学校教育目標である『よく考え工夫する子ども』『明るくておもしろいやり

のある子ども』『集中して仕事に打ち込む子ども』『健康でたくましい子ども』の創造に寄与していきたいと考えている。

II. 研究のねらい

- ・自分の調べたいことや調べたい内容をきめだすことができる。
- ・必要な情報を探し出すことができる。
- ・調べたことを評価することができる。

III. 研究の内容と方法

1. 研究の内容

(1) 読書環境を整える

まず、はじめたことが読書環境を整えることである。

いままで、係が常駐していなかった図書館は子どもたちが入っても、とにかく冷やかな感があり、本を置いておく倉庫の印象が強い。そこで、子どもたちが足を向けたいくなる環境整備と子どもの必要に応えられる内容の充実に力点をおいた。

環境整備としてやったことは、書架の配置換え・館内の装飾・コーナーの設置・貸出し冊数をふやす・予約貸出し・学習室の設置・視聴覚機器の設置・コピー機の使用・地域図書館との提携・他の学校図書館との連携・家庭や地域への啓蒙・児童の活動の工夫などである。

2. 本校の読書活動全体構想

(1) 読書指導と利用指導

読書教育は、読書指導と利用指導の二つに分けることができる。その両者の区別および相互関係は必ずしも明確化されていないが、本校では次のように区別して、研究を深めることにした。

〔読書指導〕

個々の子どもの当面する問題意識や生活現実と密着し、その認識能力の発達をみながら読書活動をとおして「ものの見方、感じ方、考え方」を育て、また学びとらせていく指導。→読書による人間形成あるいは教養、趣味の育成（豊かな情操の育成）をめざす。

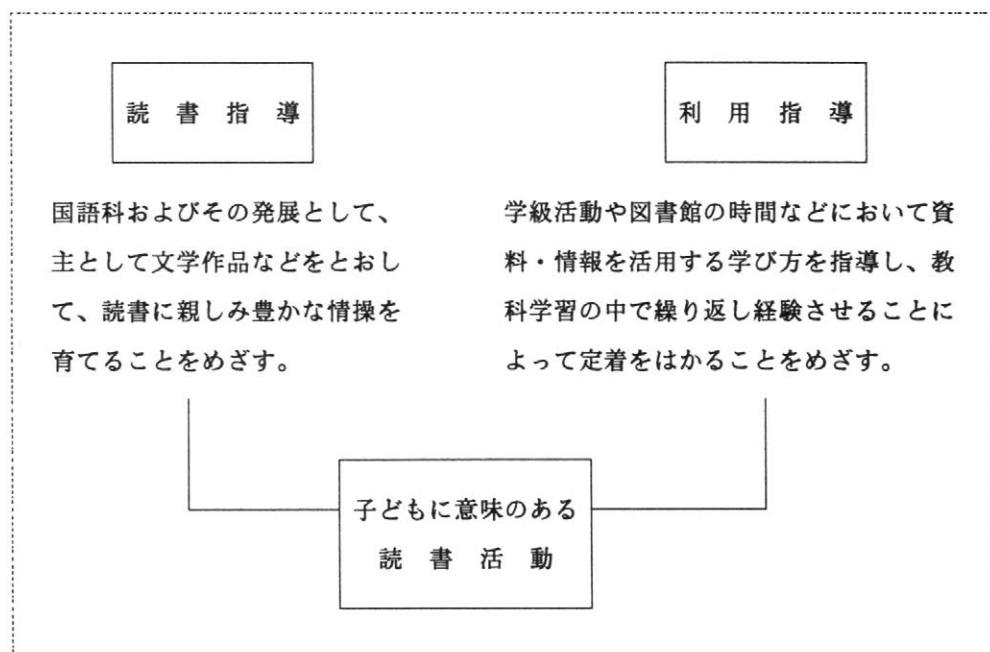
〔利 用 指 導〕

子どもに図書館および資料の利用法を習得させることによって、生涯学習に必要な主体的に学習する能力を育成する（学び方を学ばせる）指導。

→図書館の利用の仕方および資料、情報の収集、選択、活用する能力の育成をめざす。

読書指導と利用指導の関係

読書指導と利用指導にはそれぞれの指導領域、指導方法があるが、両者はともに子どもの読書活動に関する分野であるので、相互に関連づけながら子どもの全人格形成に向けた指導をしていくようにする。



3. 読書指導教員による読書指導時間の設定

第5学年 図書館教育年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の利用(図書館のさまざまな使い方) ・公共図書館の利用(図書・資料の探し方と借方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書分類と配架(十進分類表と配架の関保) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間(読書の記録) 	<ul style="list-style-type: none"> ・百科事典の利用(特徴、使い構方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年鑑の利用(特徴、使い構方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査、研究のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書リストの作成(ジャンル別図書リスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書旬間(読書の記録、読書感想文) 		<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、雑誌の利用(新聞、雑誌の種類と使い方) 			<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の図書館利用のまとめと反省
読書指導	読み聞かせ 全校一斉読書 自由読書											→ → →	

第6学年 図書館教育年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の利用(図書館のさまざまな使い方) ・公共図書館の利用(図書・資料の探し方と借方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書分類と配架(十進分類表と配架の関保) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間(読書の記録) ・新聞、雑誌の利用(新聞、雑誌の種類と使い方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一研究(研究の計画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計グラフの利用(統計グラフの特徴と調べ方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一研究の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・目録の利用(著者目録、件名目録による探し方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書旬間(読書の記録、読書感想文) 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究結果の発表(調査研究のまとめ方、発表方法、視聴覚機器の利用) 		<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、雑誌、テレビからの情報の得方 		<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の図書館利用のまとめと反省
読書指導	読み聞かせ 全校一斉読書 自由読書											→ → →	

4. 読書利用指導の実際

(1) 図書館を学習情報センターとして

図書館が情報の収集をし提供をしていく場にならなくてはならないと考え、まず図書資料の蔵書配分の見直しをし、調べ学習に使えるような図書の購入を中心に図書の選定を考えた。

また、視聴覚資料が使えるようにビデオ、紙芝居などを配置した。

書架配置図や書架案内なども作成し使いやすい、わかりやすい図書館にした。

ブックリスト「どの本で調べるか」を購入しその使い方を指導した。

しかし、学校図書館だけでは、資料収集に限度があり、また、図書購入という点では難しいものがある。

そこで、他の図書館との連携・ネットワークということが必要となってくる。

公共図書館での団体貸出しや相互貸借、他の学校図書館との貸し借りなどで、子どもたちが必要としている図書や資料の集まることがある。

また、図書館は本を読むだけの場所ではないということで、授業にもどんどん使用してもらうようにした。しかし、どこかのクラスが使用していると他のクラスが使用できないということができたので、今年度は、図書館のとなりの空き教室を学習室とし図書資料の移動もした。どちらの教室でも調べ学習ができるのである。

(2) 学習の展開のしかた

学校図書館の利用指導が学校における学習という狭い立場のものでなく、その人の生涯学習のあり方にかかわる重要な技術や能力を指導することであることは、長い間言われ続けてきたことであるが、なかなか取り組めないのが実情である。

本校ではこのような機会を与えられたことで、図書館の見直しと共に、授業についても考えてみることにした。

学習の展開について、思考錯誤しながら、次のようなことを実践した。

① 調べることや調べる内容の決め出しについて

『ガラパゴスの自然と生物』

小段落ごとにルーズリーフを配布し、その段落で自分が調べたいことについて自分で決めさせた。

決めだしたことは、マーカーなどを使って線をひかせたり、書き込みを入れさせたりした。

調べることや調べる内容が具体的になっていると、子どもたちは意欲的に資料にかかわることができる。そして、調べる内容を的確に読み取っている。また、そこから、ちがう情報についても知ろうとする意欲がでてきている。

このようなことから、調べることや調べる内容の決め出しはたいへん重要であると考えている。

② 調べる過程での見通しをもつ・計画

まとめ方について、「なんでもキョウリュウ図鑑」のように教師の側で与えてしまう場合（ファイル）と、新聞、ノート、カードなど何でもよしとする場合がある。

教師側から与える場合は、それに興味や関心をもたせる導入が必要である。

発表方法については、OHP・模造紙・紙芝居・劇化・表現・新聞など、さまざまである。まとめ方に関連している場合もあるが、概ね、こどもたちに選ばせるのがよい。

「なんでもキョウリュウ図鑑」

（これまで恐竜についていろいろよめ合う中で、東の恐竜の本をクラスへもって来りこの本に存在しない恐竜に対してもっと知りたいたいという声があがっていた）

T: 今まで茶臼山恐竜公園で実際に恐竜を見たり触ったりしてきましたね。また、教科書で「キョウリュウの話」を勉強してきました。（巨大な恐竜の絵本を見せて）

T: みんなもこのようなあなた達の本を作ってみない？世界で1つしかない友達にはまねのできない自分だけの本を。

C: うんうん、作ってみたい。

T: みんながそういうと思って、ジャーン！みんながまとめる本を用意しました。なんと1冊10,000円もするんだよ。（涙）

C: うそー。本当にそれに書いていいの？

T: 今からこれはみんなのものだよ。

C: 先生、その本には何を載せてもいいの？

T: そう、本は中身が大切だよ。みんなはこの本にどんなことを載せたいかな。



③ 資料の収集

どのような資料を使うのか見通しをもたせ、その資料をどのようにして手にするかを考えさせる。

（図書・新聞・雑誌・パンフレット・写真・電話・聞き取り・見学等）

そして、どの情報が自分の調べたいことにあっているのかをみきわめることは、調べ学習の中で重要な力となってくる。検索能力である。

この能力は、本を選ぶ場面でも使われる。本の見出しをみて必要かどうか見極めるのである。

また、選んだ本のどこに必要な情報があるのか、目次や索引を使って、選び出すことである。

この時、本にふれる時間もたれる。発見、驚き、喜び、楽しみなど、子どもと本がふれあうときである。

④ 情報の選択・整理

集めた資料から、自分の調べたいことや調べたい内容にあった情報を選び出す。

マーキングしたり、切り抜いたり、コピーしたりして必要な資料を取り出すことができる。

また、集まった資料から自分の調べたいことを探し出すのはもちろんだが、友達の探したいこともあったら付箋を入れておくなどして、情報交換の場で教え合うこともできる。

このとき、クラス全員の調べたいことが一覧表などになっていて、みんなが知り合うことが必要である。

⑤ 情報のまとめ

発表の形を考えながら、必要な部分を抜き書きしたり、箇条書きにしたりしてまとめることができる。

コピーを利用し必要な部分を取りだすことができる。

自分の考え、反省なども記入させていく。

⑥ 発表・伝達

発表資料の作成をする。(OHPシートをつくる・紙芝居をつくる・新聞づくり・模造紙・劇の練習・レポート等)

発表の場面では、授業の構造化がはかられ、内容を関連づけながら進めていくことが重要となる。

友達の発表に自分の調べたことがどのようにかわれるのか、どんな関連があるのか、子ども自身がわかることが大切だが、指導側で十分に把握しておかなければならない。



たいは
たんぼはひるき
にひらいてふるに
ほどじてることほ
しりませんでした
でも本をみてわか
りました。(くまこ)

「たんぼは新聞をつくろう」



たんぼは (あか)
たんぼはひるき
なるがわります
ゆたはは之しるひつり
ました。
まま、せいのたんぼ
は、おろが下にわく
まわりの、は、シ
バ、シバ、シバ、
は、しるひつりたん
ぼは、ひるき、
は、しるひつりたん

⑦ 保 存

簡単な資料リストをつくっていく。

年 組 名前

図 書 リ ス ト			
調べたいこと			
ラベル	書 名	ページ	メ モ
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			

年 組 名前

資 料 リ ス ト			
調べたいこと			
ラベル	書名・資料名	ページ	メ モ
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			

以上のような学習の展開を実践しながら、利用指導をすすめてきた。

〔6年〕 利用指導の実践事例

1. 単元名 「ガラパゴスの自然と生物」

2. 単元設定の理由

今まで、いろいろな場面で調べ学習をしてきた子どもたちであるが、系統的な指導をしてこなかったので、個々の調べ学習に対する力がちがってきている。

そこで、今年度の研究課題である調べたいことへの決めさせ方、調べていく見通しの立てさせ方、調べた内容の見返しについて重点をおき、「ガラパゴス諸島」という知らない地域のことを調べながら、そこに生きる生物の特徴をつかみ内容を把握していく単元を設定した。

3. 本時案

(1) 本時の主眼

段落ごと読み進めながら、気づいたことや気になったことなどを調べてきた子どもたちが友達のルーズリーフを見て気づいたことを発表しあい、資料の使い方や選び方、要点のとり方についての有効な方法を知り、調べ方を工夫しながら次の段落を読み進めていくことができる。

(2) 本時の位置（10時間扱いの第3時）

前時……第一段落で調べたことについて発表し、内容をまとめた。

次時……調べながら、読み進めていく。

(3) 指導上の留意点

- ・一人学習だが、資料の数が十分でないものもあるので、共有して使わせる。
- ・担任と読書指導教員は机間巡視をし指導や支援をする。

(4) 展 開

学習活動	予想される児童の反応	指導・評価（◇は読書指導教員）	時間
1. 友達のルーズリーフを見て、気づいたこと	・調べた内容に気づく。 ・たくさん調べてある。 ・同じことを調べている。 ・調べ方に気づく。	・第一段落を調べたルーズリーフを提示し、気づいたことを発表させる。	10

<p>を、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一冊で調べていない。 ・要点のとり方に気づく。 ・色わけしている。 ・図や絵が書いてある。 ・自分の考えや感想が書いてある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ方や要点のとり方について気づくことができたか。 	
<p>2. 自分のルーズリーフを見て、調べること、調べ方、要点のとり方について見返すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を読み返し、調べたいことを見返す。 ・このことも調べてみよう。 ・調べた内容を見返す。 ・この言葉の意味がわからない。 ・つけたしをしよう。 ・要点のとり方について見返す。 ・マーカーを使おう。 ・大事なことは大きく書こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のルーズリーフを見させ、見返したことを意識させる。 ・調べ方や要点のとり方について見返すことができたか。 	7
<p>3. 次の段落の読み進めをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の資料にはどんなことがかいてあるのだろう。 ・もっと詳しく載っている資料はないだろうか。 ・他に調べることはないだろうか。 ・この段落の内容がわかった。 ・こんなにたくさんのがわかるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見返しを活かしながら、読み進めができたか。 	28
<p>4. 次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この次も調べ方を工夫しながら読んでいこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の読み進める段落を、確認させる。 	5

- C. まとめ方で、色が使ってなかったり、絵がはいっていなかったりする。
- C. ぼくも絵がなかった。
- C. ページをいれてなかったののでいれていきたい。
- T. いろいろわかったことがありましたね。では、調べ方でわかったことや気づいたことを取り入れながら、次のところを調べていきましょう。(後略)

V. 研究のまとめと今後の方向

1. 読書環境を整えること

子どもたちが読書に興味をもつのに、まず一番に読書環境を整えるということが重要である。図書館に人が集まるためには、そこが明るくあたたかい雰囲気であってはならない。

中でも、一番大きな影響は、そこにいつでも人がいてくれるということである。司書の先生の存在は大きい。

次に、どんな本を準備しておくかということである。

新刊本ばかりをならべるわけにはいかないが、子どもたちの興味や関心、必要に応じているかどうかということが重要である。

2. 読書活動の習慣化・定着化の意識づけ

本は好きだが読む時間を見出せない子に時間をつくってあげたい。いろいろな分野の本を読んでもらいたい。図書館に足を運んでほしい。というような願いから、各クラス隔週一時間の読書の時間を設定し、年間指導計画に基づいて、読み聞かせ・ブックトーク・利用指導等を入れて授業を行ってきた。

基本的な時間割のほかに、毎週の授業時間割を作成することは、行事等の関係から必要な事と思われる。

年間指導計画は授業を実施しながら修正を加え、年度ごとに作成していくのがよいと思われる。

3. 利用指導の効果的なあり方

利用指導をはじめるとあって、図書館を見直し、できる限りの情報の収集管理・提供がおこなえるようにととりくんできた。

まず、図書資料については、蔵書点検をし、調べ学習に使えるような図書の購入を優先した。

これは、蔵書配分の面からもよかったことである。

蔵書の配架についても見直し、子どもたちが本と接しやすいようにと考えた。

購入しきれないものについては、公共図書館からの貸出しをお願いし、資料の提供に努めた。

また、子どもたちの作成した資料も参考資料として蓄積していくようにした。

利用指導は、すべての学習の分野において行われなければならないということで、いろいろな教科・特別活動で取り組んでみたこともよかったことである。

授業については、利用指導の指導内容体系表を作成し、いくつかの授業を試してみた。そして、授業の展開の中で、調べることや調べる内容のきめだし・調べる過程での見通しのもとせかた・調べたことへの評価などについてが重要であることがわかった。

今後の方向として以下のことを考えている。

(1) 読書の時間の継続確保

今年度、各クラス隔週一時間の読書の時間を設けたが、前述にもあるように、読書の習慣化・定着化を図るために継続していきたいと考えている。

(2) 司書と担任との連携

今まで読書指導教員が入っていた授業等を担任が積極的に行っていかなければならないが、必要資料の準備などで、見通しをもった対応ができるよう司書との連携を密にしていかなければならない。

(3) 利用指導の推進

2年間行ってきた利用指導の方向は、子どもたちが自ら学び方を学ぶというこれからの教育に必要なことであり、よい方向であった。

そこで、今後も研究を深め、図書館を学習情報センターとして、機能していくよう努めていきたい。

(4) 読書指導カリキュラムの修正

指導を進めながら、検討し修正してつくりあげていきたい。

(5) 予算増の働きかけ

利用指導を行っていくとき、その資料となる図書は高額のものが多くなる。また、統計など新しい資料を必要とするものも多くなっていく。

そこで、予算の増額をはたらきかけ、蔵書数をふやしていきたい。

主体的な読書活動を支援する学校経営



茨城県日立市立大久保小学校

川崎 弘

I. 主題設定の理由

子供は本来本が好きである。本を読むことは、豊かな心を養い、人間形成に大きな役割を果たしてきた。しかし、最近ではマスメディアの影響により、さらに子供を取り巻く生活環境の変化により、読書離れ、活字離れが顕著となっている。学校教育においてはその対応策が急務である。

II. 研究のねらい

読書は、学校教育のすべての教科の基礎力を養う上で重要な活動である。このため、現行学習指導要領においては、子供の自己教育力を高める観点から、①総則の中に「学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用に努めること、②小学校の国語においては、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うことを促すようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと、③特別活動においては、学校図書館の利用や情報の適切な活用を図ることが明示されている。

今日の学校教育においては、自ら学び自ら考える力、情報を収集・活用・処理する能力などの育成が期待されている。また、豊かな感受性・人間性の育成、そして、子供たちが生涯にわたって学ぶ力を身につけることが重要な課題である。

私は、子供の主体的な読書活動を充実させることにより、このような能力の育成を図ることができると思う。

Ⅲ. 研究の内容と方法

1. 学校経営の重点

本校の教育目標は、「つよく・かしこく・なかよく」である。自信と誇りを持ち、自分の目標に向かって精一杯学び続ける子供の育成を目標としている。経営の重点として、下記の5項目を示し、その中に「読書力の向上」を位置づけた。これをどのように職員に浸透させていったらよいかを経営上の課題とする。

- (1) 知的好奇心を高め、学ぶ意欲・態度を育てる。
 - ア. 算数の「よさ」を体験を通して味わい、見通しを持って問題解決ができる。
 - イ. 自己教育力の基盤づくりとしての読書力を高める。
 - ウ. 子供一人一人のよさや可能性に着目し、認め励ます。
- (2) いじめ、不登校のおきない学年経営、学級経営に努める。
- (3) ねばり強く、自分の記録を伸ばす子供を育てる。
- (4) 美しいもの崇高なものに感動する心を育てる。
- (5) 家庭と学校との連携を強める。 (2)以下は小項目を省略)

2. 子供の発達段階に応じて読書活動を支援するポイントは何か。

低・中・高学年の子供たちの読書力の実態に即して、次の3点を明らかにする。

- (1) 読み聞かせの時期と方法、良書の紹介
- (2) 学校生活の中での読書時の時間の確保と読書カードの利用
- (3) 子供の読書活動を広げる親子読書の推進

3. 教科学習の中で主体的に読み、調べ、考える学習活動の拡大

- (1) 国語・社会科等の授業での調べ学習
- (2) 算数授業での調べ、考える学習 (実践例)

4. 読書センターとしての学校図書館の運営

- (1) 学校図書館の役割と利用指導の充実
- (2) 子供の興味関心を高める本の購入と配列
- (3) 子供の読書活動を広げる図書委員会活動の工夫

5. 学校図書館と公共図書館との連携のあり方

IV. 実践と考察

1. 校長としての実践

日頃、校長として考えることは、教師は自ら進んで読書し、自ら進んで研修に励んでいるかどうかということである。また、子供の本に関心を持ち、それを読み、子供と同じ感動を共有しているかどうかということである。今は亡き司馬遼太郎氏は「人間が生きている証は、年齢ではなく、心の中に宿るみずみずしい子供心を見失わないことだ」と書いている。みずみずしい子供心を持っている教師は、子供たちに、自らの感動を伝えるであろうし、よい本を紹介し読み聞かせることができる。これは、教師ばかりでなく親にも言えることである。

子供の読書活動を支援する原点はここにあるように思う。そして、大切なことは、本と初めて出会う幼児期の読み聞かせであり、小学校に入学してからは、3年生までの指導にある。

(1) 自分で読んで参考になった本は、職員に紹介し回覧する。

(2) 全職員から子供に読ませたい本のアンケートを取り、本の購入や良書の紹介に生かす。

このねらいは、全職員に子供向けの本への関心を喚起することと、子供たちとの会話に、絵本や昔話などの話題を提供してほしいからである。

(3) 全校朝会や填補授業で、名作を紹介したり、読み聞かせにより、読書意欲を高める。

全校朝会は校長にとって、全児童（886名）を対象にした唯一の授業場面である。子供たちに読んでもらいたい本の内容を紹介する。同時に、その内容を家庭にも伝え、「親子読書のすすめ」の意味で、啓もうを図っている。（資料1）

(4) 図書主任（教諭）、図書館担当者（市職員）、国語主任、学年主任等と連携を図る。

学校経営の重点に基づいて、読書週間の持ち方、図書委員会の運営、図書館利用指導などについて話し合い、校長の考えを伝え、よりよい運営を目指していく場と機会を設ける。

2. 読書活動を支援するポイント

1年生の1学期に、本についてのアンケートをとってみた。（資料2）

このアンケートからわかることは、子供は家の人からあまり本を読んでもらっていない。つまり家庭では読み聞かせがそれほど行われてはいないのではないだろうか。全然読んでもらわない子（25.8%）がいる。幼児や低学年の子は、読み聞かせを喜ぶ傾向にあるが、自分で読んだ方がいいという子（61.3%）が多いということは、読んでもらった経験が少ないこと、親が読み聞かせに慣れていないことを示しているように思う。PTA両親学級などでの研修会を開く必要性を感じる。

子供たちがお話や本に接するときのさまざまな障害を乗り越えるのには、両親は次の問題を避け得ないこととして、いやでも挑戦しなければならない。①両親は家庭で、お話や読み聞か

せについての考え方をしっかり持つ必要があるという事実を認める。②両親は家庭で、お話や読み聞かせをすることの価値を認識する。③両親は子供たちが他のことに持つ興味と同じ程度の興味を、お話と読み聞かせに対して持つように努力する。

（「ストーリーテリングの実践」伊藤峻、竹内慈編 p.27～28引用）

次に、低・中・高学年の担任より、実践の中から読書指導のポイントをおさえてもらった。

〈低学年〉

(1) できるだけ多くの本に触れさせる。

低学年は絵を見て本を選んだり、絵をたよりに本を読むため、学校の図書室や公共図書館で手にとって自由に読ませる機会を多く作る。

(2) 子供の選んだ本、読んだ本に共感する。

「おもしろそうだね」「いい本を見つけたね」「おもしろいところを教えてね」と声をかけていくうちに本に対する目が養われる。

(3) ぜひ子供に読ませたい本は、読み聞かせをする。

本のおもしろさ、良さを感じ取ってもらうには読み聞かせが最も効果的である。

(4) 親が本に関心を持ち、子供と一緒に読む。

子供に読ませたい本をそっと居間やテーブルの上に置いておく。

〈中学年〉

(1) ブックトークと読み聞かせをする。

（資料1）

読書のすすめ

— パートⅡ —

学校長 川崎 弘

読書の秋にちなんで、ある朝の全校朝会で子どもたちにこんな話をしました。皆さんは一日にごはんを何回食べますか。「3回」「3回だっべ」そうですね。朝、昼、晩の3回ですね。朝ごはんはと晩ごはんはお家のお母さんが栄養を考えて作ってくれます。昼ごはんは栄養士の方が献立を考え調理場のおばさんたちが作ってくれます。そのおかげで皆さんはこんなに成長したんですね。

ところで、皆さん方にはごはんを4回にしてほしいんです。それは何でしょうか？（ちょっとの間）それはね、朝ごはん、昼ごはん、晩ごはん、それに本ごはんです。本を読むことです。本を読む習慣をつけてほしいと思います。

そこで持っていった一冊の本「フランダーズの犬」をみんなに示しました。この本は私の娘が小学校の低学年の頃読んだ本です。すこし古くなり、落書きもしてありますが、とてもいい本です。読んだ人はどのくらいいますか。（かなり多くの手が上がりました。）私はこの本の紹介をかねて一つの質問をすることにしました。「この物語はヨーロッパのフランダーズというところに一人のおじさんとネル少年とパトラッシュというそれはそれはよく働く犬とのお話です。ふつうのお話は最後にみんな幸せになって終わるのですが、この物語はちょっと違っているのです。」と聞いて、まえがきの部分を読みました。

さあ どんなふうになるのでしょうか。わかっている手を挙げて下さい。たくさん手が上がった中から3人朝礼台に上がってもらいました。Aくん、Bくん、Cさん偶然にも全部2年生でした。Aくんから順に聞いていきました。Aくん「ネルとパトラッシュは死んでしまう」、Bくん「2人とも教会の中で死んでしまった」、Cさん「教会にかかっている絵を見てそこで死んでしまう」見ごとと運係プレーの答でした。私はこの子たちがしっかりと本を読んで、おくせず全校児童の前で見事な答をしてくれたことに感激し、ごほうびに鉛筆1本という小さなプレゼントをあげました。

その日のうちに、Cさんから小さいかわいなお手紙が届きました。『校長先生へ かわいいうえんぴつをどうもありがとうございます。おかあさんは〇〇、本のよみすぎは良くないワヨ』とよくいいます。わたしは2才のころに「もも」という字を読めました。そのころから、いろいろな本をかりたり、かったり、本だながばんばんになるほどよみました。だから、今回も言えただと思います。一ではまた、手紙を書きます。』（原文のまま）

私はこの小さなお礼のお手紙に感激しました。そしてこんなに本好きな子もいるんだなという理解がひとつ深まった思いでした。「一人ひとり大切に」ということは、一人ひとり子どもへの深い理解がなくてはならないことをしみじみと感じた次第です。

（資料2）

ほんについてのアンケート

(1) いえのひとにほんをよんでもらっていますか。

ア、まいにちよんでもらう (6.5%)
イ、ときどきよんでもらう (67.7%)
ウ、ぜんぜんよんでもらわない (25.8%)

(2) ほんをよんでもらうのは、すきですか。

ア、すき (38.7%)
イ、じぶんでよんだほうがいい (61.3%)

(3) じぶんでほんをよみますか。

ア、まいにちよむ (25.8%)
イ、ときどきよむ (61.3%)
ウ、ほとんどよまない (12.9%)

(4) わからないことがあったとき、

ほんでしらべますか。
ア、ほんでしらべる (25.8%)
イ、おとなにきく (51.6%)
ウ、そのままにしておく (22.6%)

1日5分でも10分でもよい、教師がお話や読み聞かせにより感動を伝えていく。

- (2) マンガ読み物から読書の幅を広げる。

絵本から活字への移行期であるので、そのステップとしてマンガ読み物からジャンルを広げていく。自分の好きな本やすすめたい本におびをつけて紹介する。「本のおびを作る」実践

- (3) 本の内容についての話題を日常の中で欠かさない。

子供から学ぶ姿勢が大切である。子供から教えられる本を読み、口こみで紹介する。

- (4) 読みたいときに読むことができる。授業中調べたいことがでたら、図書室を利用する。

学校の図書室、公共図書館（学校の近くにある）にどんな本があるかつかんでおき紹介する。

〈高学年〉

- (1) 高学年でも読み聞かせを大切にする。（ストーリーテリングの技術を身につけたい）

高学年は冒険・探検・科学・歴史・伝記の本などに興味が出てくる。

- (2) 読書の時間を確保する。

朝の読書（読書週間の時）、朝の自習時間、図書室の割当て時間（週1回）を利用して、教師も子供たちと一緒に読書する。

- (3) 本について情報を交換する手段を用意する。

例えば、学級の時間を利用して、「みんなにすすめたい本」というテーマを設定し、内容や感想を級友に紹介する。また、「読書の木」を廊下に掲示し、本の題名、感想などをカードに記入し貼る。

- (4) 家庭への啓もう。

学級通信や学級懇談会を通して、テレビ、ファミコンとのつき合い方、親子読書などについて話し合い、担任としての考え方を伝える。

3. 算数授業での調べ・考える学習

—— 4年 算数科（ティームティーチング）の学習指導 ——

- (1) 単元 面 積

- (2) 目標

ア. 自分の生活で身近な面積に関心をもち、長方形や正方形などの面積をより簡単な方法で進んで求めようとする。（算数への関心・意欲・態度）

イ. 面積の意味や単位及び単位と単位の関係、面積の公式の意味が分かる。（知識・理解）



- (3) 指導観、求積問題は、個人差がでると思われるので、習熟度別に進めるようにして、TTのよさを生かし、個に応じた支援をして基礎基本の定着を図る。

- (4) 指導計画 11時間取扱いの6・7時（本時）

(5) 本時の指導

- 目標 ○コンピュータや本を活用して、進んで面積の学習に取り組むことができる。
○複合図形の面積を既習事項を活用して、求めることができる。

○展開

学 習 活 動 内 容	
1 本時の学習課題について話し合う。	
 <p>面積をくふうして求めましょう。</p>	
(1) 見直しをもつ。 ・前に学習した形にしている ・前にやったもとのめ方でできそう ・長方形2つに分けてもとめる ・大きな長方形から小さな長方形を引く ・1cmがいくつ分か数える ・難しくそう ・簡単にできそう ・くつしたの形 ・長方形、正方形の面積の公式が使える ・ $5 \times 8 = 40$ より、へこんだ分小さい	
(2) 学習の進め方を知る。 ①自分で解けそうなとき→視聴覚室でプリント→図書室で「面積」について調べる →コンピュータ室でコンピュータで練習問題をして自分で答えを入力し、評価する。 ②自分で解けないようだ→コンピュータ室でコンピュータのヒント画面を見る→ヒントコーナーへ →できたら視聴覚室でプリント ③約束の時間になったらコンピュータ室にもどる	
2 自力解決し、習熟度別に複合図形の面積を求める練習問題をする。	
自力解決できそう(視聴覚室)	自力解決できないよう(コンピュータ室)
プリント ↓ 共通問題(教師のチェック) ↓ 練習問題NO1(必要な辺の長さをはかって求める) ↓ 練習問題NO2(2つの方法で求める)	F3 ↓ コンピュータのヒント画面を見る(教師の説明) ↓ 共通問題 ↓ ヒントコーナーでヒントカードをとってくる ↓ 練習問題NO1 ↓ 共通問題 ↓ 練習問題NO2 ↓ 練習問題NO1
練習問題NO3(求め方の説明を書く) ↓ コンピュータ室へ→図書室へ ↓ 練習問題 ↓ コンピュータで問題をつくる ↓ 答えあわせ	練習問題NO1 ↓ 練習問題NO2 ↓ 練習問題NO3
コンピュータ室 ↓ TV ↓ Cは1台1人で Bは2~3人で Aは後半に使用 1~2人で	視聴覚室 ↓ 72 ↓ ヒントコーナー
3 本時のまとめをする。(コンピュータ画面で)	
 <p>のような形の面積は、長方形や正方形に分けてもとめたり(全体)→(部分)をしてとめる。</p>	
4 次時の学習を知る。	
・友達の発表を聞く。「h a, a, kd」「茨城県、日立市、霞ヶ浦の面積」など ・ビデオを見る。「大きな面積の単位」	
5 自己評価する。(振り返りカードを使って)	
・今までのやり方を使ってできたか。 ・進んで問題に挑戦したか。 ・今日の学習がわかったか。	

〈考 察〉

上記の指導案には、詳細に教師の「支援と配慮」、「評価」が付いているが、紙面の都合上省略した。

本時はオープンスペースの自由な雰囲気の中で、いろいろな面積の問題に自分から進んでチャレンジしていく学習である。習熟の段階では、子供が自らABCのいずれかのコースを選択して、練習問題に取り組み自己採点する。終了した子供はコンピュータを使ってさらに問題を解くか、図書室でいろいろな本を活用して調べ学習をしたり、問題作りをする。図書を活用した調べ学習は、自ら課題を見つけ、日常生活の中での算数のよさの発見につながるものである。このように主体的に学ぶ環境を構成することは、「自分で選び、自分で解決し、自分で振り返る」自己教育力を育成することである。本校では、ティームティーチング用の教室がないので視聴覚室、コンピュータ室、図書室の3つを活用して、オープンスペースで授業を構成し

ている。教師が2人いるので、このような場の設定が可能となる。3教室のうちの一つは、教師がいなくても主体的に学習できるように配慮する。図書室はそのための格好の場である。

この授業で図書室で調べ学習をした子供は、12～13人で、学級の約三分の一である。比較的上位の子供である。

使用した本は、①茨城の算数ものがたり
②たのしい算数教室、③ドラエもん、おもしろ算数攻略「面積・体積」、④おもしろハウスのおじさん、⑤なんでも日本地図などである。



4. 学校図書館の運営と学校図書館の利用指導

本校の本の貸し出し冊数は年々増えている。平成6年度は前年度に比べて、5947冊増加、7年度は、9471冊と大幅に増加した。(資料3) 学年別に見ると、3年生、2年生、4年生の順で本を借りている数が多い。中学年の子供たちの読書意欲は高いといえる。

1年間の本の貸し出し冊数 (資料3)

年度	貸し出し冊数	50冊以上借りた人の数
平成5年度	7636冊	36人
平成6年度	13583冊	65人
平成7年度	23054冊	127人

これは学校図書館に専門職員ではないが、図書担当職員(市職員)がいて、図書主任(教諭)と連携を取り合って、子供の読書力の向上に熱心に取り組んでいる成果である。さらに、学校経営の方針にそって、学級担任が地道な努力をしているからであろう。学校図書館に人がいてはじめて読書センターとしての機能が発揮できるのである。読書センターとしての図書館から学習センターとして替わろうとしている現在、司書職員の配置を切に望みたい。

(1) 読書週間

毎学期1回、読書週間を設けて実施してきたが、今年度は、1週間の期間を延長して2週間にした。そして、朝の読書として15分間、全校一斉の読書タイムを確保し、各学年の実態に応じてそれぞれ工夫してみた。今年始まったばかりで定着したとはいえませんが、子供一人一人が朝、学校生活のスタートに静かな主体的な時間を持つことの意義は大きい。平成9年度は、読書月間を設け、朝10分～15分の読書時間が確保できるように計画中である。林 公氏のすぐれた実践である「朝の読書」10分間に学びたい。

図書委員会が読書週間として行ったこととして、①この期間はいつでも本を借りられるように、貸し出し時間を配慮したこと、②低学年の子供たちのために、休み時間を利用してお話を

を開いた。多くの先生が参加し好評であった。③高学年には、標語募集をした。228点の作品が集まり、入選作品については色紙に書いて掲示した。また、辞書引きコンテストを実施した。初めての試みだったが、高学年の男子に人気があり、まめに辞書や百科辞典を引く雰囲気や環境づくりに役立ったようである。

(2) 図書室の自由閲覧について

授業中必要に応じて自由に使えるようにする。使用目的として、①各教科等での調べ学習や新聞作り、②算数調べコーナーの活用、③その他

(3) 学校図書館の利用指導

学校図書館の利用指導とは、子供たちに図書館及び資料の利用法を修得させることにより、主体的に学習する能力を育成する指導である。したがって、現行学習指導要領には明示されていないが、年間4～5時間は確保し、段階的に指導し学び方を身につけることが大切である。

学校図書館の利用と指導学年別題材一覧表

(資料4)

学校図書館の利用と指導学年別題材一覧表 平成8年度

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
A 図書館及びその資料の利用に関する事項	・としょかんめぐり (生活科) 4月 ・がっきゅうぶんこ (学級活動) 7月 ・ほんをたいせつに (学級活動) 9月	・学校図書室に行こう (学級活動) 4月 ・本のせいら (学級活動) 5月	・読みたい本をさがそう (学級活動) 4月 ・多賀図書館を見学しよう (社会) 6月	・学校図書館の働きを調べよう (学級活動) 4月	・本の分類(10区分)と配列 (学級活動) 5月 ・多賀図書館の利用 (学級活動) 6月	
B 情報・資料の検索と利用に関する事項		・ずかんのつかいかた (生活科・情報) 7月		・新聞・ざっし・写真・パンフレットなどを集めよう (教科・学級活動) 6月 ・国語辞典や漢和辞典を利用しよう (国語) 7月 ・百科辞典で調べよう (教科・学級活動) 9月	・目録の利用 (学級活動) 7月 ・ファイル資料の自作とその利用 (教科・学級活動) 9月 ・視聴覚資料の利用 (教科・学級活動) 11月	・ファイル資料の活用 (教科・学級活動) 4月 ・年鑑の利用 (社会) 5月 ・百科辞典の利用 (教科・学級活動) 6月 ・資料リストの作り方 (教科・学級活動) 9月
C 情報・資料の収集・整理と管理に関する事項	・ほんでしらべる (生活科) 9月	・ずかんのつかいかた (生活科・情報) 7月		・百科辞典で調べよう (教科・学級活動) 9月		・資料リストの作り方 (教科) 9月 ・研究ノートとり方 (社・科・情報) 7月
D 生活の充実に関する事項	・ほんをよんでもらしましょう (国語・朝の会) 4月～ ・ほんをたくさんよみましょう (国語) 10月	・本を読んでもらしましょう (国語・朝の会) 4月～ ・本をたくさん読みましょう (国語) 10月	・読書のあしあとを残そう (国語・学級活動) 10月	・よい本をたくさん読もう (国語・学級活動) 10月	・読書について (教科・学級活動) 10月	・本の選び方 (学級活動) 4月 ・読書について (教科・学級活動) 10月

V. 研究のまとめと今後の課題

子供にとって図書館は、重荷を下ろす、休む、立ち上がり元気になるところである。また、驚き、好奇心(想像力と創造力)が刺激されるところである。(竹内 愼氏の講演より)、図書館の本質について述べたものであるが、私はこのことに共感を覚える。こうした本質を踏まえて、今後、①学校図書館の施設と機能面の充実、②司書職員の配置、③公共図書館との連携のあり方などについて、研究を深めたいと考えている。

豊かな心を持ち、自ら学ぶ子供を育てる学校図書館

—読書活動の充実をめざして—



香川県高松市立仏生山小学校

植田 晶子

I. 主題設定の理由

華やかな映像文化、めまぐるしく高度な情報化社会、科学技術の進歩とともに進む自然破壊環境汚染等社会の変化が、激しい昨今である。このようにめまぐるしく変化する社会の中において、子供たちに社会の変化に主体的に対応していくための資質・能力が強く求められている。次の時代がどう変わっていくのか、分からない時に最も大切なことは、自分で考え、判断し表現していくこと、自分で解決していく「自己教育力」の重視であると言われている。自己教育力の育成には個人重視が基本であり、一人一人の興味・関心を大切に、自ら学ぶ意欲を育てることが重視されなければならない。

このような新学力観に立つ教育を進める上で、児童の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う学校図書館は、学校教育上、重要な役割を担っている。特に、今日、社会の情報が進展する中で、多くの情報の中から児童が自ら情報を収集・選択し、活用することが求められる中で学校図書館の果たす役割が一層大きなものとなっている。このため、児童が「自ら学ぶ」自己教育力を養うことを目標に平成5年度から始まった文部省の「学校図書館図書整備新5ヵ年計画」により、学校図書館が生まれ変わろうとしている。

このように生涯教育の拠点を図書館に求められている一方で脈々と受け継がれてきたものに読書指導がある。本校が、親子読書に取り組み、感想文集を発行し始めてから11年目がたった。子供たちの活字離れ、読書離れを憂う声が聞かれる中で継続することができたのは親子読書が親と子の心を結ぶものであるからだろう。学校図書館における読書指導が親と子の心が架け橋になり、豊かな心を育むものでありたいと思い、研究主題を「豊かな心を持ち、自ら学ぶ子供を育てる学校図書館」とし、本好きで感動のある子供の育成、自ら学ぶ意欲を育てる教育

の実践をしていくことにした。

II. 研究のねらい

1. 読書の喜び、楽しさが味わえるような読書活動の工夫、読書環境の整備を計画的に行い、本好きで感動のある子供を育てる。
2. 問題解決の過程において、子供の活動を支援するものとして学校図書館を機能させ、主体的に学習する態度や情報処理能力を育てる。
3. 学校、家庭が連携して読書の日常化を図り、幅広い読書活動ができる子供を育てる。

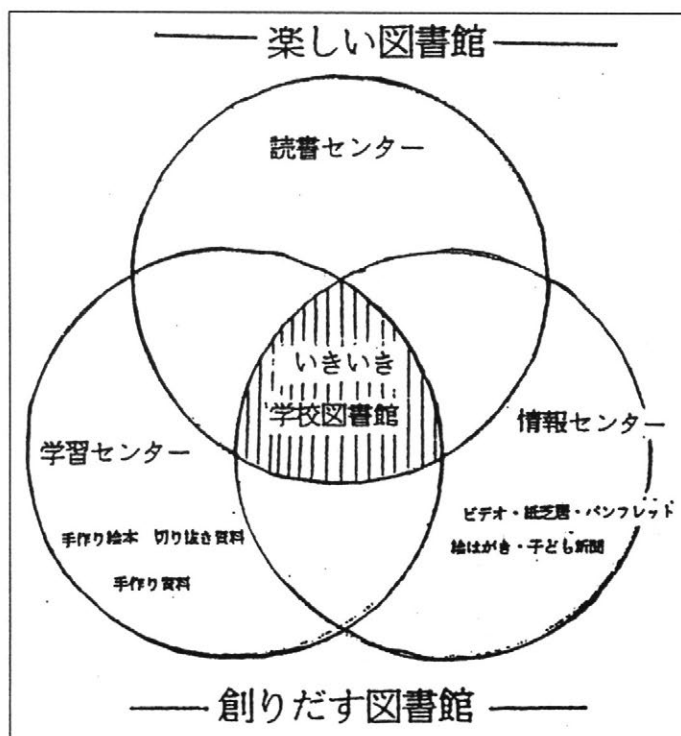
III. 研究の内容と方法

1. 研究の内容

- (1) いきいき学校図書館の運営
- (2) 読書意欲を高めるための読書活動の工夫
- (3) 親と子の心ふれあう親子読書のすすめ

2. 研究の方法

- (1) いきいき学校図書館の運営
学校は門前町の面影を残した町並みや緑に囲まれており、子供たちは地域に学び、地域と結び付いた活動をすすめている。これらの地域性を生かした総合学習「ふるさと学習」は、児童の調べ学習をしようという意欲を大切に資料収集、資料作成を重点的に行ってきた。これに伴い、読むための図書館から調べる図書館へと利用目的が広がってきている。



そこで、空き教室を利用し、読書センターの機能を有する第一図書室（お話の部屋）と学

習センター・情報センターとしての第二図書室を設置した。

学校図書館が読書センター・学習センター・情報センターとして機能し、効率的に利用できるよう、図書、図書資料の収集・整備・組織・配架し、読書環境の整備に努めている。

○ 楽しい図書館（第一図書室）



・親しみやすい読書環境づくり

明るく静かな環境で、読書が楽しめる。

絵本、詩、文学の本を置き、「読みの世界」に浸れるようにしている。心の居場所となるようじゅうたんを敷き、テーブルも台形のものにし、遊び感覚も取り入れ、楽しい雰囲気づくりにつとめている。

教科書関連コーナー・昔話コーナー
一学校からすすめる本のコーナー・

作家別コーナーなどを設けて魅力的で使いやすい図書室をめざしている。

○ 創り出す図書館（第二図書室）

- ・児童が必要としている資料が自分たちの手で速くみつげられるよう学校図書館資料収集と分かりやすい配架に努めている。
- ・基本図書の充実をはじめ児童や教師の多様な要求に応えられる蔵書をそろえている。
- ・授業改善に役立てる。学習情報センターの図書や資料を活用する問題解決的な学習方法を確認し情報活用能力を育てる。
- ・情報の発信地として資料を児童の手で収集、作成、保管していく。

(2) 読書意欲を高める読書活動の工夫

① 国語科における読書指導を日常の読書活動とつないで

国語科の読書指導に図書資料を結び付け、「読書はおもしろい。心が揺さぶられるそんな体験をさせたい。子供自身のものの見方・感じ方を大切にした主体的な読みの力を育てる授業改善を試みている。

そこで、国語科「草花のひみつ」で学習したことから発展し、草花遊びの絵本づくりで情報活用能力を付けようと考えた。絵本を書くために自分のテーマや疑問にそって本を調べたり、観察・体験・聞いたことをもとにいろいろな資料を収集していく。その上で、その中から何を中心にして書くかを決め、適切な材料を整理するとともに、より詳しい取材活動に発展して、情報を処理する力を付けることをめざし単元「草花遊びを絵本にしよう」を設定した。

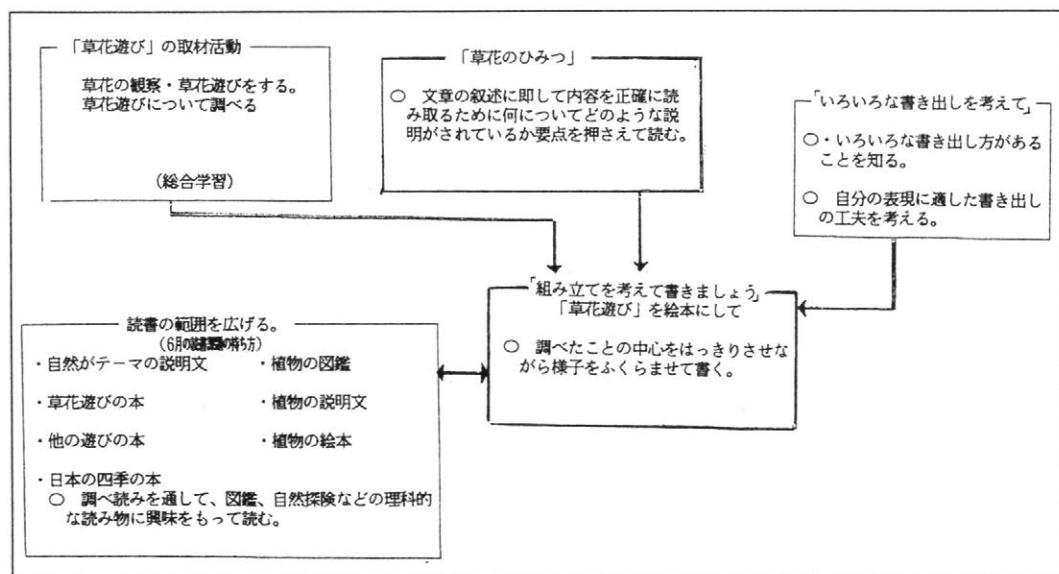
——情報活用能力を育てる単元構想——

総合学習 4年「平池の草花遊びを絵本にしよう」

① 単元の目標

- ・ 自分の必要な情報をいろいろな資料から得ることができ、必要なものを選び再構成することができる。
- ・ 書くことを整理し、中心のはっきりした文章が書ける。

② 単元構成（総合学習）



③ 学習指導計画（国語科）

- | | |
|-------------------------|----------|
| 1次 「草花遊びの絵本」づくりの計画を立てる。 | ………… 1時間 |
| 2次 「草花のひみつ」を読む。 | ………… 9時間 |
| ア 感想を話し合い学習計画を立てる。 | (2) |
| イ 「ヒマワリ」を段落ごとに読み取る。 | (2) |

- ・文章の表現方法の上手な所を見つけ、調べる。
- ・相互段落の関係、指示後、接続語に着目して、内容を読み取る。

ウ 「草花遊び」を段落ごとに読み取る。 (3)

- ・文章の表現方法の上手な所を話し合い、そのことばについて調べる。
- ・調べたことをグループごとにまとめ、発表する。

エ 「草花遊びの絵本」づくりに生かしたい表現や構成をまとめる。 (2)

- ・ササ、シロツメグサをつかった遊びの書き方について調べる。
- ・オオバコをつかった遊びの書き方について調べる。

3次 「草花遊び」を書く …… 8時間

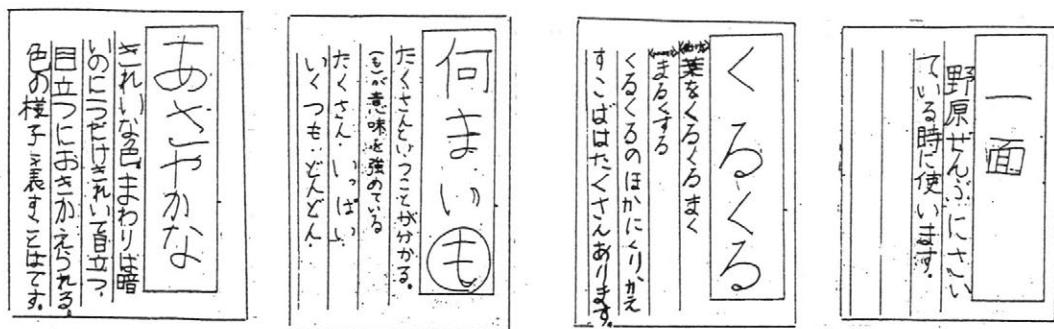
- ア 組み立て表の作り方について調べる。 (1)
- イ 書く材料を整理する。 (2)
- ウ 組み立て表をもとに構想をねる。 (2)
- エ 設計図、構想メモに合わせ、推敲する。 (1)
- オ 絵本に仕上げる。 (2)

④ 授業実践

2次 「草花のひみつ」を読む。

- ・教材文で表現上の上手な所を見つけ、調べる。

ことばカード 辞典を使ったり、ことばを置き換えたり、文章の中で考えたことをカードに書きこんだ。

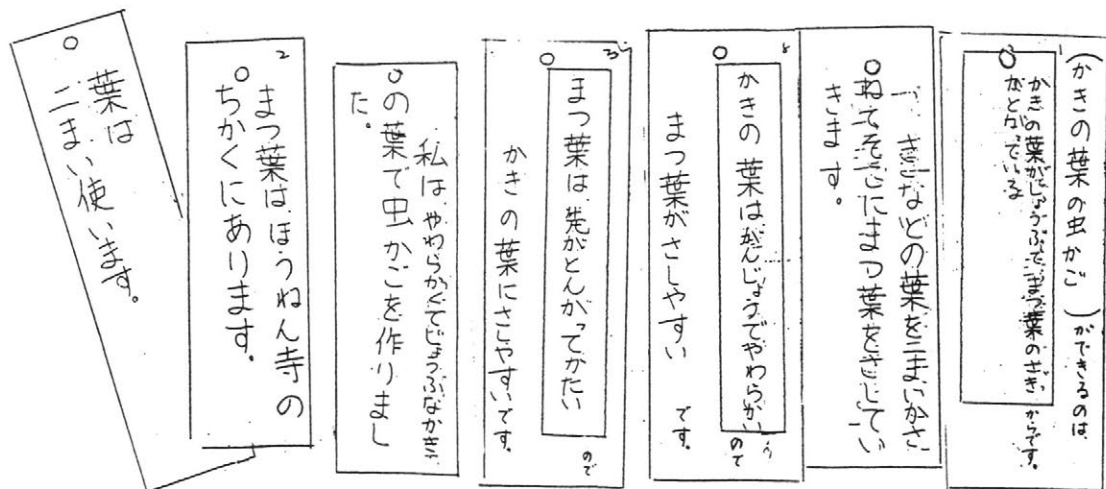


(児童のことばカードより)

3次 「草花遊び」を書く

- ・取材し、書く材料を整理する。

作文カード 思いつくまま一つの短冊カードに一文書き・カードを増やし取材する。



(児童の作文カードより)

・自分の作文カードから足りないところを見つけ、ビデオ・実物に触れて・図鑑から、よりくわしい取材をする。

- (1) ねらい 読み手に分かりやすい文章とするために書くことを整理して書く。
 (2) 学習指導過程

学習活動	児童の意識の広がりや深まり	教師の支援・援助活動					
(前時) もっとも知らせたいことを一つ選び、作文の材料を集める。 (本時) 1 本時の学習計画を確認する。 2 書くことを整理する。 (1) オオバコの書き方を調べる	<p>たくさんのお花遊びの中で○○の遊びが一番伝えたい。</p> <p>2年生が楽しくなる草花遊びの紹介文を書きたい。</p> <p>オオバコの書き方を学びたい。</p> <p>短い文でよく分かる。 生えている場所を書いている。 ふみつける、運ばた オオバコの性質・様子を写している。 ふまれてもふまれても、じみな 遊び方が分かる。 からめて引き合い、二本の その遊びができるわけ 長い、たくましく生きる</p>	<p>◎ 取材カードを増やしていくことで、書けそうという意欲を持たせる。</p> <p>◎ 遊びの楽しさを伝えるためにオオバコの文章から学んでいこうという意欲づけをする。</p> <p>◎ オオバコの文章の良いところが見つけれられたか。</p>					
(2) 自分の文章で足りないところを見つける。	自分の作文に足りないものを見つけよう。	◎ オオバコの文章と比べることで自分の文章で足りないところが見つけれられたか。					
(3) 草花の性質を調べ、よりくわしい取材をする。	原因に当たるところが足りない。	◎ 遊びができる原因となる性質が見つけれられるように情報コーナーを設ける					
3 見つけたことを原因を直すことばを使って書く	<p>実際に調べて 写真・ビデオを見て 図鑑を見て 友達に聞いて</p> <table border="1"> <tr> <td>クズ ツルが長くて 丈夫 葉が大きくて 薄い</td> <td>マツ 葉が針のよう でしっかりし ている</td> <td>カキ 葉に厚みがあ ってつるつる している ギシギシ 葉が細長い</td> <td>ツツジ 花びらがつ ながっている</td> <td>イタドリ フキ 茎の中が空洞</td> </tr> </table>	クズ ツルが長くて 丈夫 葉が大きくて 薄い	マツ 葉が針のよう でしっかりし ている	カキ 葉に厚みがあ ってつるつる している ギシギシ 葉が細長い	ツツジ 花びらがつ ながっている	イタドリ フキ 茎の中が空洞	◎ 原因となる性質をことばカードを使って表現し、書き方を学ばせることでとす。
クズ ツルが長くて 丈夫 葉が大きくて 薄い	マツ 葉が針のよう でしっかりし ている	カキ 葉に厚みがあ ってつるつる している ギシギシ 葉が細長い	ツツジ 花びらがつ ながっている	イタドリ フキ 茎の中が空洞			
4 草花の性質を書き加える。	草花の性質を生かして遊びができることを書こう	◎ 他の文章を参考に草花遊びができる性質を書き加え、分かりやすい文章が書けたか。					
5 本時のまとめをし、次時のめあてを持つ (次時) 取材カードをもとに組み立てを作る。	<p>こんどは、様子や遊び方がよく分かるように書きたい</p> <table border="1"> <tr> <td>・や場所</td> <td>五感を働かせ</td> <td>たとえを使って</td> <td>様子を表して</td> <td>自分の考え</td> </tr> </table>	・や場所	五感を働かせ	たとえを使って	様子を表して	自分の考え	◎ 表現の方法を工夫し、より分かりやすい文章を書こうという次の時間への意欲化を図る。
・や場所	五感を働かせ	たとえを使って	様子を表して	自分の考え			

(3) 情報の発信基地化をめざして

本校の地域性を生かした総合学習「ふるさと学習」では、調べ学習を中心に資料収集・作成を重点的に行っている。そのために地域の人たちや教職員で編集された副読本「ふるさと仏生山」「仏生山たんけん」を図書室に配架、活用している。また、児童が授業で作った資料を図書室に展示したり、配架して学習に役立てている。

学校の年表「ちきりっこ年表」	3年
手作り絵本「平池の草花遊び」	4年
文集「仏生山の伝統工芸」	5年
町の年表「ふるさと年表」	6年
ふるさとの民具を集めた「ふるさと館」	3年
仏生山の「歴史マップ」「植物マップ」「生き物マップ」	4年

また、調べ学習で活用した図書を次の学年を担当する教師が利用しやすいように参考図書目録を作成した。

児童の作った参考図書目録カードと一覧表

単元 いきものひみつ大さくせん (生活科 2年)

調べることから
ザリガニ

めだ"か (生活科 2年 (ミニモロロイのたね))

書名	発行所	価額	ページ	内容	容
ザリガニ	偕成社	485	1~30	居る場所・冬の過ごし方	
ザリガニをつかまえよう	ポプラ社	485	1~25	取り方・えさ・だっぴのこと・居る場所	
ポケット図かん	学研	485	10~15	えさ・おすめすのちがい・居る場所・動き方	
ざりかに	学研	485	2~20	えさ・すろか	
ザリガニ	学研	485	4~53	足	調べることから オタマジャクシ
ざりかに①	小森書店	485	1~44	育	
生きものをかってみよう	小森書店	600	4~21	住	
ぼくはザリガニ	小森書店	489	1~26	オタマジャクシ	
池や小川の動物	大日本図書	481	12~13	あまがえる	食べ物
飼育II	学研		64~67	かえるのたんじょう	てき(やご・たがめ・なまず)
みずのいきもの	学研	408	66~71	カエル	えさ(はえ・くも・コオロギ)
				池や小川の動物	かえるの種類

池や小川の動物
大日本図書
481 ページ 10~11
35P.
めだ"かのたまご" 10~11
めだ"か"のたまご 35

書名	発行所	価額	ページ	内容	容
オタマジャクシ	偕成社	487	8~27	食べ物	
あまがえる	学研	480	1~28	てき(やご・たがめ・なまず)	
かえるのたんじょう	小森書店	480	1~52		
カエル	国土社	480	1~53	えさ(はえ・くも・コオロギ)	
池や小川の動物	大日本図書	481	2~5	かえるの種類	

2 読書意欲を高めるための読書活動の工夫

(1) 国語科における読書指導を日常の読書活動につないで

—— 教材文「かさこじぞう」から民話のおもしろさを伝えるために ——

国語科2年「民話を読もう」

① 単元の見積

- ・様子や気持ちを想像しながら民話を読み、民話のおもしろさを味わう。
- ・登場人物や場面について感想をまとめ話し合うことを通して、いろいろな感じ方に気付く。
- ・自ら進んで民話を読み進めることができるようにする。

② 学習指導計画

1次 「かさこじぞう」の音読会をする。

ア 「かさこじぞう」を読み感想を持つ。

イ 初発の感想をもとに学習の計画を立てる。

ウ 場面や周りの様子を絵と言葉で絵地図に表す。

エ 場面ごとに様子や気持ちを想像しながら読むとともに、民話の語り口や表現の特色を読み味わう。

オ 音読会を開く。

カ 感想をまとめ話し合う。

2次 「かさこじぞう」のような話を読む。

ア 他の民話を読む。

イ おもしろかったことを「読書しんぶん」に書き発表する。

③ 読書意欲を高めるため、教材文とつないだ読書指導

「かさこじぞう」を読むことで民話のおもしろさに気付かせ、さらに他の民話を読むことで長い年月語りつがれて来た民話のよさに触れさせるようにしたい。そこで読書タイムの計画を12月は、「民話を読もう」とし「かさこじぞう」と比べながら読みを進めていった。「かさこじぞう」の読みが深まり、「もっと民話を読んでみたい。」という意欲が高まった。本単元で高まった読書意欲を、日常の読書活動につなぐことができた。

④ 学習活動

(1)目標
②学習指導要領
自分の感想と比べながら発表し合い、いろいろな感じ方、思い方があることに気づくことができる。

学習活動	児童の意識の流れ	教師の支援・援助と評価
<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <p>2. 友達の感想を聞き話し合う。 ①友達の感想と自分の感想とをくらべて話し合う。</p> <p>②友達のいろいろな発表を聞いて書き加えたいことをカードに書き、発表する。</p> <p>3. 次時の予告を聞く。</p>	<p>友達の感想を聞き、友達のよさを見つけよう。</p> <p>じいさまやばあさまはやさしかったよ。</p> <p>二人はいつもいたわっていたよ。</p> <p>その日その日をやっと暮らしていたけど、明るい二人だったね。</p> <p>じぞうさまがお正月の用意をくれてよかったな、やさしいね。</p> <p>電話らしい言い方やことばがおもしろかったな。</p> <p>わたしとよく似ているなあ。ほくとは違いますが、そうだなあと思う所あるよ。</p> <p>やさしさ 思いやり いたわり合い</p> <p>楽しさ おもしろさ</p> <p>じいさまのやさしさ</p> <p>ばあさまのやさしさ</p> <p>じいさまとばあさまのいたわり合い</p> <p>じぞうさまのやさしさ</p> <p>話のすじの楽しさ おもしろさ</p> <p>語り口やことばのおもしろさ</p> <p>同じ話でもいろいろな感じ方があるんだな、いろいろな思いがあるんだな。</p> <p>友達の感想からこんなことが分かったよ。</p> <p>やさしいじいさまやばあさまのお話か他にもあるよ。</p> <p>おれいをくれた話もあるよ。</p> <p>かきこじぞうみたいな書き方やことばの話があるよ。</p> <p>じぞうさまが働かなくて、こんな不思議な話か他にもあるよ。</p> <p>今度はこんな昔話を読みたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同時に書いた感想文をもとに話し合うことを確認し、話し合いの活性化を図る。 ・視点の違う3つぐらいの感想文を話し合いやすいように、掲示できるようにしておく。 ・友達を聞いて、自分とよく似ている所に印をつけることによって、自分の考えを表現しやすくする。 ・友達と同じような考えでも自分の意見として発表するよう励ます。 ・友達の発表を熱心に聞き、自分の考えを適切な言葉で発表できたか。 ・書き加えたい児童には、個別に指導する。 ・友達の感想と自分の感想とをくらべながら友達のよさを見つけることができたか。 ・他の昔話を紹介し、いろいろな昔話を読もうとする意欲づけをする。

(2) 読書指導の日常化

読書意欲を高め、読書する習慣を身に付けさせるために、国語科の読書指導とつないで年間の読書活動計画を作り、読書活動の活性化と定着を図った。

① 読書タイム

読み聞かせ……………子供が読書好きになる第一歩であり、「読書は楽しい」と実感できる。

集団読書……………一冊の本から、友達と自分の考えを比較したり、共感しながら読書の世界を広げる。

自由読書……………読書紹介、ブックトーク、ストーリーテリングなどを行い、読書意欲を高める。

② 読書カレンダー・学校からすすめる20冊の本

月毎の読んだ本を記録していく。その月の読書目標や反省、心に残った本など簡単に書きとめるようにしている。毎月の読書カレンダーには、読書活動計画にしたがって、「学校からすすめる20冊の本」を各学年ごとに選定し、良書の基準とした。選定にあたっては、児童の読書の記録からよく読まれている本や、教科書に出てくる作家の作品や文学作品などから選び、ある特定のジャンルに片寄らないよう考慮した。

学校からすすめる20冊の本 (6 学年)

題名	作者	出版社
1. 走れメロス	太宰 治	金の星社
2. 一房のぶどう	有島武郎	朝日新聞
3. オーロラの下で	戸川幸夫	金の星社
4. 川とノリオ	いぬいとみこ	理論社
5. ひとりぼっちの動物園	灰谷健次郎	ま
6. 柿の木のある家	壺井栄	
7. ガラスのうさぎ	高木敏子	
8. 杜子春・くもの糸	芥川龍之介	
9. 宮沢賢治 (伝記)		
10. モモ	ミヒャエルエンデ	
11. ぼく日本人なの	手島慈介	
12. 今江祥智の作品		
13. 岩窟遺跡のなぞ	たかしよいち	
14. 今西裕行全集	今西裕行	
15. 嵐の中の日本人シリーズ		
16. お星様のレール	小林千都	
17. 思い出のトランク	岡野薫子	
18. ゴキブリが愛されるとき?	木船	
19. 読書図書		
20. 読書図書		

◎楽しい読書

○読み聞かせ

△自作プリント

☆紙芝居

★自由読書 (テーマ)

読書タイム計画表 (4 学年)

月	目 録	活 動 内 容	参 考 図 書
4	ファンタジーの世界を眺めよう - さいしらかげの水	・くましんし ★	
5	生き物の不思議を調べよう - ナフカリとイソキ - ナフカリー	◎わたり鳥 ○尾山記 VTR 生き物ばんざい ★ ★	ひみつのかたつむり号 さとうさとる 重 ままの花園 角野栄子 橋を渡る人 立原えりか
6	読書物語を眺めよう - たかの鳥獣列	◎ぜっぺき ○チャコレート戦争 ★ ★	みづばらの家 藤は 50000 ぴき大井光高 こども版フェアブル 尾山記 小林清之助 小峰
7	命のとうとさを考えよう - 読書のまど	◎おじいちゃん ★	とべないホテル 灰谷健次郎 ハート ワルのぼけっつと みたきみとやせたけ 長崎隆之助
8	戦争について考える 本を眺めよう - つの橋	◎あいちちゃんのかけ さくり ○ひらしまのピカ ★	いれをばしたロバの鼻 今西裕行 あかちゃんが出ました 長崎隆之助 二丁西の橋 藤井栄
9	自然と人間について 考えよう - ムササビのすむ町	◎おおかみ王ロゴ ◎嵐山 ★ ★	おこりじやう 山口勇子 戦争にかけたおしらさま さねとうあきら チャンリード
10	新編勇者の世界を眺め るわらわら - こんざつね	◎手ぶくろを買いに ○花のまげと殺人 ★ ★	ムササビの橋 菅原光二 ブナの森は緑のダム 太田誠文 あかね すかかを突く動物たち 小原秀雄 あかね にふい山嵐 孫崎十 幼学 (1998)
11	読書について考える 本を眺めよう	◎響のピアノ ★	新編勇者伝説作品集 大日本
1	伝記で生き方を学ぼう - アソリ・フェアブ ル	ブックトーク 伝記について ★	さっちゃんのまほうの手 わたしたちのトピアス センリア・スベド 藤成
2	世界の人の工夫を 知ろう - 読書のくらし	△響はじまものか ○ゆきわた ★	野口英世 タイムンジャー アン・フランク ボプラ
3	心の空想を眺めよう - おじいさんのハ モニカ	△響はじまものか ○ゆきわた ★	響のくらし 正津勉 百鬼とくらし 北海道・東北地方 ボプラ 李研 李研

3. 親と子の心ふれあう親子読書のすすめ

(1) 読書週間中の全校親子読書のすすめ

読書週間になると、全校生に親子読書呼びかけている。低学年であれば読み聞かせをしたり、交互に読んだり、高学年では同じ本を読んで感想を話し合ったり、親子読書のひとときが親と子の心と心のふれあう時間になることを願って続けられている。

(2) 親と子の5分間読書

子供の読む声に親が耳を傾ける。忙しい時間をさいて5分間、子供と共有する時間を持つ。子供と親の心が接近し、話題が増え、心が通う。本を媒介として親子のきずなを深めることを期待している。そして、自然と読む力が付いてくることをねらい、実践している。

(3) 親子読書感想文集「親と子のふれあいを求めて」

文章がうまく書けているかどうかでなく、ふと出会った一冊の本を親子で読み、感想を語り合ったことを足跡として残すことに意義を見いだしている。夏休み前に親子の読書感想文の募集をするとともに、「親子読書感想文の書き方」を配布しておき、親子でゆったりと読書に親しんだあとの感想を、製本している。発行した本は、全校生に配布し、親子読書の啓発に努めている。親子読書文集発行にあたっては、本年度は、PTAの文化部のお母さん方がパソコンを使って原稿を打ち、手作り文集にした。

親子読書感想文集「親と子のふれあいを求めて」

高松市立五台山小学校

夏休みを利用して親子読書をしてみませんか。親子で一冊の本を読み合い、互いに感じたことを自由に話し合ってみましょう。子どもさんのまで知らなかった一面に驚いたり親子の対話の幅が広がったりするの思い出です。親子読書感想文集は、作文の上手・へたは関係ありません。読書を通してほのぼのとした親子のふれあいの機会をつくってみてください。

高松市立五台山小学校

一 この本を読むようになったきっかけ

子どもさんがみつけてきた場合
親がさでった場合など

二 本の内容や感想

三 子どもの読書反応についての
親としての気持ち

◎ 親子の会話やふれあいが
伝わってくるような内容

四 子どもへの思いや親としての願い

「さっちゃんのままほつて」を娘と読んで
今の方編でいたのが、急に静かになったと想っていたら、娘が寝込んで本を読んでいる。そんな事なくある。言葉に本を読んでいる。その娘が、いっつも真剣な顔つきで、どうして、お母さんのおなかの中で産まれてきて、生まれてくる子がいるの。」
と、聞いてきてきたのが、何気なく手えたこの本と、娘との出会いであった。

そして、余計な事があるのがある、その後、よく聞いて、ばり出して見ている。私も、何度か娘と二冊目を通している。正直言って、初めて目にした時はドキリとした。私の不注意で、娘がまだ男児の服に、寝具をさせてしまい、寝るめたいものを感じていたので、わざかの寝具でも、暖かい性強い子にとっては、心の傷となり苦しめかねないのだ。
「さっちゃん」のこと、娘はどう思ったのだろうか、娘は、恐る恐る聞いてみた。

「私も、真にしているのだから言われてよかったけれど、さっちゃんも、もっと辛かったと思う。私がさっちゃんだったって辛くて死んでしまってもかわからん。」
との言葉に、心が痛んだ。凄みな「さっちゃん」を抱えて生活している父兄の方々は、その現実をどのように子供に理解させるのだろうか。また、どのようにして、ハンデに負けない子に育てていくのだろうか。私の心の痛みは、障害児を持つ親御さんの方々の苦悶を思っている。娘には、
「死んだ、みんなが悲しむよ。子どもも、子も、生きるために生まれて来ているんだ。みんな生きる勇気があるんだよ。」

としか言えなかつた。
娘が想像力を入れた時、この本を簡単に読んだらと思いついてはいいのだと思つた。そして、人の痛みにも思いつける娘は、強く生きていってほしいと思つた。

V. 研究のまとめと今後の課題

「本が整然と並んだ静かな学校図書館から、いつでも人のいる学校図書館へ」その思いからの出発であった。開館時間は始業示から下校までとし、利用しやすい学校図書館をめざし、環境整備にも全職員が共同で取り組んだ。図書室は、児童の手作り図書資料が本棚に並び、いつも子供たちの姿がある。日々の各授業に学校図書館が活用され、本校の学校図書館に確実に新しい風が吹きはじめた。改めて、学校図書館が学校教育に果たす役割の大きさを確認させられた。

本校が親と子を結ぶ親子読書に取り組んで11年目を迎えることができ、子供たちの読書の習慣化に大きな役割を果たしてきたが、今後も、この灯を燃やし続けるために、学校教育の中で行われている読み聞かせやブックトークの輪を地域に求め、PTAのボランティア活動に生かしていけたらと考える。学校・家庭・地域を結ぶ文化活動に発展し、地域ぐるみの読書教育をめざしていきたい。

豊かな心と、自ら学ぶ意欲を育てる滝呂小図書館をめざして

— 国語科の読解指導での学校図書館の活用 —



岐阜県多治見市立滝呂小学校
代表 小栗 武子

I. 主題設定の理由

「子供の頃の読書というのは、読書したからといってすぐに目に見える効果が表れるものではない。しかし、何でも吸い込んでいくこの時期に読書することは、心の奥深く沈んでいて、いつかどこかで、生きて働く心の養いになるものである。」

これは、児童文学作家である杉みき子さんの講演の一節である。どうかすると、わたしたちはすぐに「教育的な効果はどうだ。」などと性急になりがちであるが、読書を通して、子供たちは広い世界を知り、豊かな情操を育み調和のとれた人間へと成長していくという点で、読書は、まさに生涯学習に通じるものであることを痛感せざるをえない。つまり、生涯読書人を育てる国語教育、学校図書館の役割とその重要性が見えてきた。

また、一方で、社会の変化に対応して、子供が自ら考え主体的に判断し、行動できるような豊かな資質や能力を育成する教育が重視されて久しい。この新しい学力観に立つ教育を推進するために、本校でも自己教育力・自己学習力を育成する教科指導にも力を入れてきている。そして、子供が自分の疑問や課題を追究するために、情報を収集したり、分析、考察したり、自分の考えとして表現したりできるような教科指導の改善をしていくと、そこには、当然そのための資料や機器、空間などが必要になってくる。つまり、学習センター、情報センターとしての図書館の在り方と役割が明らかになり、その活用と実践が強く望まれていると言える。

本校では、上記のような学校図書館の今日的な課題や役割を積極的に受けとめ、以下のような2つの基本方針を定めて実践していこうとするものである。

○読書に親しみ、豊かな感性と心情のある子の育成

○図書や資料を活用して、自ら学習に取り組む子の育成

子供たちが主体的に学習活動を展開する中で、学校図書館の機能を積極的に活用し、自分のよさや可能性を発揮しながら自己実現を図ってほしいという願いのもとに本主題を設定する。

II. 研究のねらい

本校では平成5年度から、学校教育目標を具現する重点活動として図書館教育を位置付け、5カ年計画という見通しのもと実践している。その図書館教育の全体計画は下記の通りである。

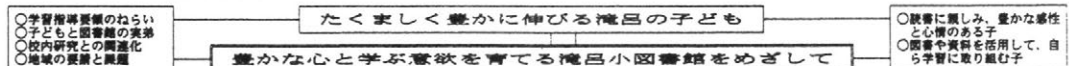
平成8年度図書館教育全体計画

多治見市立滝呂小学校

学校の教育目標		
はげましあう子 (あたたかい友情)	考える子 (確かな学力)	きたえる子 (たくましい身体)
図書館の目標		
豊かな心と自ら学ぶ意欲を育てる 滝呂小図書館をめざして		
基本方針		
○読書に楽しみ、豊かな感性と心構えのある子の育成 ○図書や資料を活用して、自ら学習に取り組む子の育成		
・好きな本を選び、楽しんでたくさん読むことができるようにする。(低) ・進んで、いろいろな分野の本を読むことができるようにする。(中) ・興味や目的に応じ、適切な本を選んで読むことができるようにする。(高)		
具体的推進内容		
管理運営	読書指導	利用指導(重点)
<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 ・読書活動の推進

平成8年度 滝呂小学校図書館教育の重点

多治見市立滝呂小学校



5カ年計画

平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
<ul style="list-style-type: none"> ・明るく使いやすい図書館づくり ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 	<p>平成8年度の取り組み</p> <p>読書指導の充実 子どもの生活にまぐく読書指導 子どもの心にまぐく読書指導</p> <p>平成7年度 79,6冊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 	<p>平成9年度</p> <p>読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・読書活動の推進 ・読書活動の推進

このように、教科、道徳、特別活動、教育課程外活動、PTA活動などのすべての教育活動に図書館教育を位置付けて実践しているが、本研究においては、「豊かな心と自ら学ぶ意欲を育てるための」国語科と図書館教育との関連化を図り、その実践を述べるものである。

研究のねらい

- ① 国語科における読書指導の充実の在り方を明らかにし、実践する。
 - ・ 読解指導から読書指導への授業転換
 - ・ 複数教材による授業実践
 - ・ 読書の楽しみや領域を広げる読書教材実践
- ② 図書を活用し、教材における学び方を高める国語科の授業の在り方を明らかにし実践する。
- ③ 図書を活用し情報収集能力を高める国語科の授業の在り方を明らかにし実践する。

Ⅲ. 研究の内容と方法

1. 研究の内容

研究内容 1 作品の世界を広げ、豊かな読みを育てるための図書館の活用

研究内容 2 図書を活用し、情報収集能力を高める図書館の活用

2. 研究の方法

国語科における図書館利用

◇本校は、「豊かな読みと学ぶ喜びを育てる授業づくり」という研究主題のもとに、国語科の授業研究を行っている。その校内研究に図書館の活用を結び付け、学年の発達段階に応じた実践をしていく。

◇読解教材での図書館の活用の在り方や目的についての基本的な方針を打ち出し、授業実践がしやすいようにする。

◇授業研究を中心に実践を行い、成果と課題を洗い出していく。

教材の種類	利 用 目 的
物語文教材	○作者の作品世界を広げるため ○教材の読みを深めるため
説明文教材	○教材の事柄や内容についての調べ学習 ○説明文を書くための取材活動・情報収集活動
詩の教材	○詩の楽しさを味わうため ○表現のおもしろさを味わうため
作文教材	○作文の書き方の情報収集活動 ○作文の内容や題材に関わる情報収集活動
読書教材	○読書領域を広げるため ○読書の楽しさを味わうため

IV. 実践事例

2つの研究内容にそって、以下、3つの実践事例を述べる。

研究内容1 作品の世界を広げ、豊かな読みを育てるための図書館の活用

【実践例 1】 2年 物語文「スイミー」 レオ＝レオニ作（光村図書）

1. 実践のねらい

2年生では初めての物語である「スイミー」の学習を単に教科書の教材の読解だけで終わるのではなく、レオ＝レオニの絵本に数多く出会わせ、豊かな読書活動に発展させたいと考えた。レオ＝レオニの作品は、美しい挿絵が描かれており、筋の展開がおもしろく、しかも、明確なテーマをもつものが多い。また、多くの絵本は谷川俊太郎による訳により、洗練された日本語により見事に表現されている。この「スイミー」の作品との出会いを通して、レオ＝レオニの絵本のすばらしさを心をときめかしてほしいという願いのもとに実践した。

2. 実践の特徴

- 「スイミー」の学習を終えた後、各自がレオ＝レオニの作品の中で好きな絵本を選び、好きな表現方法（動作化・絵・音読・セリフ）により、1年生の子に本の紹介活動をする。
- 第2次の「スイミー」の読み取りの中で、場面ごとに読み取ったことをより豊かに表現する活動を取り入れ、その学習を生かして第3次で他の作品について自力で表現していく。

3. 単元指導計画

まとめる		ね		か		め		る		つ		か		む		段	期
18	17・16	15	14・13	12	11	10・9	8・7	6・5	4	3	2	1					
読んで本をみんなに分かるように紹介する。	完成した作品の紹介方法を決定し、発表練習をする。	好きな場面をメモする。	レオ＝レオニの別の絵本を読み、題名と好きな場面をメモする。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	新しい兄弟たちに出会ったスイミーの気持ちを表す。	ねらい	ねらい
特別な本にも興味をもつ。	わかる工夫をする。	好きな本の中から紹介する。	好きな本の中から紹介する。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	大きな魚を追い出さず、スイミーの気持ちを表す。	意欲	意欲
		選ぶ理由を自分なりに持つ。	選ぶ理由を自分なりに持つ。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	スイミーの気持ちと自分の気持ちを表す。	評価	評価
分りやすく紹介できるように、自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	自分の感想を添える。	表現力	表現力
																大切な言葉	大切な言葉

一 単元名 スイミー
二 単元目標
三 単元指導計画

○「スイミー」の学習を通して読むことの楽しさや作品のすばらしさを体感し、レオ＝レオニの絵本の読書活動を通して、レオ＝レオニの作品のすばらしさを心をときめかしてほしいという願いのもとに実践した。

○「スイミー」の学習を終えた後、各自がレオ＝レオニの作品の中で好きな絵本を選び、好きな表現方法（動作化・絵・音読・セリフ）により、1年生の子に本の紹介活動をする。

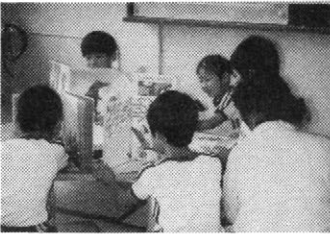



○第2次の「スイミー」の読み取りの中で、場面ごとに読み取ったことをより豊かに表現する活動を取り入れ、その学習を生かして第3次で他の作品について自力で表現していく。

4. 学習活動

① 本時のねらい（16 / 18時）

○自分で選んだレオ=レオニの絵本の好きな場面について、思ったこと感じたことを、わかりやすく表現することができる。

② 本時の展開

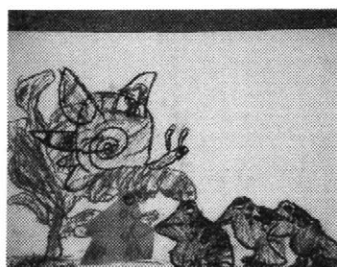
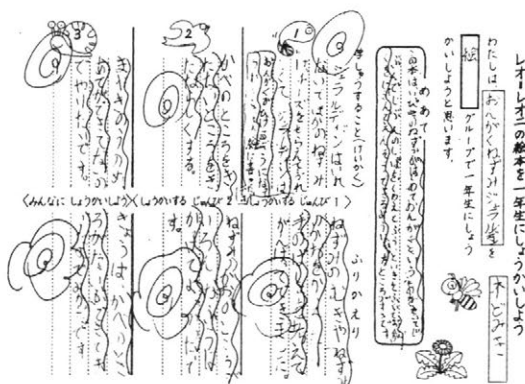
段階	学 習 活 動	活動形態	指導・援助の視点と方法
つ か む	<input type="checkbox"/> 自分の学習計画表を見て、今日学習することや頑張ることを確かめる。 <input type="checkbox"/> めあてや計画を発表する。	個	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のためあてを聞き合う中で、各自の活動意欲を高める。
ふ か め る	<input type="checkbox"/> 表現別グループで集まり、学習の手引きを見ながら活動を進めていく。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の手順を示す手引きを渡しなが、活動が始められたかを見届ける。 ・相談カードを準備し、効率的に活動が進むようにする。 ・どのような様子、気持ちがわかるように音読するのか、そのためにどう表現するのか考えさせる。 ・その子の表現のよさを認めながら、相手を意識して、より想像力豊かに、わかりやすく表現するように援助する。
	 【音読グループ】		
	 【動作化グループ】		
	 【セリフグループ】		
	 【絵グループ】		
ま と め る	<input type="checkbox"/> 各グループで、どんな活動をしてきて、どこまでできたのかを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇という本の〇〇のところの音読を練習しました。主人公〇〇の〇〇という気持ちや〇〇という様子がわかるように読みます。 <input type="checkbox"/> 友達の表現の仕方や工夫したことを参考にして各自の本時の振り返りを書く。	全体 個	<ul style="list-style-type: none"> ・友達がどんな本を読んだのか、どこが気に入ったのだろうかと関心を持って聞くことができるようにする。 ・友達の本の紹介活動の表現のよさに気づかせる。

5. 実践の考察

単元の学習に入った第1次の段階で、「レオ＝レオニの本をたくさん読んで好きな本を1年生に紹介しよう」という学習活動への見通しや願いをもった上で学習を進めていくことができた。

第2次では、「スイミー」の読み取りを進めていきながら、読み取ったことをより深める多様な表現活動を取り入れていった。

つまり、第3次で行ったレオ＝レオニの絵本の紹介活動は、第2次で学んだ表現力や読み取り方を生かして、子供たちが自力で作品を読み、自分らしい方法で表現しながら紹介していく活動であったと言える。



【「せかいいちおおきなうち」
を絵で紹介した作品】

・わたしは「おんがくねずみジェラルディン」という本を絵グループで1年生の子に紹介しようと思います。

〈めあて〉

・この本は、いっぴきのねずみがはじめておんがくというものを聞いて、じぶんでじぶんのしっぽをくわえて、ふうっといきをふいて、おんがくをじぶんでえんそうできるようになったところが好きです。

・ジェラルディンのおんがくがひけるようになったうれしいきもちを絵にかきたいです。

子供たちの本に対する感想や思い、好きな表現を大切にさせながら、その作品のよさを1年生の子に紹介する上で一番やりやすい方法を好きな場面の絵と紹介文、好きな場面の音読、好きな場面のセリフづくり、好きな場面の動作化という4つの表現活動の中から自己選択させて活動していった。“自分の好きな本の自分の好きな場面を自分の好きな方法で”紹介できるとあって、どの子も喜んで活動できた。また、同じ表現方法別のグループ活動も取り入れたために友達の表現のよさを学び合うこともできた。

いよいよ1年生に紹介する日、1年生の前に立って、緊張しながらも嬉しそうに発表する子供たち。「今日は、きんちょうしたけれど、一番よくできた」「1年生の子がいっしょうけんめい聞いてくれたよ」と喜んで帰ってきた。



1. 実践のねらい

- 宮沢賢治の作品を読み、自己の作品世界を創造することができる。
- 賢治の伝記など作者の情報を読む活動を通して、賢治の作品をその生き方と関連づけて読むことができるようにする。
- 賢治の作品世界の情景や人物の心情を朗読により表現することができる。

という単元の学習目標を設定した。教科書にある「やまなし」という賢治の単一作品を深く細かく正確に読み取らせる（精読）という考え方から、子供の読書生活向上を意図した単元を構想（多読）して、子供たちが自分から求めて賢治の作品に立ち向かっていってほしいという願いのもとに実践した。

2. 単元の実際

第1次 賢治作品との出会い

- ・「雨ニモマケズ」「永訣の朝」「グスコブドリの伝記」「私が先生になったとき」「注文の多い料理店」など賢治の作品にふれ、賢治の生き方や考え方に関心をもつ。

第2次 「やまなし」の作品世界を読み味わう

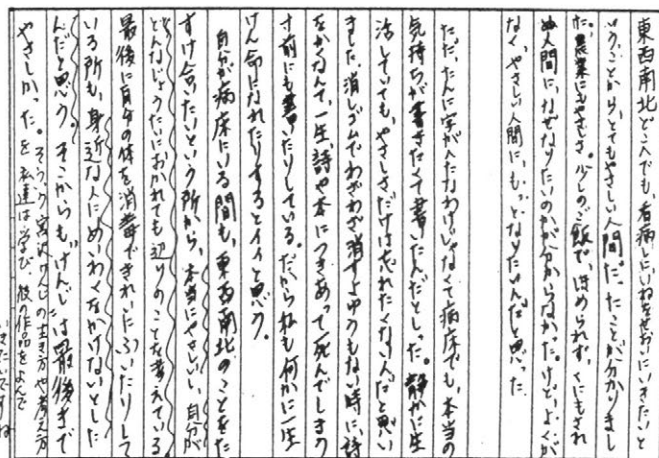
- ・色彩語や擬音語・擬態語、造語などの幻想的な表現からイメージを広げて読み味わい、情景や人物の心情を朗読で表現する。

第3次 賢治の作品世界の朗読発表会

- ・全体で学習した「やまなし」や自分で読み進め、気に入った作品のうちから朗読する作品を選び、朗読を通して賢治の作品のすばらしさを味わう。

3. 実践の考察

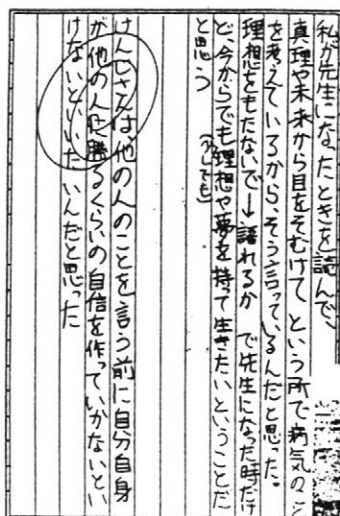
右のノートは、賢治の作品「雨ニモマケズ」に初めて出会った時の感想である。この時、賢治の生き方にふれてほしいという願いから賢治の直筆の原文を与えた。推敲してあったり書き加えてあったりして、読みにくいにもかかわらず、子供た



ちは何度も何度も声に出して読み、友達と考えを交流していった。

また、右のノートは「私が先生になったとき」という賢治の詩の世界を学習した時のものである。

「私が先生になったとき」という繰り返しの表現の中に、賢治の真理や理想をもち続ける教師でありたいという強い思いが表れていることを学び、この賢治の表現を真似て、子供たち自身も「私が〇〇になったとき」という詩をつくっていった。



6年組

このような賢治の作品との出会いを通して、子供たちの関心は賢治の生き方や考え方へと高まっていった。そんな中で、第2次で教科書教材「やまなし」を学習していったので、従来の教科書の単一作品だけを読み取る学習よりも、5月と12月の幻灯の世界に賢治が表したものは一体何だったのかという主題にかかわる考えをより深くもつことができた。また、賢治の造語に対してもより想像力を働かせて読み味わおうとする姿も生まれてきた。

第3次では、朗読発表会を行い、友達と賢治作品の味わい方のよさを学んだり、改めて賢治の作品のおもしろさや不思議さを話し合ったりできた。この発表会は、賢治の作品紹介の場にもなったので、まだ読んでいない作品をぜひ読んでみたいという意欲を高めることにもなった。

宮沢賢治さんへ

(前略)「雨ニモマケズ」の作品でも、“人のために生きる自分でありたい”という考えがあふれるように出ていました。賢治さんの作った一つ一つの言葉、一つ一つの文、それに意味があるように感じるようになりました。最初は「意味がわからない」と作品に近づけなかった私も、何度も何度も読み返すうちに、本当に本当に少しずつだけれど、世界が開けてくるようなそんな気がしました。

自分のまわりにいる人の幸せばかりを考え、強い意志をもって生きた賢治さんの生き方に私もちょっとでも近づきたいです。生誕100年の今年は、書店に行っても賢治さんのコーナーを見かけます。もっと賢治さんの生き方のすばらしさや作品のよさが広がるようにいろんな人に読んでほしいと思います。これから大人になっていく私は、自分の生き方に迷うことがあるでしょう。そんな時、賢治さんの本を開く私でありたいです。

1. 実践のねらい

- 「一秒が一年をこわす」で説明されている内容を、段落の要点や段落相互の内容に注意して読み、文章全体を通して、筆者が述べようとしている要旨をとらえることによって、環境問題について関心をもつことができる。
- 「わたしたちの生きる地球」を読んだり、身の周りや図書館から資料を集めたりして、わたしたちの住む地球について関心を深め、自分の主張や考えが明確に表れるような説明文（作文）を書くことができる。

という単元目標を設定した。地球の環境保全という一つのテーマを中心にして、理解・表現の言語活動を有機的・総合的に、かつ主体的に展開したいという単元構想のもと実践した。

2. 実践の実際

第1次 学習への願いをもち、計画を立てる

- ・扉の文と「一秒が一年をこわす」を読んで、地球に住むことの意味を話し合い、この単元での学習計画を立てる。

第2次 「一秒が一年をこわす」を詳しく読み取る

- ・段落ごとの要点や要旨を読み取るだけでなく、題名の工夫や構成、これから書く自分の作文の参考にするという視点で読み進める。

第3次 環境問題に対する自分のテーマを決め、作文を書く

- ・図書館で必要な資料を集めて取材活動を行い、教材文で学んだことを生かして環境作文を書くことができる。

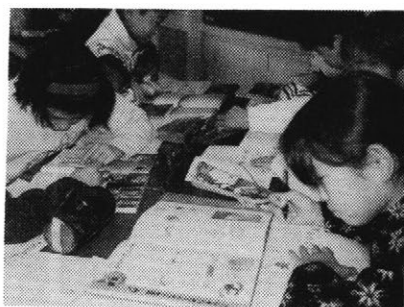
第4次 環境問題についての討論会

- ・お互いの作文を読み合ったり、環境問題のテーマ別にパネルディスカッションを開いたりして、環境問題に対する考えを深めることができる。

3. 実践の考察

社会科でも工業の学習で公害問題を学んだ5年生の子供たちは、環境問題への関心が高く、意欲的に学習を進めることができた。

図書館には、「環境問題コーナー」を設置しており、教科の学習につながる図書や資料については、一人一人



の児童が調べることができるように複本を備えてあるので、図書を活用して、自分の環境問題への課題について取材し、作文の構成を経て、実際に書き上げていった。

紙面の都合で、実際の作文（原稿用紙4枚～7枚）を載せることはできないが、子供たちの作文の題の一部を紹介する。

「温暖化する地球は今」「野性動物、絶滅の危機」
 「地球への警告」「今、地球が危ない」「森林破壊の驚異」「オゾン層の破壊」「ゴミ問題を考える」

子供たちが書き上げた作文は製本し、図書館の環境問題コーナーに入れ、他の学年の子にも読んでもらえるようにした。これも子供の側に立った図書館経営の一つではないかと考える。



V. 研究のまとめと今後の課題

1. 研究の成果

- 従来の国語の授業では、教科書に掲載されている作品を読み深めるだけにとどまることが多かったが、“精読から多読へ”という考え方のもと単元構想したことで、国語の学習と結び付いた読書活動へと発展させることができた。
- 理解と表現の一体化した総合的な言語活動による国語の授業が展開できるようになった。
- 子供たちの想像力や思考力、表現力のよさを生かした多様な読書活動が展開できた。
- 自分なりの課題や願い、思いを抱いて、自分から求めて読書したり、調べたりする姿が見られるようになった。
- 「国語の授業が楽しい」「本が好き」という子が増え、教室の中で今学習している作者の本が話題になるなど、読書が生活の中により息づいてきた。

2. 今後の課題

- ◇「より深く、確かに、豊かに読ませたい」という願いの余り、一単元の学習時間が長くなりがちなので、ねらいを明確にし内容の精選を図る。
- ◇学年の発達段階を考慮した上で、単元の第1次、第2次、第3次のそれぞれの段階における図書館の活用の在り方について整理していく。
- ◇各学年ごとの国語教科書関連図書の洗い出しと国語科とタイアップした読書指導の年間計画の見直しを図る。

学校図書館における読書指導の効果的な方法の開発研究

—子ども達の自主的・意欲的な委員会活動を中核にして読書の輪を広める方法—

山梨県甲府市立琢美小学校
山田とし子・石原 祐子

I. 主題設定の理由

科学技術の進歩により、テレビ・ビデオ等の映像文化が生活の中に浸透し、子ども達ばかりでなく、大人の世界にまですっかり定着してしまっている。

さらに、現代は、パソコン・ファミコン機種のハード面の発達により、より面白くゲーム性に優れたソフトが出回り、子ども同士や親子でも遊ぶ家庭が増えてきている。

このような限定された情景や情報化における生活により、「子ども達の、人間としてより価値のある物に気付く感覚や態度の育成」がなおざりにされがちであり、このことに危惧を抱く識者も多い。彼らの多くは、豊かな体験や表現をさせ、自由な想像力を育てることによりこの感覚や態度が育成されるという。

読書の体験は、この力を育てる最も手取り早い方法であると考えている。読書を通じてたくさんの本と出会い、新しい知識を得たり、喜び悲しみ怒り楽しみを感じることができる。また、心を耕し、豊かにしてくれる。それだけでなく、問題解決の方法を考えられる子を育てていくには、本を読む力をつける事は大切な要素となる。

しかし残念なことに、現代は、読書から離れ、「ほうっておいても読書する。」というような時代ではなくなってしまっている。今ほど、学校教育で読書指導が大切なときはないように思われる。

そこで、学校教育における読書指導を考えたとき、その方法は多々あると思うが、まず、子ども達の身近にある学校図書館に興味を持ってもらうことが大切な要素であると考えた。

一人でも多くの子ども達に魅力的で身近に思える学校図書館づくりを行いたい。そのために、図書委員会の委員が中心になって自主的に活動する場を設定することが、全校に読書の輪を広げることになると考え、この主題を設定した。

II. 研究のねらい

励み 読書記録

子どもを取り巻く読書環境作り 図書館だより、学級文庫

楽しんで読もうとする態度を育てる 読み聞かせ、パネルシアター

学校図書館が来館者を待つのみであったり、本の選択の仕方、読み方や取り扱い方の指導ばかりでなく、図書委員会に自主性と主体性を持たせる運営と、子どもを取り巻く読書環境作りと励みを持たせる工夫を行うことによって、本に興味・関心をいだかせ、本好きにさせ、それによって楽しんで読もうとする態度を育てる。

III. 研究の内容と方法

1. 図書委員会の活動が、意欲的にできるよう委員会の運営を工夫する。

目 標 みんなが、楽しめて本好きになれるような委員会活動をしよう。

委員会の組織

図書館主任	1名
司書	1名
委員	5年生 8名、6年生 8名
委員長	1名
副委員長・書記	各学年1名ずつ

2. 一人ひとりにやりがいがあるよう、自分にあった活動の場や分担をする。

定例委員会

常時活動の反省・計画 年度始、毎学期終わり

常時活動

貸し出し、返却、整頓	月曜日～土曜日
	朝
	タクミタイム（業間休み）10：20～10：50
	昼休み 1：15～ 1：35
	放課後

3. 全校の子ども達が、興味を持って参加できるような集いを企画設定することによって読書に興味関心を持てるようにしていく。

年間活動計画

1学期 ミニ集会・雨の日集会

低学年向け パネルシアター（さる、る、る、る）

ブックトーク（みんななかよし）

全学年向け 人形劇（三匹のこぶた）

2 学期 読書集会

全学年向け OHP を使用しての、民話切り絵劇（猫山）

全学年向け パネルシアター（イグアナレストラン）

3 学期 ミニ集会・雪、雨の日集会

全学年向け 子ども達による創作人形劇（オホホホ）

全学年向け パネルシアター（ブレーメンのおんがくたい）

4. 全校の子ども達が、興味を持って来館できるような掲示の工夫・環境づくりをする
各学級への呼びかけ 図書館だより発行
学級文庫貸し出し（前期後期で各学年で交換）
図書館環境作り 図書室での過ごし方、図書委員のおすすめの本紹介等のポスターの
掲示
5. 図書委員の意見を参考にしながら子ども達の発達段階に合わせた図書の充実をする
図書委員による選本 市立図書館や書店で図書館にない本で興味のわく本があったら、
題名、作者、出版社を控えておく。

以上のような観点で図書委員が活動することにより、全校に読書の輪が広がるであろうと考えた。

IV. 実践事例

本校は、平成4年～6年に学校5日制の指定校になった。その時、実施された全ての学校行事を評価し、それぞれの特質を損なわずに、ねらいを達成できる内容や方法を再検討した。その時期は自主的活動があまりできなかった。そこで、子ども達の心身の健全な発達において、自主的活動は大切な活動であるため何とかその機会を作りたいと考えてきた。

基本的には、外で遊ぶように決めてあるタクミタイム（30分間の休み時間）に、委員会活動などの自主的活動できる日を設けた。雨の日などで遊べない日に委員会活動日に準備したパネルシアターなどを発表した。

1. ミニ集会、雨雪の日集会

(1) パネルシアター

①ねらい

パネルシアターを通して本の楽しさを知らせたり、本に興味を持たせる。

②内 容

「ブレーメンのおんがくたい」「イグアナレストラン」を、歌や楽器の演奏を交えて全学年向きに行った。

「さる、る、る、る」を、低学年向けに行った。

③指導上留意した点・工夫した点

パネルに絵を置きながら、話したり、歌ったりは大変なので、先にテープに録音しておいた。読み聞かせる声の大きさや抑揚に気を付けて、放課後、休み時間に練習を繰り返した。

お話の内容に合うように楽器の種類を選んだりあまり楽器の音が大きくならないように気を付けたり、歌の歌詞がはっきりと聞こえるように注意した。テープの音とパネルの操作が合うように練習した。

④実践に対する評価

とても興味深く見てくれた子が多くいた。「歌がおもしろかった」「もっと見たい」という声も聞かれた。低学年向けの集会にも高学年の児童が多数集まってくれた。

(2)創作人形劇

①ねらい

自分達で、劇の内容を考え、発表することで創作の楽しさを知り、想像の世界で楽しむことができる。

②内容

創作人形劇「オホホホ」

資料別紙

③指導上留意した点・工夫した点

あまり形にとらわれず、楽しくストーリーを考えたり、人形を動かしたりできるよう図書委員の発想を大切にした。動きに集中できるよう台詞をテープに吹き込んで、それに合わせて人形を動かした。

④実践に対する評価

図書委員は、今まで決まった台詞を読むのとは違い、短い話ではあったが自分達の流行りの言葉を入れられたり、発想を生かせたのでとても満足していた。見に来た児童も、話の展開や言葉を楽しみ、発表が終わった後は、人形に握手を求めに集まってきた。

(3)ブックトーク

①ねらい

子ども達の興味・関心のあるテーマを決め、さまざまな価値ある本を紹介することで、本を選ぶ範囲を広げること。

②内容

みんななかよし

紹介する図書	流　　れ
<p>どうぶつのおりがみ （おりがみ・千野利雄 文・小宮山洋夫 絵図・早坂忠之） 岩波書店</p>	<p>皆さんは、動物が好きですか。この本には折り紙で簡単に作れる折り方が出ているよ。いっしょにあひるを作ってみよう。</p>
<p>森のはるなつ あきふゆ （文・岸田衿子 絵・古矢一穂） ポプラ社</p>	<p>皆さんには、なかよしの木があるんだね。なかよしの木と何をしてあそぶの。この頃、なかよしの木のこと、なにか、見つけた事があるかな。この本は、オシギッパという森と仲よくしたら、こんなことが見つかりましたよって教えてくれる本です。どんなことが見つかったのかな。ちょっとのぞいてみましょう。はる、なつ、あき、ふゆ、森で見付かるものが変わりましたね。皆さんの木も変わりますか。うんと仲良くしたら、木のことがわかるようになるね。</p>
<p>はまべには いしがいっぱい （作・レオ・レオニ 訳・谷川俊太郎） ペンギン社</p>	<p>今、森のお話でしたが、皆さんは海に行った事がありますか。海では、どんなことをして遊ぶかな。海には、なにかがあるかな。この本は、海の石となかよしになる本。いろいろな石がでてくるよ。皆さんも、面白い石を見つけてくださいね。</p>
<p>あおくんと きいろちゃん （作・レオ・レオニ 訳・藤田圭雄） 至光社</p>	<p>あおくんときいろちゃんとってもなかよし。二人、会えたのが嬉しくて。あおちゃんときいろちゃんががくっついてあれあれ、どうなっちゃうのかな。とっても、仲良しの二人の話。</p>
<p>なかまはずれ （監修・遠山 啓 安野光雅）</p>	<p>仲間はずれにさせた事ある人いますか。それは、どんな気持ちでしたか。おんなじ人間、友達なのに仲間はずれになるなんて、いやですね。みんなは、仲間はずれしないでね。でもこの本は、仲間はずれを探す本。どうして、仲間はずれなのか教えてね。</p>
<p>ぼくたち また なかよしさ （絵・文 ハンス ウイルヘルム 訳・久山 太市）</p>	<p>さて今日は、「いきものとなかよし」ということでいろいろな本を紹介してきました。いろんな物と仲良しになれそうだね。みんなのまわりにいる友達やおにいさんや妹とも仲良くしてほしいなと思います。</p>

③指導上留意した点・工夫した点

低学年に向けて、友達とも、動物とも、虫とも仲良しになってほしいという考えからこのテーマを選らんだ。文学作品だけでなくいろいろな分類の本もあることを知らせたかった。図書委員の一人の児童で全部を紹介するのは難しいので、本によって紹介者を替えてみた。

④実践に対するの評価

「仲間はずれになっても、また仲良しになるんだね。」という、こちらの意図する発言があった。いろいろな分類の本があったが、全体的にまとまっていて良かった。どの分類の本も、「読んで欲しい。」と言う要求が出たことで、子ども達の発達段階にあっていたと考えられる。実践する委員が替わったことで飽きずに子ども達の気持ちをとらえることができたと思う。

紹介した本	児 童 の 様 子
<p>どうぶつのおりがみ （おりがみ・千野利雄 文・小宮山洋夫 絵図・ 早坂忠之） 岩波書店</p>	<p>始めに、好きな動物を聞いてから、本の中から簡単そうな形である「あひる」を選び、いっしょに折っていった。興味を持って折ったり、目や羽を書き込む子どもが多かった。</p>
<p>森のはるなつ あきふゆ （文・岸田衿子 絵・古矢一穂） ポプラ社</p>	<p>仲良しの木の話をする中で、普段の木についた毛虫や葉の色の変化を見ていることが分かった。ページを追っていくごとに四季の変化が分かるようになっているが、出てくる花、虫、鳥などに興味を持って見ることができた。</p>
<p>はまべには いしがいっぱい （作・レオ・レオニ 訳・谷川俊太郎） ペンギン社</p>	<p>表紙を見たとき、「あっ、顔だ。」と騒ぎ始めた。いろいろな石が出てきたので、「どこかの旗に似ているね。」とか、「ほら、おだんごだ。」など興味深げだった。</p>
<p>あおくんと きいろちゃん （作・レオ・レオニ 訳・藤田圭雄） 至光社</p>	<p>あおくんときいろちゃんも表紙にある、あおくんときいろちゃんの絵に惹かれたらしく、「あおくんときいろちゃん、緑ちゃんもいるね。」という声があった。あおくんときいろちゃんが緑になってしまふところでは、「恋人なの。」とか「結婚したの。」と言う子もいたが、緑になって家に帰っても入れてもらえないところで終わりにしたので、話の続きを知りたがっていた。</p>
<p>なかまはずれ （監修・遠山 啓 安野光雅）</p>	<p>いろいろな種類の絵の中から、どうして仲間はずれなのか考え見つけていく本。自分達の生活の中でも仲間はずれがあるが、良くないと考えていた。</p>
<p>ぼくたち また なかよしさ （絵・文ハンス ウイルヘルム 訳・久山 太市）</p>	<p>自分の大切にしていたカメを妹に捨てられ、怒ってしまう場面は言葉も荒いが、子ども達の感情の高ぶりかたをうまく捉えた本だったので、全部読み聞かせたが、集中して聞いていた。</p>

2. 読書週間の取り組み

年に1回、読書週間を決め学級での取り組みと、委員会での取り組みとして読書集会を行っている。本校は朝8:20～8:30を、朝自習として学習や読書をしているが、特に読書週間では、読書の時間として、本を一冊でも読み切れるように指導した。

(1) ねらい

読書活動をさかんにし、本に親しむ習慣を育てる。

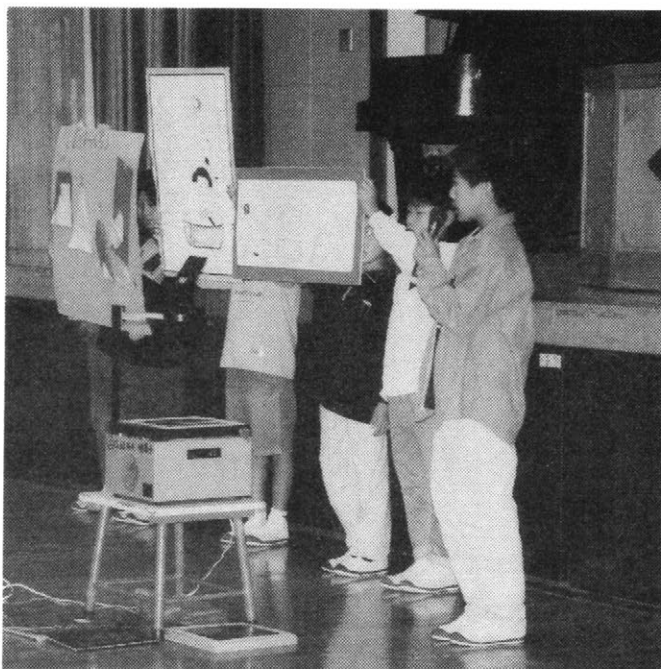
(2) 内容

①各学級での取り組み

- ・朝自習を読書の時間とする。
(8:20～8:30)
- ・読書期間中、担任による読み聞かせや、読み聞かせのテープを聞かせるなどして、読書への興味を高めるような働きかけをした。

②読書記録

今まで読んだ本で、友達に紹介したい本の読書感想画を低学年・高学年それぞれの用紙に書かせて、授業参観(10月13日)までに学級に掲示した。



③読書感想文の優秀作品の発表

給食時の昼の放送で読書感想文の各学年の代表者に読んでもらった。

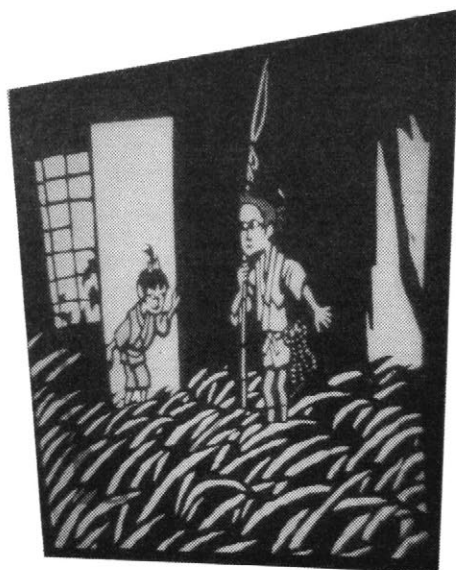
(3)読書委員会での取り組み

①読書集会

日時 平成8年11月7日(木)3校時

場所 体育館

- 内容
1. 始めの言葉
 2. 校長先生のお話
 3. 図書委員長の話
 4. 影絵劇「猫山」
 5. ブックトーク
 6. 多読賞・感想文の表彰



7. クイズの紹介
8. 講評（教頭先生）
9. 終わりの言葉

②しおり作り

読書週間中の放課後、図書館にて希望者が作った。

(4)指導上留意した点・工夫した点

全校児童が対象なので、どの学年も楽しめるような内容にした。日常的発表とは違い全校の児童、教師が集まるので人数も多く、体育館で行うのでよく見えるように、また、よく聞こえるように音声などに注意した。集会を楽しむだけでなく、また、図書館に来館するよう休み時間や昼休み放課後に〈しおり作り〉〈昔話の間違いクイズ〉を用意した。

(5)実践に対しての評価

4月から取り組んだ影絵の発表とあって委員達は、張り切って準備した。影絵劇の評価も高く、化け猫が襲う場面はせりふの読みも迫力があり、作品の良さが伝わった。期間中、来館者も多く、〈しおり作り〉〈昔話の間違いクイズ〉に進んで参加していた。

3. お便り、本の選本、掲示環境作りについて

お便りでは、図書委員が毎月の行事や四季折々に合った本などを紹介したり、多読のクラスや児童を発表して、図書館へ興味を持てるよう働きかけた。また、図書委員が読んで面白かった本などをポスターにして図書室に掲示した。図書委員が市立図書館や、書店で見つけた興味のある本で、学校にない本は次年度の選本の資料とした。図書室での過ごし方本の扱い方等を呼びかけるポスターを作り掲示した。

<p>図書委員会だより 12月号</p> <p>12/25 クリスマス</p> <p>12月どんなつき? クリスマスはイエスキリストのたんじゆびです。みなさんはクリスマスプレゼントに何をもらおうかもう決めましたか?</p> <p>12/31 おおみそか</p> <p>おおみそかは、お正月の前日です。除夜の火をきかせるのが、お正月をむかえる準備です。お正月のために食べるのか、していますか? これは、細く長いことほえんごか、いととれているので、今年もえんごをくじくじするつもりで、食べてほしいです。</p>	<p>★クリスマスの本★ (低学年用)</p> <p>あひちゅんくまのクリスマス</p> <p>きくまのウマンサのおじいさん。またきくまは、世界一大きいサンタクロース。たんだ、どこかそのサンタクロースとついでにあひちゅんくまのてつて?</p> <p>サンタクロースと小人たち</p> <p>この本にはサンタクロースの生活が小人たちといしよにたのしくかかれています。サンタはあひちゅんくまも誘っているんですよ。みなさんはいじょうじ?</p> <p>(高学年用)</p>
<p>12月の冊子</p> <p>★選平次郎の絵本。(花さき山・火の鳥・八咫鳥)</p> <p>★生活編の絵本</p> <p>★ムーミン谷の書</p> <p>★元気のしいムーミン一家</p> <p>以上の本です。読みたい人は図書館へ。</p> 	<p>サンタクロースからの手紙</p> <p>サンタクロースからの手紙を切りぬき絵などをつけて、絵本です。中には北極星からの手紙もかかれています。高学年用の絵本なので、ぜひ読んで下さい。</p>  <p>このほかにも、クリスマスの絵本がたくさんあります。読んで下さい。</p>

V. 研究の結論と今後の課題

図書委員会の自主的活動は、まず、図書委員の子ども達が楽しく活動することが、第一と考え指導してきた。さまざまな活動の中で子ども達から「来年も図書委員会に入りたい」と言う声が多くきかれた。一人ひとりが、意欲的に取り組める場が持てたので楽しい活動ができたのではないと思われる。他の児童達がいろいろな催しを楽しみにしてくれたことで、更にやる気を出して良い活動ができたのではないだろうか。

図書館だよりを出したり、学級文庫をおいたりポスターを貼るなどの子どもを取り巻く読書環境づくりを行ったことで、本が身近な存在になったといえる。図書館に行かない時も、教室でちょっとした時間に本を手にとったり、学級文庫と同じ作者の本を図書館から探してきたりするようになった。また、図書館だよりで紹介された本を図書室に借りに来る子も出てきた。日常の貸し出しカードから多読の子を調べ読書集会で表彰したり、図書館だよりで年間の多読の子を発表することが、大きな励みとなった。

楽しんで読もうとする態度を育てるために、集会でいろいろな形で本を紹介し、本に興味・関心をいだかせるように活動してきた。子ども達は自主参加の集会のときも興味を持って図書室に多く集まってきた。普段は、本好きな子が中心であるが、こうした働きかけの中で、今まであまり来館したことのない子ども達が少しずつ顔を出すようになってきたことは、一つの成果だと考える。

今後、どの子にも読書を習慣にさせていくには、各学級担任の取り組みとしての読み聞かせや、家庭での親子読書など、いつでも本が身近にあるような環境作りをし、読書の輪を更に広げていく必要があると思われる。本年度は、本校の〈母と女性教職員の会〉の取り組みで「王様レストラン」の大型紙芝居の作成発表を行った。お母さんが作ってくれたということで普段とは違う親しみがわき「王様シリーズ」に親子で興味を持ってくれた家庭もある。このように周囲から常に読書に関する刺激を与えていくことが必要である。

今後は委員会活動だけでなく、少しずつ家庭や地域での文化活動の輪を広げ、就学以前から本に親しめるよう家庭や地域に働きかけていきたいと考えている。

「オホホホ」

- ナレーター ある町はずれの林の中に一軒かわった家がありました。「まじょ」の家です。
「まじょ」は、まほうが上手につかえなくていつも失敗ばかりしていました。
「さあ、町へ行って魔法をかけてやろう。町の人々をなまけものにしてやる。」
- ノッポ 「あの映画おもしろかったね」
デブ 「うん、楽しかったね、また見にいこうね」
まじょ 「ヒヒヒヒ、キィーキキキ」
デブ 「なんだあれは」
まじょ 「私は世界一美人のまじょ」
ノッポ 「えーうそ、ちよーブスってかんじ」
まじょ 「なっなんだと、私がブスだって、あんたたち目がわるいとちがう」
「ブンブン、そんなこと言って、だったらお前たちをなまけものにしてやる」
- (呪文) 「いせんせだまや、いせんせたまぬ」
- ナレーター するとどうしたことでしょ。デブとノッポの二人は突然笑いだしました。
ノッポ、デブ 「オホホホ、オホホホ」
- ナレーター まじょは町の人たちをつぎつぎに「オホホホ病」をかけていきました。
お医者さんも
- 医者 「ホーオホホホ」
- ナレーター かんごふさんも
- かんごふ 「ホーオホホホ」
- ナレーター お医者さんもかんごふさんも「オホホホ」病にかかってしまい
直すことができませんでした。(みんな笑っている)
そこへとなり町から「ドロボウ」がやってきました。
- ドロボー 「いったいどうしたんだこの町は」
まじょ 「お前はだれだ」
ドロボー 「おれが、おれはとなり町からきたドロボーさまだ」
まじょ 「まだ魔法にかかっていないのかお前は」
ドロボー 「魔法がどうしたんだ？」
まじょ 「私がみんなに「オホホホ」病の魔法をかけてやったのさ」
ドロボー 「なんだって、悪いやつめ」
まじょ 「お前にも私の魔法をかけてやる」
ドロボー 「そんなことはさせないぞ」 (二人でけんかをする)
まじょ 「ウウウウッ やられた。」
- ナレーター すると急に笑い声がとまり、
- 全員 「私たちどうしたの」
- 医者、看護婦 「あっ私たち魔女にまほうをかけられたんだ」
- 全員 「ドロボーさんが助けてくれたんだ」 「ドロボーさんありがとう」
- ナレーター 「そこへおまわりさんが来て」
- おまわりさん 「おいて、ドロボー」 (全員でドロボーをかばう)
- ドロボー 「じょあな、あばよ」
- 全員 「ドロボーさんがんばってにげてね」「さようなら」
[全員で「オホホホ」と笑う]

おわり

も く じ

中学校団体研究の部

- 図書資料を有効に活かし、自ら学ぶ生徒の育成
神奈川県津久井町立串川中学校 98

中学校個人研究の部

- 生徒の興味、意欲を抱かせる古典指導
広島県福山市立東朋中学校 倉橋 憲子 108

図書資料を有効に活かし、自ら学ぶ生徒の育成

神奈川県津久井郡津久井町立串川中学校

I. 主題設定の理由

現行の学習指導要領において、主体的な学習、個性重視の学習の提唱があり、本校でも「自己教育力の育成をはかる授業実践」を校内研究のテーマに掲げ取り組んできた。そして、自己教育力を主体的に学ぶ意志、態度、能力ととらえ、そうした力をつけるためには、課題解決型の学習が有効であり、個に応じた資料を提供してくれる学校図書館の存在が重要なことがわかってきた。

そこで、図書資料を有効に活用することが、個にあった学習を援助し、生徒一人一人の学習意欲を高め、学習の方法を習得させることができると考えた。また、そうした学習の方法を身につけさせることは、生涯にわたって学び続ける意欲を培い、自立した学習者を育成できると考えた。

以上の理由から上記研究主題を設定した。

II. 研究のねらい

1. 学校図書館は、学習に必要な情報センターとして機能するよう、各種資料の収集・整理に努める。
2. 学校図書館が収集整理した資料や公共図書館の情報資料を活用して、生徒が自ら学ぶ課題解決型の学習展開を考え、実践する。
3. 読書に興味を起こさせる授業や環境づくりを心がけ、読書を生活の中へ定着させる。

III. 研究の内容と方法

1. 図書館資料を活用した授業の取り組み。
2. 日課に位置づけられた読書。
3. 図書委員会の活動を通しての読書環境作り。
4. 図書室利用および読書実態調査。
5. 学校司書のいる図書室の体験。

IV. 実践事例

1. 図書館資料を活用した授業の取り組み。

年度のはじめに、各教科、各領域で図書館資料を活用した授業計画を立て、図書担当で学校全体の図書室利用計画をまとめた。

図書購入もその内容にあったものを検討し、予算を超える場合は、町の図書室等に協力を求めた。

また、図書室の収集資料は、今年度はビデオやCD-ROMを含めて検討した。

平成8年度の図書室年間計画は資料に示すとおりである。

(1) 図書室利用案内－図書室の配架と分類法の指導

生徒が自ら図書室の資料を活用できるようにするには、まず図書室の学校における目的、本の分類のされ方、書架の配置などを大まかに理解する必要がある。年度のはじめに、図書室利用案内の時間を各学級1時間設定し、図書担当から指導を行った。

小学校での学習の上に立っているので、図書室が自分のわからないことを調べる場所であり、読書の楽しみを助長してくれる場所であるということは、体験的に理解されていた。配架のされ方が日本十進分類法によっていることもよく理解されていて、自分の探す本の内容を日本十進分類法の記号で確かめて探す姿が見られた。

利用指導の計画は、学年に応じて体系的に行う必要があるが、現在は図書室を利用する担当教諭に任された形で行われている。

(2) 1年 国語 説明文づくり－目次や索引などの働きと使い方の指導

生き物の不思議な生態を要点をまとめながら知ろうという単元内容であるが、この説明文を参考に生徒自身の興味をもった生物について紹介文を作ることにした。その説明文の材料集めを、目次や索引などの働きを指導しながら、多くの図書資料から行った。

学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点・評価
<p>1. 学習目標の確認</p> <p>2. 目次や索引の働きを知る。</p> <p>3. カードの使い方を知る。</p> <p>4. 図鑑などにあたりその本の特徴に触れる。</p> <p>5. 次時の予告</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自分の紹介する動植物を図鑑などで調べよう。 </div> <p>○『宿がえの名人「ヤドカリ」』の話題の進め方を思い出す。</p> <p>○自分が調べたいことを、本を使ってどうやって調べるかを知る。</p> <p>○自分が調べる本の資料リストを作ってみる。</p> <p>○カードの記入の仕方を知る。</p> <p>○自分の必要な情報を図書からメモする。</p> <p>○情報収集が進んだかどうか自己評価する。情報収集で困った点を記入する。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ・自分の紹介する動植物が決まっている。 〈関〉 (挙手) </div> <p>・調べる本の探し方をまとめたプリントを配布。</p> <p>・調べる項目は生息地、生物学上の種類、体の特徴、行動の性質。</p> <p>・図鑑や百科事典、分類記号4の図書について使い方を知らせる。</p> <p>・まだ調べる動植物がきまってない生徒には、興味がわくものができるように図書を紹介する。</p> <p>・1年生全体が使用する本なので、図書室内で交互に使うようにさせる。</p> <p>・カードを配り、記入の仕方を説明する。</p> <p>・生徒同士相談し合って、調べさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・進んで図鑑等を利用している。〈関〉 (観察) ・自分の調べたい情報がメモできる。 〈検索技能〉 〈理〉 (カード) </div> <p>・本時の調べ学習の評価をする。</p> <p>・次時の内容の確認をする。</p>

②評価と考察

学習状況アンケート結果

対象者数1年135名 実施1996. 7.

1. 調べる動植物は

A すぐきまった	56%
B 図書室の資料を見て決めた	20%
C なかなか決まらなかった	24%
2. 調べる本はありましたか。

A あった (3-4冊)	72%
B 少なかった (1-2冊)	24%
C なかった	4%
3. 調べた本について教えてください。

A よく調べられた	69%
B わからない言葉が多かった	25%
C その他	6%
4. 調べるやり方はわかりましたか。

A わかった	94%
B わからない	6%
5. 調べ学習について教えてください。

A 楽しかった	97%
B 良くない	3%
6. 調べ学習をしてよかったことを書きましょう。
 - 少しは知っていたこともあったが、調べたらもっと多くのことが出てきた。
 - いろんな本を使って調べられた。○自分の好きなものを好きなようにまとめられた。
 - 自分でやりたかった調べができるところ。 ○友達と一緒に調べられた。
 - みんなに教えてもらえた。
 - 作文はきらいだけど、この調べ学習は作文のやり方もだいたいわかった。
 - 調べ方がわかった。 ○調べる力、まとめる力がつけられる。
7. 調べ学習をして困ったことを書きましょう。
 - ・本を見つけるのに時間がかかった。・資料があまりない。
 - ・意味不明の言葉があった。・難しい漢字がいっぱい。・本によって言葉が違った。
 - ・時間がなかった。 ・カードの作り方がわからない。

この授業を実施して、生徒は目次や索引の働きを理解し、自分の必要な資料を意欲的に探し出していた。それはアンケート項目4番、5番、6番によって言えることである。資料が見つからない生徒については、教師が図書室にある資料内容を熟知しないと援助できないと痛感した。しかし、生徒一人一人が自分が設定した課題に取り組むので、作業の進まない生徒への援助が、時間的にも内容的にも適切に行うことができた。情報収集のために用意した情報カードも、これを機会にいろんな場面で気がついたことをメモする習慣につながるとよい。しかし、用意した調べる図書資料の不足を感じた。

(3) 3年 技術・家庭 -おもちゃの製作「簡単な絵本」-

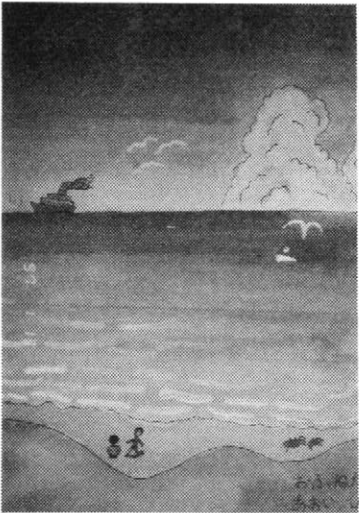
①手作りおもちゃの意義

手作りおもちゃは、幼児にとっては宝物であり、つくり手の心を感じとることができると同時に、自らもつくり出す意欲や物事に打ち込む態度、また、ものを大切にすることを育てていくことにもつながる。そこで、このような意義をふまえて、幼児の心身の発達や望ましい生活習慣形成との関係を理解しながら、身近な資料や材料を使用しながら手軽にできるおもちゃの「簡単な絵本」の製作をした。

②製作計画（6時間扱い）

- ア. 絵本の意義 1時間
 イ. 年齢に適した絵本 1時間
 ウ. 絵本の製作 3時間（本時は3時間目）
 エ. 絵本の発表（読み聞かせ） 1時間

③主な構想と構想図（例）

3年 組 番 氏名		構 想 図
絵本の名前	あかずきん（3～4歳）	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい心を育てる ・文字やことばの楽しさを知る ・本をよむ楽しさを知る 	
製作手順	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を考える ・色をつける ・絵や文を考える ・仕上げをする ・絵や文をかく 	
参考にした資料名	絵本「あかずきん」 その他	
工夫した点	画面の展開方法	
材料・用具	画用紙1枚 色鉛筆 ハサミなど	
感想・反省		

④本時の展開

学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点・評価
1. 前時の確認	○主な構想や構想図が完成しているか確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習内容の確認。 ・構想図などがしっかり把握できているか確認させる。 ・手づくりのおもちゃの意義を確認させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 意欲的に製作しようとしている。〈関心〉 </div>
2. 本時の学習内容	○今日の学習内容は絵本づくりであることを確認する。	
3. おもちゃの製作	○必要な資料、材料、用具などを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙を各自1～2枚各班に配布する。 ・その他必要な用具、材料の確認 ・班員が協力し合うようにする。 ・参考資料として見本の絵本を用意しておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の条件を確認させる。 子どもの発達に適している 内容が健全で明るい 色彩が美しく文字が正しい <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 作品に創意と工夫をしながら作業をしている。 〈創意・工夫〉 </div>
「簡単な絵本」の製作	○原案にそって作業を手順よく進められるよう考えて作業に入る。 全体の配置→原画→配色→仕上げ	
4. まとめと次時の予告	○作品を提出する。 ○自己評価カードに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ていねいに仕上げさせる。 ・次時は作品の発表をすることをつける。

⑤評価と考察

男女共修での保育領域は以前と比べて、それぞれが認め合い、助け合いながら学習が進められるようになってきた。おもちゃの「絵本」の製作でも、優れた絵本を参考資料に提示することによって、男女が共に興味・関心を持ち、自分なりの創意工夫をして製作することができた。製作発表会では、他の生徒の作品を鑑賞しながら、「今度製作するときはもっとがんばりたい」という意欲的な意見も多かった。今後は「絵本」のもつ良さやすばらしさをさらに深く理解させ、常に身近に接することができるように指導していきたい。

(4) 1年 保健体育 二次性徴の発現 -小グループによる課題解決学習-

中学生期は、心も身体も大きく変化する時期である。思春期における男女の体つきの違いも、かなりはっきりと現れてくるようになる。これは、生理面、心理面にどのような特徴が現れてくるか、二次性徴の発現はなぜ起こるのか、それが人間にとってどのような意味があるのか、また自分たちの中に起こりつつある変化が、新しい生命誕生にとってどのように関係しているのかを理解させる単元である。

この内容は、中学生にとって、大変に興味・関心が高い内容である。しかし、興味本位だけで正しくとらえられなかったり、思春期の心身の変化に悩んでいる生徒も多い。心身の変化は決して恥ずかしいことでも、特別なことでもないことを一人一人に理解させるためにも、自ら課題を持ち、調べ、解決していく、小グループによる課題解決学習を取り入れた。

3～4人のグループに分かれて、二次性徴の分野で、教科書または日頃から疑問に思った点、興味・関心を持った点を取り上げ、それを図書室・保健室の資料を活用して調べ発表を行った。

発表課題例	下垂体はどのように体にはたらきかけるか ホルモンとホルモンの作り出される場所 男子と女子の体の違い 思春期での成長のしかたの違い 思春期の心理的な悩み 射精や月経の起こり方と生命誕生 男女の性器の違い 子宮内膜 子供から大人への成長の仕方と違い
-------	--

①評価と考察

それぞれのグループが課題を持ち、意欲的に取り組んでいた。今までは教わるだけの学習だったのに対して、今回のような学習形態を取り入れ、進んで資料を開き調べる姿が見られた。また、教師側に自分が興味を持っていることや疑問に思っていることを質問したり、自らの心身の悩みを相談にくるなど、生徒一人一人個に応じた学習ができたことを感じた。調べるための資料は、関連する多様な資料があればあるほど、多様な課題の解決に対応できることになるので、もっと多くの資料が欲しい。

2. 日課に位置づけられた読書の効果

「朝の読書が奇跡を生んだ」(高文研出版)に啓発されて、1学年、2学年では毎日8

時35分より8時45分の間、生徒だけで朝読書に取り組んでいる。ねらいは、本に親しませることで豊かな心を育て、本を介して友達の輪を広げることにある。本は生徒の読みたい本（マンガ、雑誌を除く）を図書室で借りたり、家から持参して用意している。

本の情報交換は、生徒一人一人が学期に一回、廊下壁面におすすめの本の掲示物を作って行っている。教師側からは、授業でブックトークをしたり、「先生の薦める本」をお昼の放送で流したり、図書室の本を課題図書に指定するなどして本の紹介をしている。学級では、学級担任が自ら本を持ち寄ったり、生徒が本を持ち寄るなどして学級文庫が設置されている。

この取り組みの効果は、アンケートによって次のような数字で示された。「最近1週間で何時間ぐらい本を読んだか」を1年から3年まで尋ねると、「読まない」と答えた3年は51%、1年2年は大差なくほぼ12%となった。「2時間以上」と答えた3年は14%、1年2年は25%。さらに、本をマンガ本に置き換えると「2時間以上」と答えた3年は50%、1年2年はほぼ30%となった。これは読書の間を学校で設定した成果だと思われる。また、読書が学校の中で自然なものとなり、朝に限らず、自習時間や昼休みなど寸暇を惜しんで読書する姿を見かけるようになった。

次に掲載するのは、取り組みに対する生徒の感想である。

前より本を読むのが好きになった

はじめ、聞いたとき、やりたくないなあって思いながら、始めた。でも、読んでいくうちに、いろいろな本にあえた。1学期もかかって読んだ本は、とても感激した。今では、もう朝読書は嫌いじゃない。大好きだ。友達から紹介してもらった本を読むと楽しくなった。それで私もおもしろい本を紹介する。また、私は本のおもしろさを知った。今では、毎日図書室へ通っている。

読書で心をおちつかせる

この朝読書、私にとってはとても幸せなひとときです。朝読書で心をおちつかせて一日がスタートできるし、部活や勉強で本を読む時間などほとんどなくなってしまっているので、ほんのわずかな時間といえど、本が読めるのはありがたいです。

本との出会いの場になった

去年朝読書に読む本を探して、その時小説を見つけたんだけど、それから小説がおもしろく感じて読めるようになった。その小説を見つけた頃から朝読書がかなり好きになりました。それまでは堅い内容の本しか見てなかったから自分でも意外でした。

V. 研究のまとめと今後の課題

1. 課題解決型学習について

- (1)課題の持たせ方 …… 課題解決型の学習を行う場合、生徒一人一人が自分で解決しようとする課題が設定できるかが学習の流れを決める。その設定段階まで教師はどんな手だてを行うかといえば、教師側が教材研究を充分に行い、一斉授業で基本的な事項を確認した上で生徒の疑問点をもとに課題が設定される。この展開は一斉授業で見えにくかった生徒一人一人の思考の過程がつかみやすく、援助も個々に合わせて具体的にでき、行き届いた学習が保障できる。また、学習の達成感があり、学習の方法も理解されやすい。
- (2)資料について …… 教科書以外の資料を活用して課題解決する利点は、限られた情報量の教科書に比べて、格段の情報量を提供してくれるということはもちろん、生徒が本の難易を自ら選び、学習できることにある。しかし、そうはいても教師が授業で使用する資料の内容を熟知していないと、個にあった資料アドバイスはできない。また、生徒の情報検索能力を高める指導が必要となる。難しい専門用語を意味もわからず丸写しにして、課題解決したと思わせないためにも、情報検索能力を高める指導が必要になってくる。

現在課題解決の資料は自校の図書室だけでは数が足りず、町の図書室の資料協力を受けているが、許可されている貸出冊数では足りない。また、本の運搬やネットワーク化など改善の余地がある。

- (3)時間数について …… 課題解決型の学習は、課題設定、解決、発表と生徒の思考を大切にするために一斉授業に比べて時間がかかる。そのため年間計画作成時に計画的に組み入れる必要がある。
- (4)評価について …… 課題解決型の学習は生徒の独特なアイデアや発想を引き出すのに適している。したがって、評価は生徒が1時間ごと進捗について自己評価したり、教師が課題解決の過程を詳しく記録するなどして、評価の観点を多く持つことが必要である。

2. 検索技術の向上

資料を活用しながら課題を解決していく学習は、学習意欲や読書意欲を高める点において、大いに効果があった。さらに、情報資料の検索能力を身につけた生徒を育成できるように研究に励みたい。

学校図書年間指導計画

	図書室月別目標	学校行事	教科図書室利用 学年 教科名 指導者 指導単元	委員会活動		備考
				常時活動 〔日〕・書架の整理・貸出返却事務・利用サービス 〔月〕・図書だよりの発行・利用状況調査・破損図書修理		
				めあて	活動の内容	
一期	4 学校図書室の 利用方法の理解	入学式・始業式 新入生歓迎会 身体測定	・全学年図書室内 ・1年朝読書おすすめ の本紹介	・図書室の決まりや係の仕 事の内容を知ろう。	・組織作り ・仕事内容の理解 ・貸出開始 ・年間活動計画の立案	
	5 利用しやすい図書室とし ての整備をする。	中間テスト 1年遠足	・2年美術版画下絵探 し ・2年国語短歌調べ学 習	・利用しやすいように図書 室を整備しよう	・図書購入希望調査 ・学校司書アンケート ・購入図書の決定と発注 ・パネルシアター制作開始 ・ビデオ上映	
	6 推薦図書による利用のす ずめ	英語暗唱大会 2年野外研修 3年修学旅行	・2年国語漢字の成立 ち ・1年社会世界の国々 人々の生活 ・2年国語漢字の成り 立ち	・推薦図書づくりをしよう	・学習利用図書コーナーづく り・生徒から読書紹介用ア ンケート ・図書の受け入れ、PR ・ブックトーク、お昼の放送 開始	
	7 夏休みのための読書指導	期末テスト 大掃除 終業式	・1年国語宿がえの名 人説明文づくり ・1・2・3年読書感 想文の書き方 ・2年国語戦争・平和 について	・夏休みの読書をすすめよ う	・いろいろな本の紹介（壁新 聞などで、アンケート結果 や新着図書の紹介） ・他校の図書館見学	
二期	9 夏休み読書状況のまとめ と図書室の整備	始業式 運動会 校内意見発表会 〈読書感想文審 査会〉	・全学年意見発表会の 資料集め ・全学年情報検索の方 法指導	・夏休み読書の状況を把握 し図書室の整理をしよう	・返却事務及び統計 ・読書感想文コンクール校内 審査	
	10 読書範囲の拡大 「全員利用を目指そう」	中間テスト 文化祭	・1年国語ことわざ調 べ ・1年国語 ベンチ ブックトーク	・読書感想文入選作品の紹 介をして、読書範囲を広 げてもらおう	・パネルシアター発表 ・文化祭図書館まつり ・利用状況統計表 ・図書購入調査	
	11 読書週間にちなんで 「全員利用を目指そう」	期末テスト	・2年国語古典調べ学 習 ・1年保健二次性徴の 発現 ・3年保育絵本づくり	・読書週間の企画をしよう		
	12 冬休みのための読書指導	大掃除 終業式	・2年国語地球環境、 環境問題調べ ・2年保健二次性徴の 発現	・利用状況のまとめと反省 をしよう	・冬休み読書の紹介 ・地域の図書館訪問	
三期	1 図書室の整備	始業式 書初め展	・1年国語故事成語調 べ ・2年国語ピーターラ ビットとナショナル トラスト ・1年社会EU諸国	・書架の整理をし、蔵書点 検をしよう	・分類別書架の整理	
	2 推薦図書による利用のす ずめ	期末テスト	・2年国語郷土調べ	・書架の整理をしよう	・図書購入調査	
	3 利用状況のまとめと整備	3年生を送る会 卒業式 学習状況調査 大掃除 修了式		・利用状況のまとめと反省 をしよう	・年間利用状況のまとめ ・利用についてのアンケート 調査と反省 ・未返却図書の督促	

生徒に興味、意欲を抱かせる古典指導

～古典学習における集団読書および図書の利用～

広島県福山市立東朋中学校

倉橋 憲子

I. 主題設定の理由

教員になって以来今日まで、読書指導あるいは学級経営、生活指導の一環として読み聞かせや集団読書を導入してきた。自分がおもしろいと感じたり、感動したものをテキストとして利用してきたが、読書の苦手な生徒に読書のおもしろさや楽しさを味わわせ、全員の意識を高めるにはこれが一番効果的ではないかと考えている。又、共通の感動を味わわせることができるというメリットもある。

今迄は「心を耕す」ということに主眼をおいて図書を利用してきた。子どもの心を育て、読書離れに歯止めをかける、さらには読書のおもしろさを味わわせることが生涯学習の基礎をも培うことにつながるの思いもあり、積極的に試みてきた。これからは調べ学習、特に古典学習の一助として利用していきたいと考えている。

生徒は中学生になって初めて本格的な古典に出会う。その出会いの成否がその後の古典学習に大きく影響するのではないかと考えられる。古典は時代を超えて愛されてきた作品である。その大きく豊かな世界は汲めども尽きない魅力をもっている。すばらしい「古典との出会い」は生徒の学習意欲を刺激し、さらに奥深い古典の世界へと誘う大きな力となるであろう。

しかし、実際には2、3年生になると、むしろ「古典は難しい」とか「分からない」「面白くない」といったいわゆる「古典嫌い」の生徒が多くなってしまふ。これは、慣れない古語や歴史的仮名遣いへの抵抗とともに、解釈や文法に片寄り、古典のもつ魅力とかおもしろさを引き出す事のできなかつた貧しい授業の故ではないかと反省している。

そこで、「古典との出会い」を大切に、集団読書や読み聞かせ、さらには調べ学習などを通して、多彩な資料を活用し、「古典でおもしろい！」と感じさせる授業を実践したいと考え、上記の研究主題を設定した。

II. 研究のねらい

「古典学習への興味、関心を育て、自ら進んで学習し、読書する生徒を育てる」ことを主眼とした。

集団読書で「本はおもしろい」と感じた生徒は自ら求めて本を読むようになる。同様に「古典はおもしろい」と感じた生徒は自ら求めて古典関係の本を読むようになるのではないか。

私自身、三年生担当の一昨春秋、タイミングよく配刊されてきた「マンガ日本の古典25巻『奥の細道』中央公論社」に触発されて陸奥への一人旅を思い立ち、平泉の金色堂、高館、封人の家、山刀伐峠、立石寺と芭蕉の足跡をたどった経験がある。矢口高雄さんの一木一草にまでこだわった精密な絵と詳細な解説がすばらしく、魅力的な一冊であった。それを機に原典や参考図書を読み返したり、他の古典作品に出会うことができた。古典の中に息づく人々の思いに感動し、「古典でおもしろいな」と素直に感じる事ができた。

現在1年生を担当しているが、彼等に初めて出会う本格的な古典「竹取物語」を印象深く学習させたいと考えている。幼い頃「かぐやひめ」として慣れ親しんだ物語ではあるが、SF的な発想やユーモア感覚、しっかりとした筋立て等、色あせることのない魅力にあふれている。又、原文に触れることは、彼等の知的な好奇心を刺激すると共に、新鮮な驚きを与えることであろう。その新鮮な出会いを大切に、自ら学ぶ意欲へと高めたい。そこで、まずは、補助教材として魅力的な一冊を検討し、集団読書用の資料としてクラス分準備、活用し、古典学習への興味、関心を育てたいと考える。さらには、他の古典作品や参考図書、できれば原典への意欲をも育てたいと考える。

III. 研究の内容と方法

1. 研究の内容

- (1) 古典学習に対する生徒の意識についての把握
- (2) 読み聞かせ用図書、集団読書用図書、参考図書の選書と決定
- (3) 集団読書用図書の効果的な利用方法についての考察

2. 研究の方法

①国語科授業における図書資料の活用

- ・導入あるいは発展教材としての集団読書用図書や参考図書の利用

②図書資料利用状況の把握

IV. 実践事例

「竹取物語」

単元名 古典との出会い

単元目標 昔の文章に出会い、現代とのつながりを考える。

教材名 蓬萊の玉の枝（「竹取り物語」から）

目標①多彩な図書資料を活用し、興味、関心を抱かせる授業とする。

②読みを中心とした授業とし、暗唱にまで高める。

③現在と異なる点、現在と共通する点（人間の生き方、生活感情）について考えさせる。

④歴史的仮名遣いや難解な語句についての指導上の工夫。（フラッシュカード等の利用）

生徒について

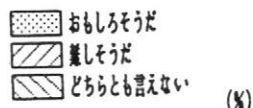
本校の一年生は現在までに学年読書や全校読書、授業でも集団読書や絵本の読み聞かせを経験している。学校図書館もよく利用しているが、個々の読書量、読解力にはかなりの差がある。

一学年8クラスという大規模校ではあるが、生徒は明るく、素直で、知的好奇心もある。しかし、自ら求めて学ぶという姿勢にはやや乏しい。担当クラスは4クラスであるが、今回の授業を通して学習意欲、読書意欲の向上に期待している。

古典に対する意識調査

古典に対しては5～7割の生徒が「難しそうだ」と感じている。

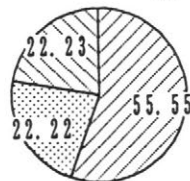
（意識調査は10月実施）



1. 読み聞かせ用図書、集団読書用図書、参考図書の選書と決定

視点・原文に忠実であるもの

- ・分かりやすく、生徒の興味、関心をひくもの
- ・生徒の学習理解を助け、利用しやすいもの



選書対象図書一覧

書名	著者名	出版社
①「少年少女世界文学全集24 竹取物語 古事記」	新川和江	学研
②「新潮日本古典集成 竹取物語」	校注 野口元大	新潮社
③「日本古典文学3 竹取物語／土佐日記／伊勢物語」	桜井祐三	さえら書房
④「わたしの古典3 大庭みな子の竹取物語／伊勢物語」	大庭みな子	集英社
⑤「新装少年少女世界名作全集42 竹取物語」	宮脇紀雄	ぎょうせい
⑥「絵で見たのしい古典② 竹取物語」	指導 萩原昌好	学研
⑦「竹取物語 全注釈」	上坂信男	講談社学術文庫

⑧「竹取物語 星新一訳」	星 新一	角川文庫
⑨「竹取物語 伊勢物語」	北杜夫 俵万智	講談社
⑩図説 日本の古典5「竹取物語、伊勢物語」		集英社
☆⑪絵本「かぐやひめ」円地文子・文 秋野不矩・絵		岩崎書店
⑫「コミックストーリー①竹取物語」監修 長谷川孝士 漫画 岩沢由美		学校図書
⑬「くもんのまんが古典文学館 竹取物語」監修 平田喜信 漫画 岸名沙月		公文出版
⑪読み聞かせ用テキスト	⑫集団読書用テキスト	

上記の図書を俎上に載せ、比較、検討し、集団読書用の図書として適切と考えられる③⑧⑨⑫⑬の図書の中から、特に「全員が利用しやすいもの」「原文との比較があるもの」という点に重点を置いた結果、集団読書用テキストとしては⑫に決定することとした。絵本⑪は読み聞かせ用テキストとして利用することとした。これは、幼い頃の記憶と重ねることによって教材に親近感をもたせたいと考えたからである。学習マンガを採用したのは上記の理由の他に、当時の風俗、習慣を掴みやすく、イメージを膨らませやすいと考えたからである。その他の図書は参考図書として利用することとした。

2. 集団読書用図書の効果的な利用方法についての考察

まず、生徒が集団読書用図書を効果的に利用し、さらに他の参考図書や原典にまで読み進めるようにするためにはどうしたらよいかと考え、レポートの作成を考えたが、①個人的な作業であること②今までにレポート作成の経験がないこと③指導者の力量不足のためかえって古典嫌いをつくるのではないかな等の理由により他の方法を考えることとした。

次に思い付いたのが紙芝居の製作である。これならば①共同作業であること②3時間位で製作できること③班で協力しながら、楽しんで作業できること等が想定される。そこで、「日本でひとつしかない紙芝居」と銘打って事前に場面分けしておくこととして指導計画を立てた。

(1) 指導計画（全14時間）

I. 絵本を読み、古典の世界への導入とする。	1時間
II. 集団読書用テキストを読む。	1時間
III. 授業「蓬萊の玉の枝」「竹取物語」より	5時間
IV. 教材用ビデオを見る。	1時間
V. 授業や絵本、集団読書用テキスト、ビデオをもとに意見を述べ合う。	1時間
VI. 「日本でひとつしかない紙芝居」の製作	4時間
VII. 各班毎に作品発表、相互評価、感想	1時間

(2) 指導経過

絵本の読み聞かせ

教科書に入る前の段階で各クラスで読み聞かせを行った。絵本は、古典「竹取物語」を身近なものと感じさせるのに役だったようだ。一度の読み聞かせではあったが、約一割強の生徒が最も印象的な副教材として挙げている。

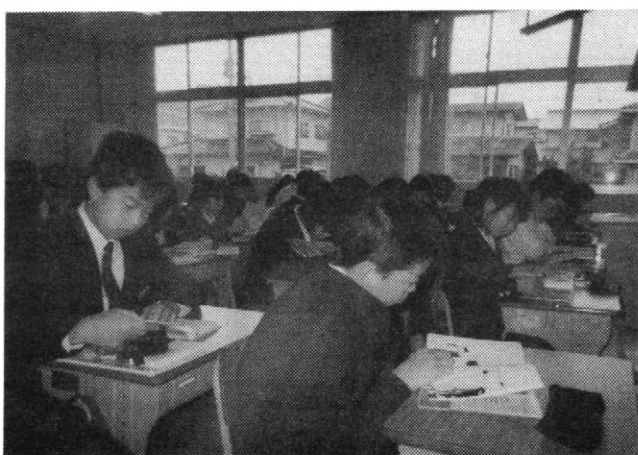


最も印象的な副教材は何か

集団読書用図書	81%
絵本	13%
便覧	3%
ビデオ	3%

集団読書

各自一冊ずつ持ち、黙読という形で進めていった。生徒達はテキストを手渡すや否やたちまち「竹取物語」の世界に引き込まれていったようだ。どのクラスの生徒も熱心に読んでいた。授業の進度の関係で紙芝居製作の2クラスは導入段階で、他の2クラスは発展教材として取り扱った。導入段階で取り扱ったクラスは教材への抵抗感が少なくスムーズに授業



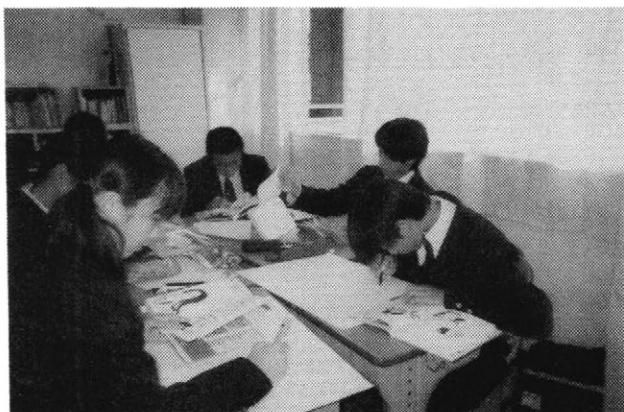
が進んだように思う。紙芝居製作への意欲付けともなったようだ。発展教材として取り扱ったクラスの生徒の感想には、「とても楽しかった。」「他の古典作品も読んでみたい」というのが多かった。

- ・文だけで読んでもとても楽しいんだけど、マンガがあると分かりやすく、昔の様子、生活のしかたなど、いろいろ分かりました。竹取の翁は竹の中から姫を見つけたけど本当の子供のように思っていたんだと思います。最後の別れる場面では、文より絵の方が気持ちがよく伝わってきました。他の古典の本もたくさん読んでみようと思いました。
- ・古典でおもしろいなあ。次は源氏物語が読んでみたいです。
- ・私は本を読むのが苦手だったんだけど、これはまんがで読みやすかった。「竹取物語」だけではなく他の古典シリーズも読んでみたい。
- ・特に、5人の貴公子の性格がよくわかって楽しかった。まだまだ、意味のわからないところがたくさんあるので、自分から進んで勉強してみたいと思う。

紙芝居の製作と発表

様々な図書資料の活用を目的として、取り組んだ。

「日本でひとつしかない紙芝居『竹取物語』を作ろう！」と生徒に呼びかけたところ、非常に反応が良く、「いつからするん?」「早くしよう!」と楽しみにしていた。国語の授業としては3~4時間しかとれなかったため、放課後遅くまで残って作業する姿が見られた。作業する過程では集団読書用のテキストや便



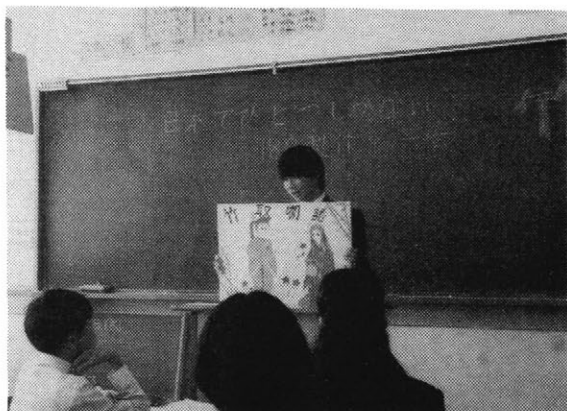
覧が一番良く利用され、その他の参考図書は今一つの感があった。しかし、⑨⑩等は、「先生貸してください。」といて、家に持ち帰り、読んでくる生徒もでてきた。紙芝居「竹取物語」は12場面構成とし、一班が2場面を担当した。※留意点 原文を必ず一ヶ所引用すること



表紙 「竹取物語」(成立年代、作品紹介)

- | | |
|----------------------|---|
| ① 竹の中から生まれたシーン | 班 |
| ② 美しく成長したかぐや姫と五人の求婚者 | |
| ③ 石作りの皇子 | 班 |

- | |
|-----------------|
| ④ 庫持の皇子 |
| ⑤ 右大臣阿部のみうし |
| ⑥ 大納言大伴みゆき |
| ⑦ 中納言いそのかみのまろたり |
| ⑧ 帝の求婚 |
| ⑨ 月を見て嘆くかぐや姫 |
| ⑩ 昇天 |
| ⑪ 帝の嘆き |



紙芝居を鑑賞しての感想

・紙芝居を作っている時は自分達のしか見ていないので、“本当にこのクラス全員のが、ちゃんとつながるのかな”と思っていましたが、今日のを聞いて“バッチリだ!”と思いました。協力すれば紙芝居だってなんだって作れるような気がしました。今までは古典と聞いてもピンとこなかったけど、今回紙芝居を作って古典の楽しさを知り、とてもためになりました。

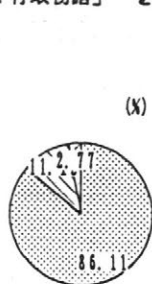
・本当にひとつしかなかったと思った。東朋中全員の先生に見せたいほど良いです。

・みんなそれぞれによく工夫していて、楽しく見たり聞いたりできた。例えば、効果音を付けたり、セリフの部分を読む人を変えたりとかしていた。古文が入っているのもおもしろかったし、今まで見たことのない紙芝居を見ることができて良かった。特にかぐや姫の着物を和紙などで貼ってあったところがきれいで良かったと思う。



〈完成した紙芝居をバックに喜ぶ生徒達〉

「竹取物語」を学習しての感想



(X)

〈面白い理由〉

- ・ 物語の内容（竹の中に女の子がいた点、五人の求婚者達の苦労や失敗、冒険談、結婚の条件、難題、月に帰る姫、昔の人々の考え方、気持ち等）
 - ・ 古文（言葉の響き、リズム、言葉遣い、仮名遣い、暗唱特に「けり」と「ける」の使い分け等）
 - ・ 紙芝居の製作 ・ 学習漫画
- 〈嫌な理由〉 ・ 古文

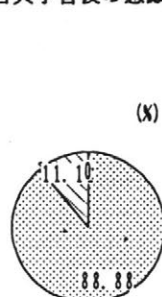
V. 研究のまとめと今後の課題

古典学習の中でも特に「竹取物語」に焦点を当て、「古典はおもしろい」と思わせる授業を展開することで次への学習意欲、読書意欲を図りたいと考えたが。又、「故事から生まれた言葉」「百人一首」でも※集団読書用テキストを利用し、それぞれコンピューターゲーム（他校の先生が開発された故事成語のゲームソフトを使用）や源平合戦と組み合わせて授業を行い、百人一首大会（97.1.10 実施）をもって一応、古典学習の終了とした。

※「学習漫画 中国からきた よくわかることわざ事典 村松一弥編集 集英社」

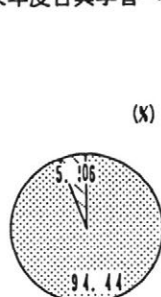
※「百人一首をおぼえよう 佐々木幸綱編著 さ・え・ら図書館」

古典学習後の意識調査



(X)

来年度古典学習への意欲

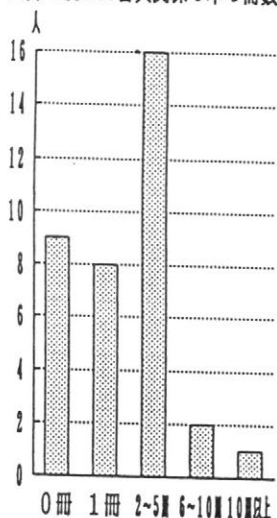


(X)

授業の時以外に自分で読んだ古典関係の本

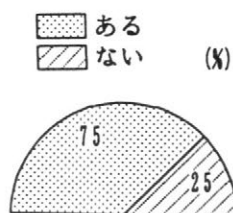
ある 27人 ない 9人

自分で読んだ古典関係の本の冊数



合計冊数 75冊

内訳 「竹取物語」	6冊	「雨月物語」	4冊
「源氏物語」	10冊	「今昔物語」	3冊
「枕草子」	8冊	「伊勢物語」	3冊
「平家物語」	6冊	「古事記」	3冊
「奥の細道」	6冊	「徒然草」	2冊
「御伽草子」	5冊	「古今和歌集」	1冊
故事成語に関する本	1冊		
百人一首関係の本	17冊		



(抽出クラスは担任クラス 生徒数36名 97.1.10実施)

成果と課題

古典学習に対する生徒の意識の高まりを、まずは成果としたい。特に、特別な時間をとることができなかったにもかかわらず、約8割の生徒が実に多方面にわたる古典関係の本を自ら求めて読んでいたことは大変嬉しい。又、定期テストに於ける学習の定着度にも目を見張るものがあった。興味、関心を育てること、「楽しい」「おもしろい」と感じさせることが学習意欲読書意欲の基礎であると今更の様に思う。

全員の意識を高める読み聞かせ、集団読書+α(紙芝居の製作などの共同作業やゲーム感覚を取り入れた学習)が古典学習においては有効であり、それは同時に、調べ学習や読書意欲の向上にもつながると言えよう。

しかし、今回の古典学習において、内容的な深まりに欠けた点、きめ細かい指導や調査ができなかった点は、指導者自身に力不足と反省している。

今後の課題としては①この意識の高まりを2年生でどのように深めていくか、②古典学習において調べ学習をしむための日々の授業の在り方、③魅力的な図書資料の発掘、紹介、④公共図書館との連携等、いくつもある。これからも継続して取り組んでいきたい。

それは同時に、調べ学習や読書意欲の向上につながると言えよう。